

324-153

# Religions of the World

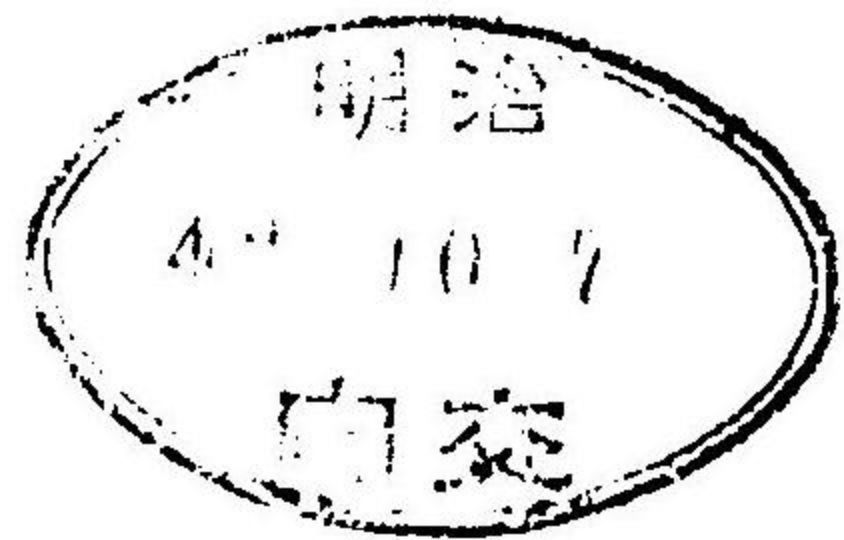
By Prof. Grant

Translated by Rev. Kinosuke Shiraishi

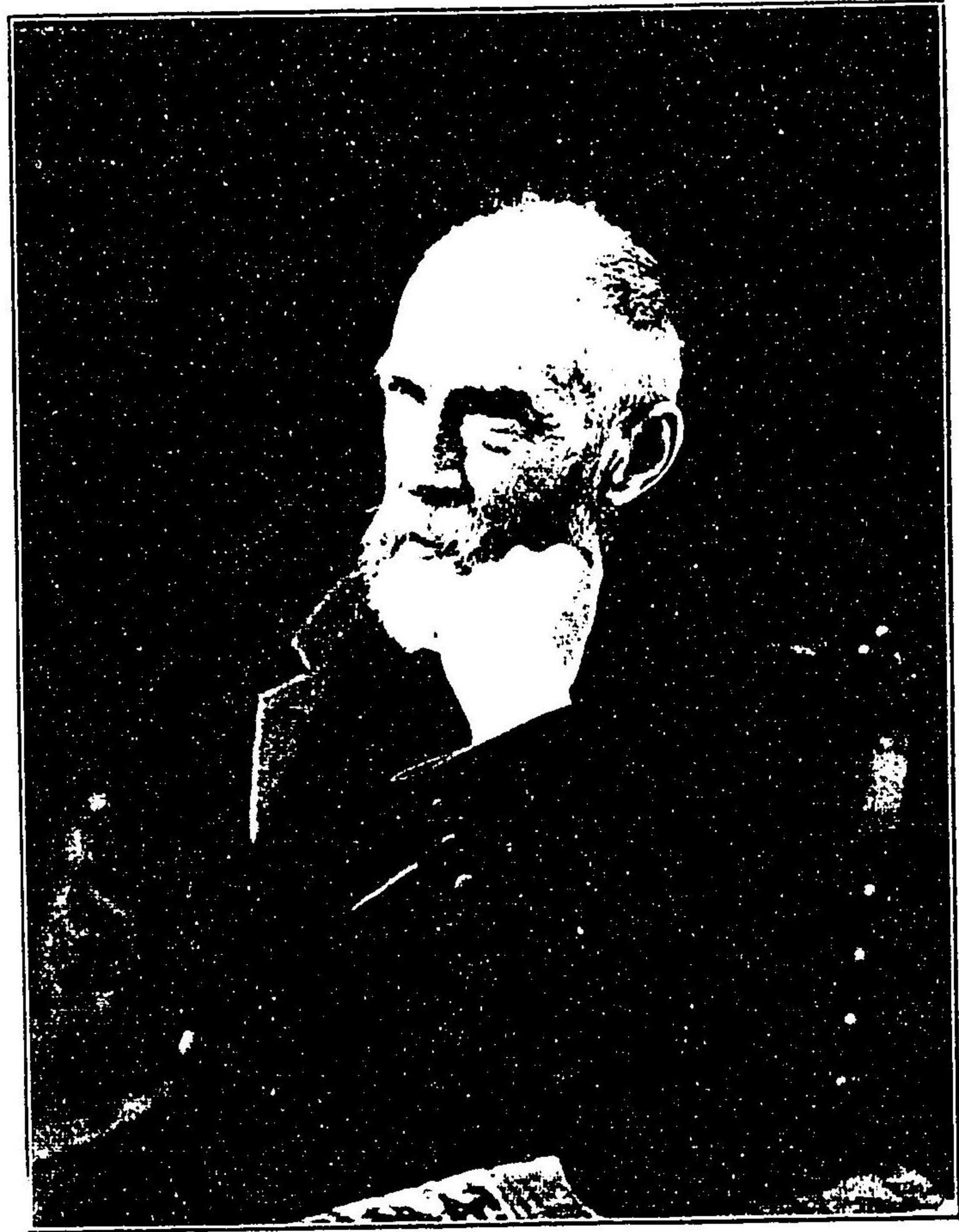
## 世界の諸宗教

(宗教の比較研究)

加奈太クインヌ大學總長グラント博士原著  
白石喜之助譯







士博トシラグ



著者の序文

此書は予が曾て聖書研究會の爲めに現時に残存する非基督教なる諸大宗教の概略を示さんとして物したる「基督教と世界の諸宗教」てふ教科書に増補を加へたるものなり、本書中にありてはタルモット教、デニ教、神道、パリサイ宗は之れを論述せず、蓋し是等の宗教は猶ほ今日に残存して種々の理由によりて著名ならざるに非ずと雖唯だ人類中の一小部分のみが信奉するに過ぎず、加之是等の諸宗教は已に其任務を終はりて永遠の眠につきつゝある事明らかなればなり、今夫れ實際基督教と同じく文化的國土を分割して其勢力範圍を定むるの宗教を枚舉すれば曰く回々教、曰く印度教、則ち波羅門教、曰く佛教、曰く支那固有の宗教、是れなり、顧ふに佛教を外にしては是等の宗教が有すと自稱する信徒の數は略ぼ大差なきが如し、即ち是等の諸宗教が各自に有すと自稱し得べき信徒の數は或學者輩に従へば五億萬人にして他學者輩に従へば一億萬人以下に過ぎず、此兩極端の中前者の勘定は有らゆる支那人を包括するものにして不當なる臆断たるを免かれず何となれば



支那國には五千萬人以上の佛教徒ありや否やは疑問の存する所なればなり且つ殆んど總ての支那人は佛寺道寺に參拜すと雖自らは儒教徒なりと自稱す。今若し非基督教的宗教を其信徒の數によりて排列せば儒教は第一にして殆んど二億五千萬人、印度教は次位にして二億萬人、回々教および佛教は各一億五千萬人以上、道教は五、六千萬人を有するの割合なり、基督教國は殆んど五億萬人の現存者を有す而して此計算たるや正確なるものにして規則正しき統計に基くものなり、此書の前身たる前述の教科書にありては基督教ならざる諸宗教の觀察評價は基督教を完全なる宗教なりと信じ従て之れを他宗教の價値を吟味するの標準なりと信する人の立場より判定し來りたるものなり、然かも基督教其物に關しては他宗教と同じき經路に沿ふて——即ち其聖書、其開祖の人物、其情神的内容、其成功、失敗、豫望に關して——論述する所あらざりき本書は此欠乏を満たしたり、但し其結果として前に感じたる困難——問題は廣大にして之れを論ずる紙數の狭小なる事——は更に適切に感せられたり、心ある讀者は著者が些かの制限内に詳細の議論を爲すの不可能なりしを諒知せらるゝなるべし、實に著者は種々の論點を

## 世 界 の 諸 宗 教

## 世 界 の 諸 宗 教

隈なく論議し其詳細を議事録と争ふ程の事をなし能はず、例せば著者は孔子と老子の會見の事實が或批評家輩の疑ふ所たるを知る、彼は又他の批評家輩が佛陀は想像的人物に過ぎずと宣言するを知る、多くの批評家がアブラハム、イサク、ヤコブの歴史的人物なりしや否やを懷疑するを知る、と雖然かも之れを論述する能はず、予は唯だ著大なる事實のみを撰出して自ら中心的眞理なりと信する所のものを記述するを以て満足せざる可からず、外形に關する議論の如きは措て問はず、而かもかの器械的破壊的に過ぎざる批評に關するゲーテの偏頗なれども意味深き言辭に對しては勿論相當の尊敬を拂はずんばあらず、ゲーテ曰く、近來まで世界はラクレチア及びムシアシケケラの武勇を信じ此信仰によりて熱せられ鼓吹せられんと欲したり、然れども今や汝の歴史的批評は出で來れり而して此歴史的批評は曰くかゝる人々は曾て存在したる事なし之れ羅馬人の大思想によりて案出せられたる寓言、小説の類に過ぎずと果して然らば吾人はかゝる憐むべき眞理に對して何をか爲さん若し羅馬人にしてかゝる物語を發明する程偉大なりしならば吾人は少くとも是等の物語を信する程偉大ならざる可からずと。



或は本書に比較宗教學に關する諸書の目録を掲げ以て面倒なる斯學の研究を事とする人々の便に供すべしとの注意なかりしに非ず、こは予にとりて容易の事なりと雖も必要なかるべしと思はる何となれば或讀者に恰好の書物は他の讀者には不向のものなるべければなり、唯だ茲に一言し置くべき事は基督教を學ぶの最良法が聖書を研究するにあるが如く東洋の諸宗教を知らんと欲する人々には東洋の聖經ヒンドゥー、ブッダ、イスマ、クリスチヤニティ(クラレンドン會社出版)を讀むに如かずと云ふ事なり、蓋し東洋の聖經は現時の英語に立派に翻譯せられ居れば之が研究には至極便利なりとす、然れどもかゝる廣濶なる書冊を讀破せん事は尋常の人には極めて難事なるを免かれず若しも此最良法にして遂行し能はずんばかのソサイチー、フオール、プロモーター、グ、クリスチアン、ノーレンツチ(基督教智識の振興を目的とする協會)より出版したる「非基督教的諸宗教」てふ諸書を讀むを宜とす此書物には欄下に引證を附しあれば讀者は如何なる學者の書を讀むべきかを教示せらるゝの便あり、予が此小著は世界の宗教に關する智識を得んと願望し然かも之れに關する數種の書をすらも讀むの暇なき人々の爲めに物したるものなり、此故に著者は各宗教

の根本を叙述し、其起源を説明し、其發達の法則を解明し、かくてそが神の世界教育に於ける位地價值を闡明するを以て満足せざる可からず而して其之れを爲すや各宗教の不完全と背理とを指示するとともに之れを見るに外部的パリスイ的の見を以てせず同情と善意とを以てするに勤めたり、著者は基督教を論ずるに方りて、そが聖經文學なるものはイスラエル人が漸を以て神の心を了知するに至りし進化の歴史なる事を表示するものたるを假定す、從てデボラ、エフタ、サムソンの如きよりしてイザヤ、エレミヤ、逐放時代の諸預言者が有せし宇宙觀人生觀を發見せんと期待すべからずとなすものなり、特に神の性格、人間の義務、および歸趣に關する充分なる光明に至りては羲の太陽たるイエス自らに依るの外なきを知るものなり、著者は亦非基督教的諸宗教を論ずるに方りて其欠點を發かんよりも寧ろ其長所——則ちそが結べる悪しき果よりも善き實——を示摘するの優れるに如かざるを信す一言以て之れを言へば他宗教に對するや富める人が貪づしき兄弟に對するが如く彼等に接近し彼等と共同の立場に立ち、かくて其富有なる産業を彼等に分配するの態度に出づるの至當至極なるを信す、要するに著者は世界の



大宗教に關する充分なる叙述が書中に發見せらるべしと言はず或は又宗教の一般問題に關して貢獻する所のものありと言はず然れども諸宗教の本体は書中に記述せられたり而して著者が此記述をなすや賢明なる儒教者、印度教者、佛教者、回教者が簡明に基督教を叙述する時に有するが如き公平寛大なる精神に依るものなりとす。

目次

緒論

宗教は普遍の事實——人性に根底す——人間に存する至大至高のものを顯現す——宗教の種類——組織なき宗教と組織ある宗教——後者に接觸するに  
よりて前者の頽廢する所以——有らゆる組織ある宗教は文明を發生す——  
其時代に於ては皆善良なりき——第十八世紀に於ける宗教觀——近世の宗  
教觀の優れる所以——基督教の特別天啓たるを證するに必要なる諸大宗教  
の比較的研究——他宗教に對する預言者、使徒、イエスの態度は基督教宣教師  
の正に採るべきの態度

第一章 回々教

回々教を解するにマホメットの人格の等閑に附す可からざる事——彼の出生、  
青年時代の性格——當時に於けるアラビヤ人の宗教——其虚偽を覺知せる



事——基督教者、猶太人、ハニラ人との交際——彼に對する荒野の感化——セ  
ミチック人種とアリアン人種の宗教的概念の一般差異——大實在は神なり  
てふマホメットの認識——彼が預言者の使命を蒙れりと確信したる時に於  
ける生命の危機——彼の改宗者——迫害——メツカに於ける危機——メヂ  
ナに遁逃——彼がメヂナに於ける十年間の特色——彼の新政略の成效——  
彼の死より今日までの回々教傳播の大略  
コーラン——英譯——批評せられざる欽定書たるよりしてコーランの受た  
る損失——同じ批評判断の欠乏が舊約聖書を編纂したる希伯來學者に存せ  
し事——ガイド譯の改正——本文の無謬

### 第二章 回々教の成效および頽廢の原因

回々教の成效に對する不充分なる説明——眞の説明はマホメットの人格およ  
び其教の根本的眞理中に發見せらる——神の主權と神に對する服従の義務  
とに關する彼の教——彼の不充分なる神學——それを補足し若くば發達せし

めんと企圖が必然の失敗——人間に關する彼の不充分なる概念——回々  
教の成效と失敗によりて教へらるゝ教訓——神と人とに關する基督教觀念  
の勝れる事從て基督教的文明の優等なる事——婦人に關するマホメットの  
不完全なる評價——是より生ずる惡しき結果——回教辨證論者の答若くば  
辨解——之れに對する答辨——眞正の宗教は品性と生活に對する最も高尚  
なる理想を吾人に提供す——吾人は如何にせば基督教を回教者に推薦し得  
べきや

### 第三章 儒教

紀元前第六世紀代に於ける孔子の出生——印度希臘猶太および支那にとりて  
同世紀の重要時なりし事——支那人民の古くして大なる事——孔子に對する  
支那歴史の意義および支那國民に對する孔子の意義——彼の無比なる偉大  
——家系および結婚——教師としての彼の事業の性質——弟子および後代  
の人々が彼に對する尊敬——彼の時代に於ける支那の状態——支那初代の



宗教——孔子の理想——過去に關する彼の研究——其結論——帝王の拜天  
および衆人の祖先禮拜——社會關係——恕——禮——孔子の出都——老子  
との會見——彼の生國への歸還——彼の事業の完結——彼の死

#### 第四章 儒教強弱の本源

其勢力ある所以——其歴史的性質——道德訓——儒教および道教の特殊語——  
何故に道教は失敗に歸せしや——教育の組織——競争試験に依れる任官  
制——儒教の成效——其不充分なるを表示する國民的告白——支那に外教  
の輸入——佛教の定義——其成效——宗教の永久的要素を供給するに於け  
る儒教の失敗——それが特殊の善徳の過不及に現示せらるゝ其根本的欠陥——  
吾人は如何にして支那人に基督を推薦すべきか、

#### 第五章 印度教

印度の諸宗教——回々教が今日も猶ほ改宗者を加へ得る原因——印度人民の  
起源——印度教が一人の創始に成らざる事——之れを研究するには其種々

なる宗教書および其歴史に依らざる可からざる事——韋陀文學——讃誦——  
波羅門教への發達——それが神學的僧侶的哲學的方面——それが一般の信條  
——聖律法書——佛教との競争——叙事詩——化身の教義——近世印度教  
——信仰によれる救拯を教ゆる聖書——バラナの形式調子内容民間の印度  
教派——ウエシナ教とサイワ教——邪神崇拜——印度教の有するものと有  
せざるもの

#### 第六章 印度教強弱の本源

階級制度——人種的必要と宗教的義務に根底する事——其結果としての社會  
状態——最初の希臘觀察者の證言——波羅門族の優勢、それが幾世紀間社會に  
與へたる効果——現時には無意義有害なる階級制度——印度改革者が階級  
制度に對する態度——印度教に代はるべき積極的なる或物の必要——こは  
基督教によりて供給せらる——純然たる印度人の教會——深遠なれども一  
方に偏せる印度人の神觀——亦不充分なる人間觀——神と人とに關する印  
度思想は古くより傳はり來れるものなる事——凡神説は印度教の大なる勢



力にして亦其弱點なり——化身の教義は之れが實例——印度の人民に對する吾等の義務

第七章 佛教

印度の宗教の一支派たる佛教——幾多の教派に分かるゝと雖一人の教祖に歸する事——佛教の聖書——三ピタカ——それが書かれたる時代——經典の萌芽の起源——小乘經——大乘經——北方經典の大膨脹——支那譯および西藏譯——それが基督教的彩色を帯ぶるの説明——佛教開祖の初期の生涯および彼の性格——大拋棄——佛陀の境界に達せし事——四大真理——涅槃および業の意義——中道——佛教の道德訓——其社會的組織——釋迦の人格の勢力——彼の宣教的熱心——彼の弟子等の精神および熱心——彼の生涯——最後の言——死——當時印度が民主的運動の機運に熟し居りし事——佛教の個人主義と合理主義——佛教と波羅門教との相互影響——其結果として佛教の衰滅および近世印度教の勃興

第八章 佛教の成効および失敗

アソカ、カニスカ王朝に於ける佛教の成効——それが人類に對する貢獻——其眞の失敗——それが原因の無神論若くは不可思議説に存する事——實際上此特質を抛ちてラマ教、アチ佛教、若くは菩薩禮拜に轉化せる事——佛教の盛なる國々の人民の性質——其器械的禮拜——無益なる繰返語を貴重視する事——それが不完全なる人間觀——不幸の自覺ありて罪惡の意識なき事——罪惡は宇宙的のものにして赦罪てふものは有り得べからずとの説——かゝる見解が及ぼすと思はれたる影響——こは贖罪および悔改の觀念の不充分なるよりに起る——佛教の終局目的は實は利己主義のものなり——佛教と基督教とは人生に關する意見に於ては正反對——獨身生活および托鉢生活は佛教が人の義務なりと思惟する所にして又それが充分なる責罰たる事——如何にして基督教は佛教をして勢力あらしむる根本真理に結合すべきか——吾らの義務



第九章 イスラエル

イスラエル人に與へられたる神の默示を基礎とする基督教——イスラエル人に對する基督の關係——イスラエルの歴史は一貫したる内部の一致を有す、恰かも一人の傳記を見るに異ならず——此歴史を觀察する最良の立場——人民に與へし預言者等の感化——エホバの聲なりと信せられたり——彼等は最も深き國民的確信に訴へたり——各預言者は各自の時代に對して或使命を有したり——彼等の預言の性質——紀元前第八世紀代に於ける彼等の教の本質——之れと異教の預言者の理想との差異——イザヤの位地および警語——其メシヤ的預言——彼の最大事業——新契約に關するエレミヤの觀念——追放時代の預言者——エホバの「苦む僕」の觀念の起源——チエミヤとエズラの事業——律法若くは五書——次の四百年間のイスラエル人の生涯——律法主義の惡結果——例證——其時代にありて律法および儀式の必要なりし事——猶太内外に於ける此時代の善方面

第十章 イエス

最初の新約書——初代の教會が立てる共同の基礎——パウロと他の使徒等が經由せる行路の異なる事——イエスの性格——正反對の理想を包括す——基督教は有らゆる人種が特有する善徳を同化し亦包括す——罪惡に關するイエスの觀念——罪惡に關する聖書の觀念——人類の罪惡を甄別し征服し審判する權能と相合せる彼の無罪——イスラエルの過去に對する彼の關係——彼は預言の終局なり——舊約全書の組織を就成す——其基礎の上に立ちて然かも之れを超絶し批評す——自然界と人生とに對する彼の態度——イスラエル人は一神教によりて真正の觀念に到達せり——自然界は神の性格の反照なり——其上に立てるイエスの教——神に對する彼の態度は子たる者の態度——完全なる人性——人性を通して顯現せる神性——彼の苦痛の生涯——結果——祭司として神を顯現す——贖罪の性質——未來に對する彼の態度——釋迦とマホメットの態度——イエスの態度の意義——後世と文明とに對する彼の關係——正義の道たる基督教



# 世界の諸宗教

(宗教の比較的研究)

## 緒 論

現時最高の學者輩は皆宗教が其最も普通の意味に於て人類界に存する普通の現象なりと稱するを正當なりとなすに一致す然り宗教は人類たるの表號なり、これは之れ決して外部の原因によりて起り來りしには非ず亦人の思想若くは愛着よりして引出し得べきものにも非ず、勿論個人として稽ふる時は時に或は宗教を欠如するの人もなきに非ず、然れどもこは猶ほ恰かも智力と愛情とを欠如する個人あるが如きものにして其惘然なる事象者、匿者、盲者の惘むべきに異ならず、然かも常規を逸せざる人類は皆宗教的なり、無神論は唯これ宗教的ならざらんと欲するの企圖に過ぎず、

宗教は亦人間の性質中に存する至高至大なるものを顯現するものなり、こは之れ人をして五官を超絶して(彼が其一部分たるに過ぎざる)宇宙若くは無限永久てふ



ものに彼を親しましむるものなり、ヘゲル謂へらく「總ての人々は宗教意識とは其中に眞理を保有するものの謂たるを知る而して彼等は宗教をば其眞の高貴、其生命の安息日として尊重し來れり」と。

世界の宗教は之れを大別して組織あるものと組織なきものとの二者となすことを得べし、後者中には野蠻人が宇宙萬有の不可思議を自ら解釋せんとしたる種々の粗糲矛盾せる概念(宗教)を包括す、而して是等の宗教たるや時としては奇異にして亦恐怖すべきものなきに非ず、然かも之れ人間の高尚なる所以のものを表明するものなりと謂はざる可からず何となればこは正しく人間が神を追求摸索する事を明示するものなればなり、實にツイネットが謂へる如く「是等の宗教は之れ靈魂が其中心より引裂かれ其目的物より引離されたるより發する痛ましき叫聲なり」然り而して是等の宗教たるや人類の研究者にとりては實際面白き研究なりと雖然れども是等は遠からずして唯古物學者の研究題目たるに過ぎざるに至るべしと思はる、何となれば是等にして一朝首尾一貫せる宗教に接觸せんか猶ほ恰も星光の旭日に遭ふが如くに其影を收むるに至るべきは必然の數なればなり、然り

## 世界諸宗教

## 世界諸宗教

是等の宗教が首尾一貫せる宗教に接觸するや曾て前者に歸依したる人々も舊來の思想を一掃し祖先の偶像を拋棄して代ゆるに高等なる生活状態を結合せる他宗教を以てす、假令新宗教が唯だ不完全に領會せられたる時すらも舊宗教は結局廢棄せらるゝに至るなり、願ふにかの印度教が今日まで絶へず印度土族を其教に改宗せしめたる成効や中央亞弗利加、東印度諸島および其他に於ける回々教の成効や、韃靼、蒙古、朝鮮、日本に於ける佛教の成効や、亞細亞に於けるコール人、サンサル人、ピール人、カレン人、亦ポリネシア諸島の野蠻人中に於ける基督教の成効は則ち此事實若くば法則を説明するものなり、然りと雖一の組織的宗教が他の組織的宗教に接觸するの場合は事大に前者と其趣を異にするものあり、此場合に於ては其孰れか勝利者たるべきやは俄かに決定し得べき問題に非ず宜しく先づ相互の勢力の潜在する淵源を洞見し其遭遇し來れる精神上社會上の要求を稽へ亦最も卓越したる性質を有し同化力に富める一宗教が他宗教に存する總ての美質——幾百千萬の人衆に歸依せられ之れをして幾百年の間繼續せしめたる總ての美質——を吸収するの有様を精察するを要す、



總ての組織的宗教は文明を産出したたり、かの埃及、ヒニシヤ、ヒクテス、アシリヤ、バビロン、メドペルシア、希臘、羅馬および其他多くの國民は其固有の文明とともに全く消滅し去りて其足跡を留めずなりし事猶ほ恰かもカルチスピサロの侵入以前に於けるメキシコ、ペルーの文明に異ならず、去れば是等の文明と親密なる關係を有する宗教の如何を充分に知らん事は吾人にとりて時に或は困難なきに非ず、然れども夫等の己に消滅したる宗教以外に今日現に基督教と相並んで存在し、且つ古代の文明と密切の關係を有する歴史的宗教なるものあり、是等の宗教たるや勤務、慧智にして道德ある男女によりて成れる幾多の大社會によりて信奉せらるゝものなり、而してそが宗教中に存する聖人輩は其信仰者には宗教其物と同一なるが如く思はれ渴仰措く能はざる所のものなり、今若し是等の聖人輩に對して侮辱を與へんか、そは許す可からざる罪惡として其信仰者の感情を損ふ事猶ほ希伯來の預言者若くは使徒甚だしきは基督に對する侮辱が吾等にとりて許す可からざる罪惡なるに異ならず、今夫れ基督教以外の大宗教にして今猶ほ殘存するものに四あり、曰く回々教、曰く印度教、曰く佛教、曰く儒教、是なり、去れば是等の諸宗教を逐次

## 世界諸宗教

## ● 世界諸宗教

吟味し行かん事は吾人の研究にとりて最も大切なる事柄なりとす、事實を言へば是等の諸宗教は基督教とともに地球上に其領土を分有し幾千百年の昔より綿々相繼續し來れるものにして大規模に於て人心の要求に應答するものなり、此故に若し基督教にして果して克く其一だも吸収し取て以て之れに代はる事を得たらんには、そは基督教が希臘羅馬の諸宗教を征服したるに於けると等としく、そが卓越したる宗教たるを證し得て餘あるものなりとす、吾人は總て是等の諸宗教は、そを發生したる國民にとりて實に天與の祝福たりしを領會して疑ふ所なかるべし、實際各宗教は歴史上に於て進歩の一段階を劃するものなり、各宗教が有する年曆書には幾多の聖賢殉教者の姓名もて充滿す、然かも夫れにも拘らず、最も多くの歴史家神學者が世界の諸宗教を待つに酷なる判官が最惡の犯罪人を待つに酷なるに勝りぬ、夫れ宗教にして惡を避けて善を爲せと誠めざる宗教はあらず、予は未だ其有る事を聞かず、實にラビ、ヒレルが總ての宗教の大綱要旨なりと言へる善良なれ我子よ、よてふ單純なる警告を含有せざる宗教はある事なし、所謂神の爲めに、てふ言辭を此言善良なれ我子よ、よてふ言に、加へ見よ、律法



## ● 世界諸宗教

と預言者の殆んど全体は此中に含蓄せらるゝに非ずや」宗教の是非を判断するに其避く可からざる偶然の弊害を捕へて之を喋々するは猶ほ病院の存在を以て人民の不健康を下し牢獄の存在を見て人民の不道德を断言するの不條理なるに異ならず、吾人にして若しも宗教の是非を判せんと欲せば出来得丈そが教祖の精神によりて之れを學ばざる可からず、而して若し此事にして能ばずんば之れを卜者の會に問はず之れを僧侶の會議に聞かず寧ろ之れを靜室および病室の中に發見せんと試むべし（「ミユク」）此の如きは慥かに諸宗教を觀察するに於ける合法必須なる觀察法なりとす、然れども百年以前に於ける英國の宗教觀は大に之れと異れり、此時代にありてや淺薄なる自然神論は千把一東有らゆる宗教を政而家の政略若くば僧侶の詭計に起因するものにして民衆の無智輕信に投合し依て以て彼等の道德を維持し若くば自家の權勢利得を獲得せんと欲するの目的に出でたるものに過ぎずとなせりかくの如く有らゆる宗教を齊としく輕蔑視去るの時に方りてかの辯證論者なるものは獨り基督教を防衛するを以て唯一の目的となしぬ、然り彼等は基督教のみを辯護論證せんとしたるが故に他の宗教は之を豺狼の喰

## ● 世界諸宗教

物として抛擲し去るを最も快となせり、彼等は基督教と他宗教との異なる諸點を誇大し基督教が神より出でたる宗教たるを信せんが爲めには他宗教は皆惡魔より出でたるものなりと信せざる可からずと思惟したり、カールは當時に於ける一般の意見を名狀して眞を穿てるものあり曰く當時にありてはマホメットの如きは單に權謀術數に富める欺騙者なりき彼の宗教は精神上の戲術の憫むべき一小片に過ぎざりしなりと然れども時勢は變移して今や宗教に關する眞正の哲學は起り來りぬ、宇宙の道義法に對する人間の關係を正視するの眞見解は出で來りぬ、去れば今日にありては宗教なるものは皆宇宙の眞理に其根底を有すてふ事一般の認許する所とはなりぬ、蓋し人は神の像に象りて造られたるものなるが故に其信仰（宗教心）は其精神中の最高勢力ならざらざる可からず、こは之れ人をして神を捕捉せしめ時間と感覺と利己主義との制限を超越して高く向上發展せしむるものなり、此故に現時の辯證論者は彼等が從來爲し來りしが如く自然界の組織に存する難解の諸點を指摘し、そが宗教の難解點に異らざるを喋々するよりも更に一段高尚なる職分を有する者となれり、然り彼等は寧ろ進で宗教が自然界の諸



問題および難解點を解釋するものなる事を明示せんと欲する者なり、而して彼等の目的や決して何等の宗教をも侮蔑するにあらず、一宗教と他宗教との間に存する異點を誇大するにもあらずして却て相互の一致點を發見し人類一般の要求に應ずる諸宗教の共同要素を見出すにありて存するなり、

此の如く見もて來りて有らゆる宗教を人間性情の精髓として認知せらるゝ見えざる者に對する信仰より生じ來る合法至極なる産物なりと觀せんか氣早やの人々は直ちに基督教と他宗教とを混同して基督教は特殊の要求をなし得るものに非ず亦基督教と他宗教との異同は單に偶然の出來事たるに過ぎずと斷言せんと欲するなり、而して此種の人々は基督教を以て特殊の宗教なりとなしそが根底を獨り人間の靈性に有するのみならず神——人間が罪に墮落せし時慈惠の神として自顯し給へる神——より出たる特殊の默示に基くものなりと言ふを以て狹隘偏頗の事柄なりと思惟するを見る、願ふに此種の批評に答ふるの良法は他宗教に對して排外的態度に出でず充分に公平に有らゆる宗教を比較吟味して其研究の結果を示すにありとす、吾人は勿論基督教が他宗教に優越する所以のものあ

## 世 界 の 諸 宗 教

## 世 界 の 諸 宗 教

るを信認す、然かも吾人は此信仰の誤なきを知らんが爲めには之れを比較研究の結果に待たざる可からず、然り而して今日は實にかゝる研究を充分に爲し得べき前代未聞の好時期とはなれり、實に今日にありては世界の大宗教にして其内容と外形とを知り得ざるもの一もある事なし、而してそが内容若くはそが主要の觀念を試験して其眞價を知り明らかめんと欲せば宜しく公明正大なる理性と良心とに依りて之れに臨まざる可からず、願ふに宗教研究の正道は中庸に存す、即ち法皇至上主義と合理主義との中央に位する中庸道に存す、今法皇至上主義に従へば天啓は理性の正反對なり、理性は神の宣託に對しては其理由を問ふ事なくして全く之れに服従せざる可からず、合理主義に従へば天啓とは單に理性の自然的進化に外ならず、特殊の天啓なるものは未だ一度も神より來りしことあるなし、然かも基督教に従へば天啓は理性の補充なり、蓋し人間の理性が何處迄も其本質に於て神の理性と同一なりてふ事は聖書全体が教示する所のものにして猶太國民の歴史——世界歴史の意義を開明するの鑰たる猶太史——中には人間の最も深き要求に應じて現はれたる神の奥深き性情の特別の啓示若しくは此特別啓示の發達



を窺知するに足るものを有す、而して此特別の啓示たるや之れ有るを待ちて人は始めてそが世界の宗教たるの理由を有し亦其資格を有するものたるを認知するを得るものたり、既に世界の宗教たるの理由と資格とを有す、此故に天啓的宗教は他宗教を比較討究して其價値を上下するの標準とはなるなり、今夫れ理性は此特別啓示を外にしては何物を發見し亦何事を爲し得るや之れを知らんと欲せば吾人は唯だ基督教以前の時代に溯り基督教國以外の國々に亘りて其宗教と歴史とを研究するを以て足れりとす、然れども此研究をなすに方りてや吾人は決して何等の敵愾心をも持せず寛厚なる同情心もて之れに従はざる可からず、此精神もて研究し行かば必ずや基督教は他宗教の敵に非ず寧ろ其最良友たる事明白なるに至るべく、かくて基督教は一面他宗教に存する善美を辯明し、亦他宗教は總て臆るげ乍がら光明を追求摸索するものたるを明示し、一面各宗教の欠點を補足し總ての宗教を調諧するに必要な調和的要素を供給するものたるに至るべし、而して之れ或は基督教の最上宗教たるを證する最高辯證法ならんも知る可からず、兎も角も諸宗教の外形併びに内容は之れを比較的に研究せざる可からず、詳しく言へ

## 世界諸宗教

## 世界諸宗教

ば批評學者が承認したる法則に従て諸宗教の經典を研究し一般に確實なりとせらるゝ規則に準じて諸制度諸社會を研究せざる可からず、此研究を爲すに方りて他宗教に適用して得たる原理規則の結果は基督教にも之れを適用せざる可からず文學としての聖書は吾人がコーラン、ウエダ、ツリビタカ、及び書經詩經に適用する規則の適用を脱する事能はず但しかゝる研究法よりして出で来る結果は總ての場合に於て善良なるものにして一も悪きものある事なきを一言し置くを要す、批評の目的は破壊に非ずして建設にあり、こは之れ各經典をしてそが本來記述せられたる儘を吾人に知らしめんと欲するものなり、默示を受けたる人々の自言と後代に混入せる「後代の思想即ち概ね後世の腐敗」を區別し、預言者の活ける言辭と編輯者および學者の挿入との間に嶄然たる區別を劃せんと欲するものなり、是れ實に研究の良法なり、諸制度の研究も亦之れに同じ其眞義を察し其價値を詳かにせん事は唯其起源に追溯するによりて始めて爲し得べきのみ而して一文明の價値を決するも亦他の諸文明と比較對照し其状態と欠點とを適當に認知し而して亦其文明生活の法則を洞見するによりて始めて誤謬なきを保し得べし、



## 世 界 の 諸 宗 教

舊約聖書とイエス——預言者輩が證言したるイエス——とは如何なる見地を有し世界の諸宗教を如何に見做せしや、之れ極めて重要至極の問題なり、而かも此問題たるやイエスの時代に於ける猶太人が異邦人に對してとれる態度よりして判知し得べきに非ず何となれば當時に於ける猶太人の態度は預言者の精神に非ず預言者の言が記されたる聖書の精神に反對するものなればなり、勿論猶太人自らは其然る所以の事實を認容せざりしならん特にかの學者輩は自ら聖書に通曉したりと思惟したり、從てガラリヤの農夫若くは大工が彼等よりも聖書に通曉すと言ふを一笑に附し去りしは當然の事柄なりとす、彼等は律法に通じ亦預言者を愛敬したり彼等はモーセと聖書に對して忠誠なるの餘まりイエスとパウロの態度を非聖書的なりと信じて疑はざりしなり、不幸にして基督教徒は今日まで舊約聖書のラビ的解説を正當なりと見做し之れを自家の立脚地とはなし來れり、然らずんば殘忍無慈悲なる言辭もて猶太人、就中學者輩を論難攻撃して其不當を喋々し來りしなり、

然れども吾人は猶太人の態度が歴史的境遇の結果なるを記憶するを要す、則ち遠

## 世 界 の 諸 宗 教

くパピロン追放時代にまで跨れる歴史的境遇の然らしめし所たるを知らざる可からず、而して吾人は此歴史的境遇をば充分に研究し之れを領會するに勤めざる可からず何となれば之れを領會するは即ち其誤謬を認恕する事なればなり、按ずるに紀元前五世紀頃にありて預言者の精神を有する人々はイスラエル人の墮落が其崇拜するエホバの性質と周圍の諸國民が崇拜する神々の性質とを混合するより生じ來りしを認めたり、今夫れイスラエル人のエホバは正義にして眞實なる本性を有するの神にして異教徒の神々は重に其禮拜者の悪しき肉情を反映したるものに過ぎざれば此兩者を同位地に置き同様に禮拜する事は之れ實に玉石其偽を混同する事なりしなり、而してイスラエル人が其隣方國民と同様に道德的に墮落し去りしは重に此宗教上の混同主義に因由するものなりき、而かもイスラエル人の墮落は隣國民の夫れに比して更に一段の甚だしきを加へたり、何となれば最良なるもの、腐敗は腐敗の最悪なるものなればなり、追放時代の預言者等は此事實を洞見したり而して學者たるエズラ併びに其共同勞者たる知事子へミヤはイスラエル人に對する唯一の希望は歸國せる追放人を律法の命する所に從ひて周



## 世界諸宗教

國の人民の惡弊汚穢より嚴重に分離するにありと思惟したり、國民の良心は彼等の叫びに順應一致し爾來(現時五書中に存する)かの律法なるものは教會的國家の現行法律および道義の標準とはなり來りしなり、願ふに此政策たるや例令之れに反對して其非を主張しそがエホバとイスラエルとの間に結ばれたる根本的契約の精神に背反し大預言者たちの教に背悖するものたるを唱道せし者なきに非ざりしと雖然かも之れ時代の要求に由來するを如何せん、夫れ各時代は夫れ自ら爲し遂ぐべきの事業を有す、而して政治家は時代の要求に順應するの政策に出でざる可からず、エズラ、ネヘミヤの政策亦已む可からざるに出でしなり、爾來種々の事件はエズラ、及ネヘミヤの政策をして強固ならしめ進捗せしめたり、而して又猶太人の自負心を高潮し猶太人をして自らエホバの民として諸國民の上に卓出し様々の特權を有する者なりてふ思念を抱懐するに至らしめたり、去れば神は世界の爲めに猶太人を撰び給へりてふ眞理は顛倒し去りて神は猶太人自らの爲めに其好む所のものを撰び給へりてふ虚偽に轉化するに至れり、メシヤの希望は同じく俗化し去りぬ、紀元前第二世紀頃に於ける、かの怖ろしきマツカピア

## 世界諸宗教

の獨立戦争は此惡傾向に對して最も大なる刺激を與へしなり、於是乎アブラハム、モーセ、イザヤの胸中に活躍したる寛大なる精神は去て他國民に對する深酷なる憎惡倨傲無禮なる輕蔑は猶太國民の國民的精神とは成り來れり、割禮なき犬「異邦の罪人」および之れに類する惡稱は彼等が他國民に對して齊としく與へたる名稱なりしなり、彼等の臆斷に従へば神はイスラエル人にのみ自らを顯現し他國民には毫も此事なかりしなり、イエスの教と態度とは常に此全く非宗教的なる精神に對する強き反對なりき、メシヤたる彼は昔時の預言者の眞繼續者また成就者なりき、但し彼は最大なる預言者が脱する能はざりし國民的氣風——預言者たちの大飛躍を妨礙したる國民的氣風——の束縛を超然脱出する所ありき、彼はアモスの精神をアモスよりも大なる分量に於て抱懐したり、アモスは何人ぞや彼はエホバがイスラエル人を埃及より導き出せると齊としく他の國民をも其國々に導き給へる事と、エホバがカフトルよりペリシテ人をカールよりスリヤ人を導き來り給ひし事と、エホバが是等の國民を審判し給ふ同じ道義法によりてイスラエルとユダの罪を審判し給ふ



## 世 界 の 諸 宗 教

べし、但しイスラエルとユダは比較的に大なる光明を有するが故に其刑罰も從て大なるの差あるべき事とをイスラエル人に警告する所ありし人なり(アモス七章七節) イエスは亦マラキの精神をマラキよりも大なる分量に於て抱有したり、マラキは何人ぞや彼は總ての誠實なる禮拜が神の目には同等なる所以を斷言し亦猶太人の貪婪不潔なる供物を辱かしめんが爲めに猶太人以外の人種がエホバに捧ぐる香料および純潔なる供物の日出より日没まで斷へ間なき事實を猶太人に宣言する所ありし人なり、曰く「萬群の主のたまはく我名は異邦人の中に大なればなり」と而して彼は屢此著明なる言辭を繰返したり(改正譯マラキ二章十一—十四)而して總ての誠實敬虔なる禮拜と眞實なる道德はエホバの嘉納し給ふ所なりとなすの點に於てはマラキもイエスも共に共同の立場を有すと雖然かもイエスの言辭は明白にして誤る可からざるものありイエス曰く「多くの人々東より西より——詳しく云へば異邦民より——來りてアブラハム、イサク、ヤコブと偕に天國に座し國の諸子は外の幽暗に逐出され云々」と彼が相接觸せるサマリヤ人および異邦人に對する態度羅馬人なる百卒長、および彼が痛く試験したる異邦婦人の信仰を是認したる事實は

## 世 界 の 諸 宗 教

眞正の宗教を猶太人のみに限れりと信じたる人々を警愕せしむるものありしなるべし、彼がイスラエル人中に於けるよりも異教徒の中に更に大なる信仰を發見したりと言へるは猶太人の耳には恰かも褻瀆罪の如く聞へしなるべし、然かも之れ、單に神は靈なれば靈と眞を以て之れを禮拜する人々こそ眞に神を禮拜する者なりてふ根本原理の結論に外ならざりしなり、使徒等は漸次其主の見地よりして他人種他宗教に對する自己の關係を洞見するに至れり、ペテロがコリネリオの率直なる談話を聞き亦此善人の顔を眺めたる一刹那に於て光明は其靈魂に輝き來りて會て彼に暗かりし多くの事柄に領會の光を與へぬ、ペテロ曰く「我まことに神は偏らざる者にして何の國民にても神を敬ひ義を行ふ者は其聖旨に適ふと云ふことを悟る」と而して彼は直ちにイエスを受くるの準備ある人々に、自然の方法に訴へてイエスを宣傳したり、而して是等の人々はイスラエル人の教師輩がイエスを拒みしにも拘らず實に深くイエスを信じたリ、パウロは亦此眞理を確信して異邦人の宣教師となり有らゆる時代の宣教師の模範とは成れり、彼は猶太人には猶太人の如く希臘人には希臘人の如く野蠻人に



世 界 の 諸 宗 教

は野蠻人の如く成れり吾人は彼がレストラ及びアゼンスの人民になせる説教を研究し之れを彼が會堂にてなせる説教に比較對照するのみにても如何に彼が其傳道せんと欲する人民の要求、歴史、および宗教上の現狀に全く順應する所ありしか如何に彼れの態度が親切なりしか如何に彼が斷へず最少抵抗線に沿ふて人を教主に導かんとつとめたりしかを領會するを得べし而して彼は基督教が國民と國民との間に存する隔ての障壁を打ち壊ちて萬國民に對して世界的なる神の宮を公開せし事を洞察し他の弟子等就中他の使徒等がイエスの教會を單に猶太人の一宗派たらしめんと欲するの時すらも彼はイエスの精神によりて基督教をして人類全体の宗教たるに至らしめしなり、

此精神こそ常に基督教の宣教事業の主動力たらざる可からざるの精神なり、改宗者を起さんとの熱心のみにては未だ充分なりと云ふ可からず、パリサイ人は此種の熱心を有したり而してイエスがパリサイ人と其熱心とを如何に思惟せしやは、イエスの言に依りて知るを得べし、去れば熱心のみは宣教事業の萬事に非ず宜しく夫れ以上の成功を有せざる可からず、今夫れ吾人は如何にして他宗教によりて

世 界 の 諸 宗 教

教育せられたる人々に接近すべきか、曰く之れを知るの良法は唯だ自ら其人の地位に躬を置くの一法あるのみ夫れ人は眞理を歡迎す然かも以前の信仰を全く虚妄視するを嫌厭す、是れを以つて其何人たるを問はず自己のみ獨り眞理の全体を知悉するものにして吾人の嘗て信じ亦行ひたる所のものは總て虚偽なり、吾人が吾人の記憶に尊敬する父母は神の聖顔の光より永久に拒絶せられたりと明言するが如き尊大なる氣風を提げて吾人に臨まば、そは何等の利益をも吾人に與へ得る人に非ず、若しも彼れにして自己の優等なるに傲り漫然として吾人の祖先を輕侮するの情を表はし吾人に接近し來らば彼は決して吾人に對する神の預言者に非ず、此故に彼にして若しも眞の預言者たらんと欲せば彼は全く之れと異なる態度もて吾人に臨まざる可からず、詳しく言へば彼は吾人の兄弟として共同の立場に吾人と並立せざる可からず、彼は吾人が今日迄爲し來れる所のものを詮穿するの勞を取らざる可からず、彼は吾人の言語を話し吾人の音樂を解し吾人の最上文學を學び、吾人の過去を尙び、吾人の哲學を領會し吾人の理想に同情し、吾人の愛する人々を愛し、吾人の生活に於ける最も深き要素を貴ばざる可からず、一言以て之



## 世 界 の 諸 宗 教

れを云へば彼は吾人を尊敬し吾人を愛せざる可からず、かくて彼若し吾人よりも偉大ならば而して亦吾人に報告すべき新真理を有し若くは分與すべき新勢力を有せば吾人は喜で吾人の先導者として彼を嘉納すべし、此の如くんば彼は生命の根帯にみづかうものなり、全社會を醗酵すべき潜勢力は彼によりて發揮せられ國民は忽焉として甦生せるの觀を呈するに至らん、要するに總ての國民は内部よりして感化せられざる可からず外部よりの攻撃は之れをして一層頑固ならしむるのみ他宗教を攻撃卑下し自宗の長所のみを宣揚するを事とする改宗主義は一段に價値なき個人を其舊信仰より分離せしめ得るのみ然かも改宗者の内部の發達は妨礙し去らるゝを如何せん、他宗教を尊敬して之れに同情する預言者主義は個人を得るのみならず之れによりて得たる個人は勢力の中心と成り、かくて一時の遲滯失敗あるにもせよ決して破滅し能はざる精神的運動の起源を開くに至るべし

基督教國は萬國民に對する神の預言者なり然れども基督教國は通常ヨナの如く非預言者的なる行爲を敢てし又此行爲を自負自讃す、然れども今はかゝる迷妄よ

## 世 界 の 諸 宗 教

り醒め求るべきの秋なり、吾等は基督教國たる高尚なる使命を成就せんが爲めに吾等が信すと公言する真理を實行せざる可からず、則ち神は吾等の住ひを定め給ひしが如く他國民にも其住むべき境を與へ給へりと云ふ事、神にありて彼等も亦生き動き在る事を得と云ふ事、神は古き昔より其聖旨を異邦人にも知らしめ給へりと云ふ事、勿論過去の時代はバロガ「蒙昧時」と稱する時代に屬するが故に頑迷なる子供等は父の御聲を明白には聞き分け得ざりしと雖、而して今や神は世界の審判者なる神の子によりて其聖旨を明白に顯現し給ひたれば彼は萬民に對して悔改と信仰とを命じ給ふと云ふ事を實際の行爲に實現し來らざる可からず吾人にして若しも此精神によりて基督を提供せんか何人か基督に牽引せられざる者あらんや、蓋し吾人は吾人が憎惡し輕侮し若くは凌辱し賄贈せんと努むる人々を眞實に得る事能はず、然り彼等にして此の如き獸的方法によりて得られたらんにば彼等は吾人の眞友たらざるべし去れば吾人は非基督教なる諸國民を得んとならば彼等の宗教に對して公正なる態度を持せざる可からず、而して現時代に普通なる他宗教に對する輕蔑——重に無智に起因する輕蔑——を一掃し代ゆる



に禮讓と尊敬と愛とを以て之れを待たざる可からず然らずんば決して彼等を得る事能はざるに終らん。

### 第一章 回々教

回々教は現時に存在する大宗教中に於ける最近の出なり回々教の研究は明白なる歴史的光明中に其起源を有する宗教の奇異なる光景を吾人に提供す蓋し回々教の創始者およびそが唯一の聖經記者は第六世紀中に生存せし人なり而して其聖經——コーラン——たるや長さに於て新約聖書の三分の二に過ぎざるものなるがそが著作の原形を保存し毫も後代の思想を混入せざる純正のものたるは少しも疑を容れざる所なり今夫れ吾人にして此宗教を知らんとすれば須らく其創始者の何人なりしかを知らざる可からざるは論を待たずマホメットに従へば彼が信奉する宗教は決して新らしきものに非ずして古き宗教なり實にパウロが基督教に於けるが如く彼は其祖先の宗教族長預言者イエスの宗教を其完備の狀に於てアラビヤ人に傳道しかくて世界に及ぼさんと主張したり此主張信仰や

### 世界諸宗教

### 世界諸宗教

非常なる勢力を持して先づアラビヤの亂雜不調なる諸種族を合一して神政國民となしかくて基督教を其産地より追放し基督教國として知られたる總ての國々より之れを放逐し去れり換言すれば聖地も基督教國も皆新月旗(回教國の旗)の前に跪拜するものと成れり之れ實に驚くべき歴史上の事實にして吾人の未だ其類例を見ざる所のものなり去れば其勢力の奈點にあるかを知らん事は之れ重要至極の研究なり若し之れを等閑に附せんか之れ宗教てふものに冷淡なるを表白するものなりされば吾人にして此秘密を領會せんとすれば須らくマホメットの性格如何を正當に估價せざる可からず。

マホメットは基督紀元五百七十一年の頃を以てメツカに生る彼はコーレシ種族に屬する人なりきコーレシ種族とはメツカ市にて最上階級に位する一族なり然れども彼は家の貧なるに加へて幼より孤兒となれり彼は少年時代には牧羊を業とし兼ねて荒野に菓實を収集するを生業となせり二十五歳の時カヂヂヤと稱する富有なる寡婦の家に番頭となり其商用の爲めに小亞細亞スリヤ地方に旅行する事と成れり後遂にカヂヂヤと婚して其夫とは成りぬ彼の生活は極めて清潔嚴



肅善良なりしが故に彼を知る者は皆最も克く彼を愛し最も深く彼を尊敬し遂に邑人はエルアミン「信用すべき人」てふ名を彼に與ふるに至りし程なり、彼が自ら預言者なりと思惟し其生涯の方向を全く一變するに至りしは實に其四十歳の時なりき。

## 世 界 の 諸 宗 教

此時代に於けるアラビヤの宗教は多神偶像教なりき而して其宗教的勢力は已に業に消滅して唯だ聖地に於ける定期の祭禮に關係ある事柄のみ残存するのみなりき此聖地に於ける定期の祭禮にはアラビヤの諸種族は各所よりして集合し來る太古よりの習慣を有したり而してメツカは此集合地の一なりきメツカの有名なりしはそが六百の偶像を有するカーバ即ち神殿を有したるが爲めなり而して此六百の偶像中にありて最も大切なるものは一個の神聖なる黒石なりき此黒石たるや恐らくは天より落下し來れる隕石の類なりしならん。

アラビヤ人の信仰に従へば諸神の上に高く秀でたる神はアラと稱する神なりきアラ神とはセミチック人種より分派したる諸種族が最上神に與へたるの名稱なり然ども實際の禮拜はアラ神禮拜には非ざりき之れ其餘まりに高くして近づき

## 世 界 の 諸 宗 教

難き神なるが故なり彼等が實際に禮拜したるは格段なる神々にして人間と共に生活し亦自己の家族と種族とに對して保護者たるの任務を盡すべしと信じたる氏神なりきマホメットは民衆が其信奉すと自白する神々に對して屢ば懷疑不敬の態度に出づるを目撃したると其他幾多の理由とによりて各家に安置する偶像とカーバに排列する偶像が決して眞に神々に非ずかの聖黒石すらも神に非ずして唯之れ一個の石たるに過ぎざるを確信するに至れり吾人はコーランの記事によりて彼が僧侶輩の自らは偶像を信せずして單に民衆を欺き自ら利するの具に供するを見て心中實に悲痛と義憤に堪へざりしを窺ふを得べし然れども若しも彼にして其祖先の神々を放棄せば如何なる宗教を信奉すべきか偉大マホメットの如きは決して時人の尊奉せる虚禮を行ふに満足する能はざりき而して彼は此驚歎すべき宇宙——彼自らも其一部分たる宇宙——の秘密を領解し得る迄は安心して生活する事能はざりしなり

マホメットは商用の爲めにスリヤに旅行し彼處にて又はアラビヤにても猶太人および基督教徒に邂逅しモーゼ預言者イエスの事跡に關して聞く所ありき然れ



## 世 界 の 諸 宗 教

ども彼は學者に非ざりしが故に(彼は讀書すらも爲し得ざりしが加し)其聞き得たる事物に就て孰れか眞にして孰れか偽なるかを判別する事能はざりき、則ち彼は是等の事柄を彼に教へたる人々の言ふが儘にタルモツドに記載せる小供らしき作話を舊約書の眞理と同格なるものとなせり彼が基督教に關する智識の如何に幼稚なりしかは三位一體とは父と子と處女マリヤとの三位なりと思惟せるによりても窺ふを得べし願ふにマホメットが邂逅したる基督教徒は自己の宗教の根本原理に關してマホメットと齊としく曖昧なる思想を有したる者なりしなるべし、當時の基督教國民は其大部分まで活ける神を見失ひ其信仰は消失して肖像(キリスト等の像)の禮拜は行はれ、加之神に關する哲學上の爭論および其他宗教上の論辯は基督教會を四分五裂し其勢力を消耗せしめたり彼等の思想中には活ける神なるものなかりき、實に彼等の神たるや虛名の神にして彼等に直接の關係を有せざること猶ほ恰かもアラ神がアラビヤ人に於ける關係に異ならず、神は信條——定義す可からざる者を定義すと稱する信條——の中に隠れて亦見る可からずなりぬ、かの羅馬大帝國を殉へたる眞信仰は影を隠して虛文の信仰は獨り勢

## 世 界 の 諸 宗 教

を得來りぬ而して其結果として避く可からざる世俗主義と腐敗とは國民の中に横行濶歩するに至れり、マホメットはモーセ教と基督教とがかくも悲むべき墮落を來たしたるにも拘らず此二教の中には慥かに眞理の存するを確信して疑はざりき而して此確信に一段の力を加へしめしものは實に彼の妻の叔父ワラカが彼をしてメツカ、メヂナ、および其他のアラビヤの諸市に隠然として何時よりか行はれ來りし精神運動に關係せしめたることなりとす、蓋しアラビヤの都市においてはその處此處に高尚なる個人ありて國人の不道德と偶像禮拜とより離脱して其道德性を開拓し來りし者ありき、彼等は多神教と之れに連關する惡弊を遠け獨りアラ神のみを其神なりとなすのみならず其信仰は單に智識に依らずイスラム即ち意志の服従を專一とするものなりき、世は彼等を呼でハニフと稱しぬハニフとは悔改者の謂なり、今此ハニフ運動の起源を尋ぬるにそは多分猶太のエスセキ教若くは隱遁的基督教にあるが如し或は此兩者がともに其起源をなせしやも知る可からず、エスセキ教とはヨルダンよりアラビヤの野に亘りて廣く行はれたる猶太教にして初代基督教の支派中には此遁世的猶太教と殆んど分つ可からざる



## 世 界 の 諸 宗 教

ものありき、凡そ自ら恩愛の結を断ち世の快樂を捨て、其至誠を證するの人は常に人を感化獎勵するの力を有するものたるは疑なき所なり然り而してペドローンの詩の證する所に依れば當時猶太教若くは基督教の隱者はアラビヤ人が稱讃措く能はざる所のものなりしなり教授ウエルホーゼン曰く「人々に感動を與へしものは彼等の教理に非ずして來らんとする生命、審判の日に對する準備として潔め別てる生活の至て眞面目なるにありき、而して此潔き生活たるや異教徒の汚穢なる生活に比して極めて正反對の光景を呈するものなり、遁世的生活および冥想沈思は亦ハニフの重なる要點なりき而して彼等は時としては基督教の遁世僧と同一なる名稱もて稱呼せられしを見る、想ふに此等無名の福音の證者は教會歴史中に記載する所なしと雖必ずやイスラムの萌芽が生じ來りし種子を播種せしものたるや殆んど疑を容れざる所なり」と

マホメットはかくの如くにして猶太教と基督教とに接觸し來り其性情の傾く所に順ふて新らしき眞理を受け納れたり、彼が寂莫たる大荒野大牧場——アブラハム、モーゼ、エリシヤが彷徨したる大荒野大牧場——の旅行は彼をして神の唯

## 世 界 の 諸 宗 教

一てふ根本眞理を感受するの準備たらしめたるや疑ふ可からず、蓋し荒野ほど最も深く人をして自己の小なるを知らしめ亦永久者の實在を強く心に感得せしむるものはあらず、自然は之れ「吾人が依て以て神を見るの生ける衣裳なり」而して荒野にありては此衣裳は敬虔なる人々に殆んど透明なるが如く見ゆ、荒野は一神教的なり其一望千里一樣なる壯嚴の狀は之れ正しく無限者の觀念を顯現したるものなり、然れどもこは生々活潑々なる自然界が印度歐羅巴人に鼓吹したる活動多産の思想とは異なれり……セミチック人は自然界に行はる、政治の唯一てふ事實にのみ全く其注意を専注したるが故に事物の發達を觀するに方りて唯だ最上主宰者の意志の行はる、一點のみを看得したるのみ彼等に從へば神は存在す、神は天と地を造り給へり之れ彼等が哲學の全体なり、然れども他種族——人生の各方面を闡明するの使命を有する他種族——の觀念は之れと異なれり、彼等は印度より希臘、希臘より北方西方の兩端に至るまで其特有なる觀念を提げて自然界を神聖視したり(レナソ古代の宗教 第百〇三頁)、由來セミチック人種とアリアン人種とは其宗教上の觀念に根本的相違ありとの説は一般の否定する所なりしも此説に對



## 世 界 の 諸 宗 教

しては今や有力なる證據の存するありて吾人は充分に之れが主張を維持し得べし。今夫れ印度希臘にありては自然界の美麗多様豊産なるの影響として造物主と受造物との區別を滅却し成は自然禮拜に傾き或は哲學的凡神說——普通民には神仙說の形となれる哲學的凡神說——に傾向するに至れり之れに反してセミチック思想は神と人との間に越ゆ可からざる淵を設けて嶄然として神人の區別を劃したり而して荒野に於ける若くは荒野に近き生活は彼等の主要なる宗教思想を形成するに與りて力ありしを見る、彼等に從へば神は大なる實在にして萬有の主宰者なり彼に服従するは之れ人間の最上義務なり彼は總ての出來事を按排し亦總ての歴史を嚮導し給ふなり、此故にセミチック人種の神は自然界に於けるよりも歴史中に動作し給ふの神なり、一大オースリチーたるマックスミュラー曰く、若しも予にして一言以て總てのセミチック國民の宗教を名狀せんか、予はそが専ら歴史中に於ける神を禮拜するにありと謂はんと欲す而かもアリアン人種の宗教は自然界に於ける神を禮拜するにあるなりと、兎も角もマホメットには神の存在は一大事實となりき而して神を畏敬するの一事は彼をして偉大なる人物

## 世 界 の 諸 宗 教

たらしめしなり、神よ彼の外に神なし、彼は生ける者自存する者なり、決して微睡せず亦睡眠せず、天地間に存在する萬有は皆彼の所有なり、之れマホメットの信仰の告白なり而して此神や永久の神にして人類を導き無類の預言者に依りて其聖旨を傳へ給ひし神なり、彼は其熱心に傾聴せる根據なき口傳若くは物語よりして預言者の數が實に十二萬四千人の多數なるを聞知したり而して其中の五人なるアダム、ノア、アブラハム、モーゼ、及びイエスは各新默示を得たる人々にして先代の預言をして顔色なからしむるものなりと云ふ事も亦彼が浮説によりて聞き得たる所なり、き彼に從へば最後のものたるイエスの默示は最も純良なるものなり、彼絶叫して曰へらく「汝等基督教徒に告げよ、彼等の神と我神とは同一なり」と、彼は基督教徒をして自己を舊約の預言せるモーゼの如き預言者なりと信奉せしめんが爲めに有らゆる手段を施したり、猶太人も當時アラビヤに住居する者夥多にして亦富有なりしかば、彼等にも亦自己を信せしめんと欲して有らゆる方法を盡したり、然れども破等が彼に聞かず寧ろ彼を嘲罵するに至りて、彼は彼等が聖書を惡化し依て以て民衆をして彼が約束の預言者たるを信するを妨礙すと宣言するに至れ



## 世 界 の 諸 宗 教

り彼は亦聖書中に偽文の混入する事および聖書も一樣に非ず多少異なれる種類のものあるの事實を指摘し以て此事實が彼等をして彼が要求を阻遏せしむる所因なりと論出し始めたり蓋し聖書が其書かれたる時の儘の原形を保存し居らざる部分を有する事は現に存在する聖書の文句によりて推知するを得べしとは舊教徒及び基督教神學者の或人々が云々する所に屬す但し前者の目的は之れを以て聖書不信任の資となさんと欲し後者は聖書稱讚の料に供せんと欲するの差異なきに非ず

かくの如く見もて來ればマホメットが如何にして其宣傳したる宗教の根本事實と觀念との智識を得來りしや何故に彼がそを受け納るゝに躊躇せざりしやは之れを説明するに難からず然かれどもかゝる説明は回教の勃興と其勢力とを説明するものに非ず何となれば猶太人はアラビヤに住してマホメットよりも遙かに能くモーセを知悉したり基督教徒は彼よりも能く福音を知了したりハニフ人は既に業に主要なる聖書の觀念とアラビヤ民古代の信仰とを調和し而して此兩者の結合を基礎として靈的一宗教を建設し多少出世間的なる生活を送り居たりし

## 世 界 の 諸 宗 教

なり然れども新宗教を創立し幾度か基督教を地球上より剪除し去らんとし今日に至るまで幾十百萬の人衆の絶對的服従を恣にし信徒の數に於て全世界のプロテスタント全教會が有する總數と伯仲の位地にあらしむるものは猶太人に非ず基督教徒に非ずハニフ人にも非ずして實にマホメット其人なりしなり果して然らばマホメット教成効の秘密は奈點に存するか

著名なる獨乙の一學者は此秘密を説明せんと欲せば須らくマホメットの特殊なる體質を見るべしと説きぬ蓋しマホメットは非常に感覺敏捷の質にてありき彼は亦幻影を見るの傾向を有し往々にして癡癡發作の状態に陥る事もありき去れば此學者は言はんとす醫師をしてマホメットが罹れる病症は癲癇なりしか止動病なりしか若くはヒステリーなりしかを決定する所あらしめよ然らば如何にして其妻と家族と従弟と奴隸どもが彼自ら宣言したる如く彼を特別なる神の預言者なりと信するに至りしか而して亦如何にしてアラビヤ人——世界に於て生れ乍がら最も分立的性情を有する種族的人民——の幾萬人が彼の命するが儘に其神聖なる血族の關係と祖先の宗教を断ちて彼とともに追放せられ彼とともに



## 世界諸宗教

に死せん事を欲し彼が命する所の事は其何事たるを問はず之れを直行して憚らざらしめしかを説明するの鍵を有すと果して然るか曰く否蓋し癩癩およびヒステリーに罹れる人々はマホメットの前後に少からざりしなり而かも彼等の一人だも宗教を建設せざりしに非ずや願ふにマホメット教に關する説明は唯之れをマホメットの人格に發見し得べきのみ夫れ人格なるものは神が人間の精神と交渉したまふ秘密の場所なり而して此秘密の場所に起れる事件は其人自身のみが是認し得る所にして傍人の得て窺ひ得る所に非ざるなり但し吾人は預言者一人の證言(預言者自ら是認したる所)を否認し得べし歴史の證言に至りては之れを否定する事能はざるなり蓋し歴史の證言や大文字もて記さる個人が其神人感合の妙境に於て自ら見聞せし所のものを唯だ不明に斷片的に言出するの類に非ず然り而して若しも預言者にして單に人たるに留まらば其意識は假令彼自らには最上權威を有するも亦そが人類一般の意識によりて保證せられ清化せらるゝに至りて茲に常規を逸せざる總ての人々の信任に値する所のものとなると雖何故に其然るかを説明すること能はず彼は何故に自ら成効すべしと期待せし時に失敗

## 世界諸宗教

あり其肉眼を以てしては全く失敗の外なしと思ひ設けたる時に成効あるかの理由を説明する能はず彼は唯此場合に於て頭を垂れて言ふのみ之れ神の聖旨なり」と

吾人はマホメットの生涯に於ける最上危機即ち彼が此驚くべき宇宙の秘密は神なり宇宙間に於ける彼自らの位置は其國人に神を宣言し彼等をして偶像と罪惡とを離れて神の審判に堪ゆる者たらしむるにありてふ眞理を抱懐したる當時の狀況に關して吾人の知る所を略記すべし彼が聞き得たる所のものはよしや無稽の虚譚を混せしとするも幾多の眞理——特に神と審判日に關する思想——は深く彼を壓迫したり彼は獨り山間に彷徨して是等の事を思ひめぐらしぬ彼は社交を避けて獨棲の靜寂を樂みぬ遂に危機は來れり彼はヒラ山に俗塵を去る事數閱月なりきヒラ山とは實に巨大なる岩石によりて成り所々に壑谷空洞を有し荒野の烈日の中に獨り寂然として聳へ樹蔭もなく泉もなく小川もなき荒れ山なり彼は此山中の一洞窟中にありて祈禱斷食したり疑問の要は幾日か若くは幾年か晴れやらずして彼の益々神經質なるを加へぬ傳ふる所に依れば彼は其幼時に



癩癩を病める事あり而して其体質や常人に比すれば孱弱にして其体格も亦虚弱なるものありき「口傳に従へば以上は之れマホメットが天來の一聲を聞ける當時の實狀なりとす天來の一聲とは何ぞや曰く「號呼せよ」とマホメットは之れに答へて曰く「予は何を號呼すべきか」と曰く

號呼せよ造物主たる汝の主の名によりて號呼せよ

血より人を造れる造物主の名によりて

號呼せよ何となれば汝の主は仁惠深ければなり

彼は文字を教へ

人の知らざりしものを教へ給へばなり

マホメットは此聲を聞きて戦慄し立ちてカヂヂヤ(妻)に行きて告ぐるに其聞ける所を以てしたりカヂヂヤは彼を信じ彼の恐怖を宥め勸むるに將來に對する希望を以てしたり然れども彼は自ら信する事能はざりき彼は狂氣したるには非ざるか悪鬼につかれたるには非ざるか天來の聲は果して神より來りしか之れ實に彼の疑問とする所なりき

疑ひと怪訝と希望とは交々心胸に來往して爲す所を知らず煩悶懊惱して其地へ難くなりたる生命——希望の天より失望の地獄に陥りたる生命——を絶滅するを快とするの悲境に立てりかくある事幾時かにして(幾程の間なりしか不明也)彼は更に第二の聲を聞きぬ曰く「汝は神の使者なり而して我はガブリエルなり」と是に於て乎彼は實に自己の使命が神の福音即ち天使ガブリエルに依りて來れる善き音信をアラビヤ人に傳ふるにありと確信するに至れり彼は心身ともに疲勞してカヂヂヤの許に歸り行きて曰く「我を蔽へ我を蔽へ」と此時聲ありて曰く

オー爾は已に蔽はる立ちて而して警告せよ

而して爾の主を崇めよ

而して爾の衣服を潔めよ

而して怨恨を避けよ

益を得るの目的もて惠を與ふる勿れ

而して爾の主の命を待て

最初の默示はかくの如くにして彼に來りぬ彼は神が已を召し任ずるに大仕事を



以てし給へるを信じたり而して彼が此使命に服従するや彼は實に別人となりぬ、此後メツカに十年メヅナに十年以上を費やせし期間に於て默示は絶へず彼に來れり最初の十年は彼にとりては試煉の時代なりき而かも其全生涯を通じて彼程に劇甚なる試に接したるは古今稀に見る所なり則ち失望嘲笑侮辱迫害は遠慮なく彼れに落ち來れり然れども彼は其不撓の精神もて之れに堪へ其信仰は確として動く所なかりき、此時にありてや神の唯一にして見へざる者無所不在にして其權能の絶大なる事、正義の行ふべくして善惡の應報誤る所なき事は彼にとりては明白なる真理なりしが故に假令此真理の證言が彼一人の眞實眞面目なる證言に留まるとするも彼はそがアラビヤ人の必ずや信奉せざる可からざる所のものなりと感ぜざるを得ざりしなり此故に彼は時を得るも時を得ざるも彼等に宣教したり其宣教の初期にありては彼等の偶像禮拜を攻撃する事なく、たゞ唯一の神を拜し其罪を悔ひ大審判日——彼にとりて大事實たる審判日——の爲に準備すべしてふ教を彼等に垂るゝに過ぎざりき、然れどもこは徒勞に屬しぬ改悔者は數人のみなりき而して此數人が彼自身の家族、親戚、奴婢の類なりしと言ふに至り

## 世 界 の 諸 宗 教

## 世 界 の 諸 宗 教

ては彼が誠實の如何に強烈なりしかを見るに足れり而して悔改者中には智者多からず貴者多からず權威者多からず而かも一般民衆は彼を目して狂となし然らざれば彼の説く所のものは毫も新らしきものに非ずと揚言したり蓋し彼等祖先の宗教は彼等に相當はしきものなりしのみならず若しも一朝新宗教を受け納れんかメツカ市の利害は之れを犠牲に供せざる可からず而してメツカ市がアラビヤの大部分の宗教的首府としてそが古代より占有し來れる位他を失墜せざる可からざるを如何せん若しも彼等若くは彼等以外の人々にしてカーバの偶像は無意義のものなりと信するに至らんか四圍の種族は禮拜の爲めに出市する事なるべく同時に其施物と俸物とを以て市を賑はす事なきに至るべし、然れども徐々として亦確實に悔改者は其數を増し來れりかくて市の有司は有力なる親戚の保護なき悔改者は皆之れを迫害し始めたり此故にマホメットは其宣教の第五年に其信徒たる十五人の少群をアビシニヤ——正義の地、何人も虐待せられざる地に送り出したり然れども彼等に從ふて移住する信徒漸次に増加し一百人以上に達したり、是に於てコーシ(メツカ市第一流の階級)は其亡命者を引渡さん事をアビ



シニヤに要求したりアビシニヤ王は亡命者等と呼び集め監督の全集會の前にて問ふに彼等がメツカに歸還せざるの理由如何を以てしたり彼等の一人の答に曰く

「オー王よ吾等は嘗て無智の中に生活し偶像を拜し不潔なる行をなしぬ、強者は弱者を壓しぬ、吾等に偽りを言ひ仁慈の義務を破りぬ、然れども一預言者は起れり此預言者たるや吾等が幼時より知れる所の人にして其家柄、行爲、善信仰および其德行は吾等の能く熟知する所なり、彼は吾等に教ゆるに唯一の神を拜し眞を話し善信仰を保持し吾等の親族を助け仁慈の禮を行ひ凡ての不潔、罪惡、不正を離るべきを以てしたり而して亦吾等に命するに祈禱をなし施をなし絶食すべきを以てしたり吾等は彼を信じ彼に従ひぬ然れども我國人は吾等を迫害し吾等を苦め吾等をして吾等の宗教を棄てしめんと試む此故に吾等は身を爾が陛下の保護に托す爾は吾等を保護し給ふべきや」と

而して彼は基督に言説せるコーラン中の一部分を誦したり王と諸監督とは之れを聞きて皆涕を流しぬ、而して王はコレーシの使者に亡命者を引渡すを肯せざり

## 世 界 の 諸 宗 教

## 世 界 の 諸 宗 教

茲に於てメツカの迫害彌々劇甚を加へたり内亂は切迫し來れり何となればコレーシの重立たる人々は假令マホメットの血族が血縁よりしてマホメットに味方し強き反抗に出づるにもせよマホメットの新宗教を破碎せんと決心したればなり、マホメットの叔父にして家族の主たる老アビユータープはマホメットの新宗教を信奉せざりしと雖是迄彼を保護し來りし人なるが事の大事に至らん事を恐れてマホメットに向ひて「我が負ひ能はざる重荷を我に負はしむる勿れ」と乞ひぬ、マホメットは此言に深く感動したり蓋し此叔父は常に彼を子として款待したり而して預言者(マホメット)は凡そ人の爲し得ん事は何事にも彼が爲めに喜びて爲すに躊躇せざりしなり、然れども一事は之れを爲す事能はざりき一事とは何ぞや彼の國人に神を宣べ傳へよと命する心内の聲に不忠實なる事是なり之れ實に彼にござりては非常なる罪惡なりしなり此故にマホメットは答へて曰く「假令彼等にして我右手に太陽、左手に月を置きて我を苦むるも神命の存する所我目的を廢棄する能はず」とかく謂ひて彼は涙に咽せび、かくて是迄住み慣れし叔父の家を



## 世 界 の 諸 宗 教

見棄てつゝ立ち去らんとしたりアビエーテリッブは彼を呼び留めて曰く「我兄弟の子よ歸り來れ」とマホメットの歸り來るや老人は言ひき「安全にして去れ我が甥よ而して汝が言はんと欲する所を言へ何となれば我れ主に依りて契ふ我決して汝を敵手に渡さじ」と然れどもアビエーテリッブは間もなく死しぬ眞の妻にして第一の改宗者たるカヂヂヤも亦死しぬメツカはマホメットに關係する何人の存在をも好まず市の幸福はマホメットの滅亡を要求したり若しもコレーシにしてマホメットを死罪に渡たすを得たらんには其結果は果して如何に成り行くべかりしか想ふに一事は確實なり則ち彼の弟子等にして其信仰を傳播し得たりとせばマホメットは毫も譴責する所なき預言者および殉教者の一人として史上に卓出したるなるべし然れどもコレーシはマホメットを得る能はざりき而して此回教の前途暗鬱たるの時に方りて一條の希望の光明は思ひ掛なき邊より出で來りぬメヂナに於ける悔改者輩は彼を誘ふに彼等の許に遁れ來るべきを以てしたり彼等はメツカの年祭に巡禮として來り尙かにマホメットに約するに「アラ神の外他神を拜せず自己の所有に非ざる物に其手を觸れず姦淫を爲さず嬰兒を殺さず讒

## 世 界 の 諸 宗 教

謗を避け神の使者が公平に要求する所のものは之れを行ふべしてふ契約を以てしたり彼等は亦自己の妻子を保護するが如く彼を保護すべしと約しマホメットも亦爾後全く彼等の親戚の一人なりと自認し決して彼等の仲間を離るゝ事なからべしと約したり此盟約に従へば新宗教は從來アラビヤに行はれし血族關係に代はりて凡ての社會的政治的關係の基礎たるべきの意を有す而して此新宗教の信條や之れを略言すれば「主の外に神なし而してマホメットは其使徒なりてふ一事なりとす此信仰たるや舊來の強力なる結合を解除し同時に世界の驚嘆を博せる社會の新構造を結成するの膠灰たるに相當はしきものたりしなり、マホメットがメヂナに逃亡せしは紀元六百二十二年の六月十六日の事なりき回教徒は此日を紀元の初日として歴史を起算すマホメットは其後十年間生存したり而して此十年間にありては彼は立法者政治家大將裁判官帝王たるの職を盡し又説教者預言者の務をもなしぬ但し此時にありては彼の預言的言辭は其調子を一變したり詳しく云へば彼が當時の言辭は彼に委ねられたる事柄に關しては著るしく職權的命令權威的裁斷の性質を帯び昔日の神に對する熱烈若くは懷疑的



## 世 界 の 諸 宗 教

メツカ人に説ける熱心なる議論および要求の胸奥より迸れると大に其趣きを異にしたり然れども彼は驚くべき成功もて此新職務を成し遂げたり彼の個人的感化は爲政に於ける其経験と才能の欠如を償ふて餘ありしのみならず亦彼が自ら其年來の理想と彼自らの法律とより離れ去れるを隠掩し若くは償ふて餘あらしめしなり政略と戦争との實際上の必要は彼が以前絶對的に主張したる正義眞實慈悲てふ教を幾分か變更せざるを得ざるに至らしめぬ夫れ人の墮落は見苦るしきものなり而かも他人の改善に盡瘁し亦之れが爲めに多大の痛苦を蒙れるマホメットの如き人にして其絶對的權力を有するに至りて墮落し去るは更に一層見苦るしきものなり彼は信仰ある者は四人の妻を有するを得べしとなせるも彼自らは時に九人の妻と二人の奴隷小女を有したる事ありき此非行を説き去らんと企圖は一にして足らず而して其根據とする所は其五十五歳迄克己精勵したる彼が如きは普通に臆定せらるゝよりも他の理由によりて此事ありしなるべしとなすにありソードナル博士は曰く予は彼が後年に於ける多婚の眞原因が慈悲の心より出で其受難の弟子等の寡婦を保護するが爲めなりしを信すと吾人は此説

## 世 界 の 諸 宗 教

明に對して微笑を洩らすを禁する能はざるを如何せん若しも慈悲心がその理由なりしならば其信徒も同じ理由によりて彼と齊しく多婚をなし得べきに非ずや且つ夫れ迫害は彼が五十五歳に達せざりし遠き以前に於て全く休止したるを見るに非ずや人或は彼の性格の此方面を指摘するを好まず然かも之れ決して見免がす可からざるものなり特に彼が此瑕疵を准許せんが爲めに神の默示を恐ろししたるを見るに至ては斷じて見免がし能はざるを如何せん  
「宗教には暴力若くは壓制ある可からず」とはマホメットがメツカに於て教へたる所なり然れども彼が一度勇敢なる幾多の武人を有するに至てや彼はメヂナ附近に住居せる猶太人が彼を承認せざるの故を以て彼等の或者を殺し亦其數百人を殺戮して聊かも關心せざりし事あり然れども彼が新政略の成效や實に驚くべきものありき然り彼の死時にはアラビヤの全半島殆んど一齊に新信仰に従へるを見る假令其後新信仰に反抗するの舉普く行はれざりしには非ずメヂナも一度之れが攻撃を受けたる事ありと雖こは一時の現象たるに留まり回教は國民の宗教として兩立せらるゝに至りぬ而して其勢焰々として猛火の如く直ちに文明世界



の大部分に蔓延するに至れり羅馬の大軍もコスロエス(スペインの大王)の全群もアラビヤ軍——不信者を悔改せしめ亦自らは富と天國とを得んと欲して荒野より突進し來れるアラビヤ軍——の鋒先に立つこと能はず彼等はパレスチナ、スリヤ、ペルシア、エヂプト、北亞弗利加を征服し亞弗利加より歐羅巴に一躍しスペインに其國を建設し其征服したる民衆には回教か劍か貢税か三者孰れかを撰ぶべきを命じたり而して戦勝の其極に達するや戦勝者の心中に高尚なる精神は起り來りぬ、學問の精神是なり而して科學哲學は回教治下の特質をなすに至りぬ、かのコルドフとバグダットの如きは其相距ること遠きにも拘らずともに文學美術の中心とはなれり、然れどもシャーレマンが建設したる新西羅馬帝國は半月旗が歐羅巴に猶ほも侵入し來るを阻遏したり蓋し此新西羅馬帝國は眞面目なる信仰と眞實なる神學と純潔なる生活とを有したるの國なりしなり、實にパリス市尹の鐵槌はビリニースの彼方に半月旗を追遣りぬ、かくて基督教の勇者はアスタリヤの山間に蜂起し漸次スペインよりして回教を放逐するに至れり、かくの如くにして歐羅巴は一方に回教の霸絆を脱したりと雖爲めに他方に之れが攻撃を蒙る事

## 世界諸宗教

## 世界諸宗教

となれり詳しく言へば二百年の間基督教國は之れと聖地を争ひ遂に其打ち勝つ所となれり其後暫らくの間は基督教徒も回教徒もともに韃靼蠻族の威嚇する所となりしと雖此蠻族や遂に回教に従ひぬ而して第五世紀の頃回教の強軍はコンスタンチノーブルを襲撃して之れを取り之れを根據地として彼處より強兵を繰り出して諸方を侵略し連戦連勝してウエンナの門にまで攻め來り基督教國をして震愕せしめたり第十六世紀宗教改革の争論に際しては土耳其人の威嚇および侵入は新教をして兩三其剪滅の災を免かれしめたり何となれば土耳其人の威嚇および侵入は帝國をして其全力を之れに傾注せしめ新教の撲滅に其力を専らにする事能はざらしめしが故なり、實に「土耳其人の恐怖」は當時各人の心膽を寒からしめたる所なりしなり爾來回教は歐羅巴には衰微したれども猶ほ中央亞細亞を保ち印度に其進歩の歩を繼續し亞弗利加に基督教と其主權を争ひつゝありこは驚くべき歴史なり、然り而してコーランは如何程まで預言者の歴史を吾人に明らかにし亦其成効を説明するものなるか願ふにコーランの書たるや簡短なるものにして印度教、佛教、儒教の經典の尨大なるが如きに非ず、セールの英譯は英文



## 世 界 の 諸 宗 教

讀書が讀み得る唯一の詳はしき譯なるが其余まりに原意を傳ふるに忠なる讀で傾解し難きものあり「モール」は章の順序を回教にて定めたる順序に従へり然かも此順序たるやそが年代の前後に従へるに非ず思想の發達に前後を定めたるに非ず若くは他の理由ありて然りしにも非ず然れどもかのノルデークは略ぼ各章の年代を定め吾人をしてコーラン中に存するマホメットが預言者としての精神的歴史と其事業の重なる徑路を辿るを得しむるに至りぬ、こは之れ吾人が歴史的研究若くは高等批評に負ふ所のもの一端なりとす、

マホメットの生存中は其默示を書籍中に保存するの必要を感せざりき、蓋し使者は其傳ふる音信よりも大なりき則ち彼は自ら古き音信を繰返し必要に應じて新らしき音信を傳ふるを得たり或は彼が會て教へたる所のものを修正し或は之れを抹殺するを得たりしなり、彼は默示の力によりて其教を改作するの自由を要求したり曰く「我が如何なる文句を抹殺し若くは汝の記憶より取り去るにもせよ我らは之れに代ゆるに更に善きものを以てし若くは夫れに似たるものを以てするなり」と但し默示は大概に皆預言者の口より出でしが儘に弟子等によりて記録

## 世 界 の 諸 宗 教

せられたり、而してそれを記録せんが爲めに紙に代用したる材料は種々雑多なり、しかども皆是等を一箱中に收めて保存し置きぬ、然れども教師等は自ら之れを一書冊となすの必要を感せざりき、こは彼等は自己の記憶中に我靈魂に生命と光明を與へし預言者の言辭を蓄積し居るの故のみならず彼等が預言者自身の直傳に接したりとの事が彼等にとりて重要至極の事なりしが故なり、而して多數の弟子は書冊なくしてマホメットの全教訓を暗誦し得たり此暗誦者の中よりして宣教師は撰出せられアラビヤの全種族に行きて信仰の道を宣べ傳へしめしなり、マホメットの死後すらも成文書冊の必要は直ちには起り來らざりき回教徒にとりては吾人が初代の基督教徒に見るが如く口頭の言語は書かれたる言語(文字)よりも一層有効なりしなり然れども偽りの預言者はマホメットの死後幾人か起り來りてマホメットの位地を得んと企てたり、而して此偽預言者の一人と回教徒の間に慘憺たる戦ひは惹起せられ最も能くコーランに通ずる人々の死するもの極めて多かりき是に於てオーマーは信仰の基礎を全く記憶に一任するの危険を深く感じ教主アビューベクルに向て曰へり「予は他の戰場にコーランの暗誦者が復た殺



戮せられ、かくて失ふ所多大なるべきを恐る此故に今にして速かにコーランを一書冊となすの命を出さん事を勸告すと教主は之れが實行に伴ふ幾多の疑惑なきに非ざりしかども此勸告を採用して當時纔かに二十二歳の少年たりしザビトの子ザイド——マホメットの書記長たりし人——に諸断片を蒐集し之れを合して一書冊となすの大任を委托したり、ザイドは是に於て乎磐石、獸皮、棕櫚の葉、野羊および駱駝の胛骨および人々の心胸に記されたる默示を發見して之れを編輯したり、願ふに其材料を正確に寫出し之れを編纂したる點に於てはザイドの効や間然する所なし之れ回教界が彼の書冊を公認したるによりても明白なる所なり然れども各章の順序をして遺憾なからしむる事はザイドの爲し能はざる所なりしなり而してこは彼には重要な事とは見へざりしなり蓋しそが各語各字は即ち之れその原書たる天上の「書物の母」より直寫し來りたるものなれば其順序の如きは敢て問ふ所には非ざりしなり、實に此書を疑ふ者は不信の犬なりき、果して然らばコーランの或章若くは或章の一部分が預言者の生涯の初期に於て言出せられたるものなるか若くは後期に於て教へられしかを問ふの要なかりしなり、

## 世 界 の 諸 宗 教

吾人はコーランに對するザイドの此態度が基督教徒の多くが聖書に對して今日まで取り來れる態度と全く相似たるを見る夫れ聖書は文學にして元來一書冊を爲すものには非ず此故に各書の著者の性質と其如何なる境遇にありて書かれしやを研究するはコーランの如き一人の手に成れる一書冊の研究に比して遙かに必要たるべきは明白なる所なり別言すれば歴史研究は神の文庫に對してはそがコーランに對して與へ得るよりも一層大なる光明を放ちて其研究に資する所あるべきなり、然かも此事の明白なるにも拘らず學者輩は幾世紀の間毫も歴史的批評に頓着する所なかりしなり而して多くの基督教徒は今日も猶ほ聖書中の文句はそが話されたる時代の如何に關せず何人が始めに言ひ出だしたるかに拘らず孰れも同一の價值を有すと想像するなり、

吾人はかの善良なるザイドが若しも彼にしてコーランの各章を預言者の靈的發達に準じて排列せしならばコーランの研究に極めて便宜なるべしとの事に思ひ及ばざりしを怪ます蓋し總ての信仰者並びにザイドにとりてはコーランの一言一句は皆之れ等としく價值あるものなりしなり従て長き章は短かき章に比して

## 世 界 の 諸 宗 教



更に一段尊貴なるものとせられたり此故にザイドは概ね最も長き章を始めに置き最も短かきものを最後に置き「初巻」と稱するものの巻頭には「回教徒の主の祈を附しぬ之れ其單純美麗にして屢は彼等の唱ふる所なればなり此祈たるや如何なる基督教徒も如何なる教會も唱ふるを得る所のものなり曰く「設むべき哉神世界の造主慈悲深き憐恤者審判の日の主我等は禮拜し爾の祐助を希ふ我等をして正しき道に向はしめ爾が恩恵を施し給へる人々爾の喜び給へる人々爾より迷ひ出でざりし人々の道に我等を向はしめ給へ」と。

ザイドがコーランの排列は當時にありては極めて満足なるものなりき然れども短き章は概ねマホメットの宣教の初期に屬するものにして長き章は後期に屬するものなるが故にザイドの排列は自然の順序の正反對に出づるものなり此故にコーランの讀者はそを初頁より順次に未頁に読み去るよりも未頁より漸次に初頁に読み來るによりてマホメットが最初に宣傳したる教と回教が充分に發達し來れる進歩の道行とを比較的に能く領會するを得べし然れども吾人は一々其順序を定むる事能はず……諸断片は無造作に排列せらる蓋しそが材量は之れを人

## 世 界 の 諸 宗 教

## 世 界 の 諸 宗 教

間の手にて調理するには余りに神聖なりしに依るなり此故にコーランや混亂せる一塊をなせるなり之れを例せば嵌工ハットの各部粗造不規則に排列せられ其意匠の知る可からざるが如しと。

イスラエルの聖文學を編輯したる學者輩も同じく批評的判斷を欠けるの故を以て之れと等としき事を爲しぬ而して此事たるや吾人は之れを舊約書に於て證するを得べし見よ彼等はそが最初の五書を第六書より引き離したるに非ずや然かもヨシア書は前五書とにも初代の書として同一文書より編纂せられたるものなり彼等は亦アモス、ホゼアをイザヤ、エレミヤ、ホゼキエルの後に置きぬ而して彼等は亦所謂十二小預言者の中に最も初代の預言者と最も後代の預言者とを混入してそが文書を一書中に編入したり而して今日の基督教徒中にも該學者輩の此器械的動作に容喙するを以て殆んど褻瀆罪の如くに思惟する者なきに非ず甚だしきに至ては預言者の文書を有の儘に示さんと欲する尊敬すべき學者の眞面目なる盡力を指して「破壊的批評」の名を以てする者すらなきに非ず。

コーランの譯文が全く原文の勢力を傳へ得ざるは怪むを要せず、コーラ



## 世 界 の 諸 宗 教

イルが「無興味、混雑、粗笨、野卑にして反覆極まりなく冗長無秩序にして最も粗笨野卑なるもの約言すれば甚だしき愚痴の書にして義務の感を以てするに非ざるよりは如何なる歐羅巴人にも之れを續了せしむる事能はざるものなり」と謂へるは決して過言に非ざるなり然れどもロードウエル若くは故バルコー教授の譯文若くはプールの抜粹に接し特にマホメットの初期の言辭を讀むの人々はカーライルと甚だ異なる斷定をなすなるべしと思はる。

ザイドのコーランが編成せらるゝや間もなく種々の文句はそが寫本中に入り來りぬ是に於て第二の編成を要する事となれり、之れ第一の編成を去る事殆んど二十年の出來事なりき、之れ自然の數にして凡そ言々句々天啓に成れりと信せられたる書冊に於て屢見る所の事實なり、願ふにかの信徒等は經典の原本は全く清淨無垢なるを信せしと雖之れが寫本中には多少異なるものありて孰れも其是非を判定し難きに苦しみしが故に彼等は原文を誤りなく傳ふるものを得るの必要を感じぬ教主オスコンは時期後れざる今にして此大事業に當らん事を勧められザイドに命じ助くるにコーレーシの三學者を以てし彼の以前の編成を改正せしめ

## 世 界 の 諸 宗 教

たり、かくてザイド等は凡ての異なる寫本を詮索して各書の本文を取調べ是なるものは之れをマホメットの邦言たりしメツかの土音に同化して聖經中に編入し然らざるものは總て之れを燒棄し去りぬ——之れ後の研究にとりて回復し難き大損耗なりとす——其時よりしてザイドの校訂は世界の回教徒の唯一の經典となりて今日に及べり、回教徒は此誤謬なき經典を提げて新約全書に存する幾百千の自家相違の點と比較對照して頗る慢邑なきに非ず而して「文字は殺すものなりてふ事を信せず經典の純良を保つ實際の最良保證は批評なき壓迫によりて生ぜし首尾一貫一樣同形にあるに非ずして寧ろ自由より來る多様多形に存するを知らざるの人は此比較對照に一驚を喫するなるべし然れども賢明なる基督教徒は此無益の勝利の名譽を回教神學者に讓るに吝なるものに非ず、

## 第二章 回々教の成效及其頹廢の原因

(一)マホメットの人格は猶太人、基督教徒、ハニフ宗なるアラビヤ人が共同に包有し



世 界 の 諸 宗 教

たる真理をして焔々の勢あらしめたり然り而して彼が非常なる成効は重に此人格の力に依るものならずんば非ず勿論其成効を追溯して其原因を此見へざる勢力に歸するは不充分なるべし然しながら人格を外にしての説明が到底事實を説明するものに非ざる事は敢て深く事實を詮索して後に知り得べき所には非ず例せばかの辯證學者輩は基督教は人の道徳に訴へて成効し回教は劍を用ゆるを允許し戦死者たる總ての信徒には死後の樂園を約して成効したりと宣言し來りぬ然れども基督教徒もそが政治上の權力を掌握するに至て有らゆる政治力を使用するに躊躇せざりしに非ずや見よ基督教はコンスタンチン大帝の改宗以來其態度に驚くべき一變化を來せしに非ず シャーレマンの軍旗は亦サクソン人種を改宗せしむるに於て宣教師輩の傳道よりも大に力ありしを見るに非ずや且つ夫れ十字旗の下に戦へる人々は天堂地獄——往々にして甚だ物質的なる天堂地獄——の信念を有せし事猶半月旗の下に戦へる回教徒の如くには非ざりしか勿論マホメットが先づ其最初の悔改者等および兵士輩を心服せしめかくて其絶對的なる援護を蒙むれる事は事實なるに相違なし然かもカーライルが示摘せし

世 界 の 諸 宗 教

如く適當なる疑問は是れなり曰く——マホメットは如何にして其兵力を得しやかの混沌無智なりしアラビヤの諸種族が強固なる堡壘を獲得し會て世界を征服したる訓練せる羅馬軍に打勝つを得しは何時亦如何にして起りしやと云ふ事なりとす、

是れと齊しくマホメットが人間の情慾に訴へ一夫多妻を准許し又之れ以外にも男女の非行を是認しかくて若し宗教道徳なるものを教へたらんには背教すべかりし人々をも其信徒中に編入して以てかゝる成効を博したりとの説も亦齊東野人の言たらずんばあらず事實を言へばマホメットは始め其信徒に課するに重き道徳的行爲を以てしたるが故に改宗者を得る事甚だ困難なりしなり想ふにマホメットがアラビヤ人に精神的宗教の宣傳者、惡習の改革者を以て目せられたるは今や一般に知れ亘りたる所なり而して彼の重なる改革が細心以て婦人の境遇を改善するにありし事も亦明白なる事實なり實に多妻の制限、一妻主義の推薦アラビヤ人の結婚の恐るべき亂雜なる風習に對する抑制、離婚の制限、離婚せられたる婦人に對して其前夫をして或期間之れに扶助を與へしむる事、小兒の養育、婦人を



## 世 界 の 諸 宗 教

して法律上嗣子の権利を與へ(男子の半ば程の價值を與へたりと雖)寡婦を亡夫の一部分として取扱ふ惡習の廢棄は當時の人民が堪へ能はざりし程の大改革なりしなりタイフのサカファイテスの事實は回教が其他の事柄に於ても周圍の異教に超然卓絶し亦マホメットが其目的を達するの手段として暫しなりとも或不道徳を斷然見免がすを許さざりし一例として引用するを得べしホナインの戰役後サカファイテスはメデナに使者を送りてマホメットに敬禮を拂ひ其信仰に従ふべきを約したり但し姦淫と高利貸と飲酒とは之れを許可せられん事を願ひぬマホメットは之れを拒絶しかゝる行爲は假令避け難き行爲なりとするも回教徒は皆實際之れを廢棄したりと答へたりサカファイテスは次に多數愚民に對する讓歩としてラバ即タイフの女神を三年若くは二年若くは一年さなくば一ヶ月たりとも保存せん事を乞ひぬ然かもマホメットは斷乎として之れを退けたり而して彼が與へたる唯一の讓歩はラバを破壊するには彼等の手を煩はするに及ばず彼自ら人々を送りて全く之れを破壊し去るべしとの事なりき。

願ふにがの奴隸——恰かも埃及の煉瓦工場より免れ來れる奴隸——をして

## 世 界 の 諸 宗 教

國民と化し彼等をして巨人に打ち勝ち戰車と騎兵とを有し廻らすに壘壁を以てせる幾多の市邑に勝利を得しめたる見へざる勢力は亦アラビヤの荒野に於ける遊牧の民をして無敵の強軍たらしめしなり、モーセは二千年以前にありてアラビヤの荒野にエホバ——永久にして活ける神世界の主宰者——として神を宣言し而して亦此神はアブラハム、イサク、ヤコブに神意を傳へ玉ひイスラエル人を撰民として撰び給ひたりと宣べ傳へぬ、イスラエル人は之れを信じて一國民となれり、此眞理や實に萬有の最高最深なる實在の領會なるが此同じ眞理はマホメットを捕捉しぬ茲に於て乎マホメットは其全身全靈を提げて之れが爲めに働きぬ而して信徒の心は預言者の胸中に於ける炎々たる焰によりて燃されぬ回教は此の如くにして第七世紀の教會が纒かに補持して稍もすれば失はんとしたる權能を捕捉したり今夫れ神は宇宙の靈魂にして實に吾人の如き人格者なり、彼は凡ての自然界が證言する全能の造物主凡ての歴史が其意志を記録する歴史の支配者預言者に自願し給へる顯現者なり而して其默示に服従するは之れ人間の最上智慧最上幸福なり彼の審判は何人も免かるゝ事能はざるものなりとの眞理は之



## 世 界 の 諸 宗 教

れ猶太教と基督教とが立てる共同の基礎に非ずや而して猶太教は基督教の基礎にして亦基督教の準備をなせるものたるは言ふ迄もなし而してイスラエル人の神の意識は預言者詩人——イスラエルの歴史を神の教育の步履なりと解釋せる預言者詩人——の永き久しき教導によりて漸次に廣潤なるものと成り來りしなり基督教に至ては其子によれる神の完全なる默示を傳ふるものにして聖靈によりて其子の像に吾等を一新するの力を與ふるものなり吾等にして若しもキリストによりて現はれ給へる神は吾等の最上主君なりとの根本真理を排除して之れに代ゆるに他の何者をか以てせんか神は吾等を譴責し吾等を辱かしめ給ふべし實に神はマホメットを用ひ正當ならざる基督教(妾腹の出たる基督教)たる回教によりて數百年間基督教國を譴責し給ひたり彼は再三再四賤しき者によりて世の卓越したる者を空しきに歸らせ以て血肉は彼の前に尊ぶに足らず有らゆる權能は彼の物なりてふ事を知らしめ給ひぬ見よ師士の時代にありて彼は妓婦の子たるヂエフサをして何人も救ふ能はざるの時に於てイスラエル人を救ひ玉へるに非ずや去れば宗教哲學は不完全なるマホメットも亦不完全なるヂエフサ

## 世 界 の 諸 宗 教

もともに神が人類を教育し玉ふ歴史てふもの、中に有用なる役割を有する者たるを發見し得るなり、  
マホメットが人間の義務に關して教へたる大真理は彼が抱懷せる神の觀念より流出し來りしなり、カーライル曰く回教は吾人に教ゆるに神に服従すべき事、吾人の全力は神に全く服従し其命じ給ふ所は如何なることなりとも之を行ふに存すと云ふ事を以てす——回教は亦人間最高の智慧は管に必然——人をして服従するの止む可からしむる必然——に服従するのみならず亦必然が按排したる嚴酷峻烈なる事柄も實は必要なる最善最上なるものなりと云ふ事を知り亦信するにありて存すと主張するものなり此大なる神の世界を人の腦髓の小塊もて精察批評すてふ狂氣の汰沙をやめ世界人事に起り來る所の事は假令人の測り知る能ざる所なりとも實際正しき法則に外ならず亦此法則の精神は善意なるものたるを了知し、世界に處する人の義務は宇宙全体の法則に一致し敬虔の心もて黙して之れに従ふにあり其理由は問ふ事なく問ふ可からざるものとして之れに従ふにありと主張す……こは回教の精神なりこは亦當然基督教の精神に非ずや



何となれば回教は混亂せる基督教なればなり若し基督教にして無りせば回教も亦有ることなかりしなり基督教も亦先づ第一に神に献身すべしと命すと基督教は神に對する献身を命す而して更に多くを命するものなりこは亦献身を命じ玉ふ神の性質の善美を圓滿完全に顯彰するものなり、ビショブ、パツラー曰く「服従は宗教の全体なり」と果して然らばマホメットは宗教の全体を宣傳したるものなりと云はざる可からず然れどもそれは決して宗教の全体には非ずパツラーは唯だ眞理の一方面を言出せるのみ若しも服従のみが宗教の全体ならば人は決して奴隷の境遇よりして向上進歩せざりしならん眞正の宗教は服従の義務を人に教ゆるのみならず亦其服従する神を顯彰するものなり然り眞正の宗教は神の名若くは性格を顯彰して以て服従をして奴隷の服従に非ずして父子の關係に出づるものたらしむる程に進ましむるものなり而して父子の關係は人間の相對的獨立を含蓄し此相對的獨立は亦人間進歩の保證たらずんばあらざるなり他言以て之れを言へば眞正の宗教は(一)神に對する親しき情と(二)進歩と(三)依頼の三要素を人心中に培養するものなり然かも回教は依頼の一要素を養ふのみ、リボンの監督が回教

は依頼の要素を充分に供給すと雖宗教の避く可からざる他の二要素に至りては之れを給與することなしと言へるは決して證言に非ず(宗教の永久要素ハア)此故に古來回教に此二要素を接樹せんと試みたること一再に非ず而かもかゝる企あるは正しく回教の不完全にして人間の精神的要求を満たすに不充分なる所以を證するものに非ずして何ぞや、

人間の心情が見へざる神と眞實密接なる交情を得んと望むは之れ人間本然の渴仰なるが回教徒も此本然の渴仰に刺動せられて其大預言者(マホメット)を今日も尙生きて彼等の爲にアラ神に執成しつゝありと思し亦言説す然れどもこはマホメット自身の明白なる教を無視するものたるを如何せん彼等は亦神と受造物との間に存する怖ろしき淵に架橋せんとして聖人禮拜を行ふ然れどもコーランは全くかゝる禮拜を禁止し神と人との間に非常なる懸隔を設くるなり祈禱の間は規則正しく定められ亦實行せらる然れども兩者に握手する教主なく仲保者なきが故に其祈禱が單に慣習に成り了るに止まりて神と親しく交はりて心を慰むるに足るものなく神と合一して恒に新しき生命、鼓吹、進歩の源たる事能はざる



は毫も怪むに足らざるなり」

スフキ派(回教の一派)の人々は神の愛を教へ神を愛するは人の最上義務なりと説き此教義を提げて神との親交てふ一要素を供給し遂に神人合一の妙境に達せんと試みたり然れども此運動や回教の精神とは異なるを如何せん然りマホメツトは常に如何なる場合にも神が其受造物と直接に關係し給ふと思想するを肯せざりき彼は神が受造物と關係し給ふは唯自己の意志を知らしめんが爲めに預言者を通ふして語り玉ふ時のみを思惟したりしなり而かも此時すらも神は人の精神と合一調和するに非ず唯だ神が單に天に於ける原經或は寧ろ神の心中に存する一書物よりして預言者に語り玉ふ言語の複讀を意味するのみ回教神學者が殆んど一様に教ゆる所に従へば此書物たるや神聖にして永久なるもの神の中に無始に存する非受造的言辭なりとす此故に神と人との間には外部的人爲的なる神と人との橋——コーラン——の存するあるのみ去れば回教には神秘的要素若くはスフキ主義を容るゝの余地なきや知るべきなり「自然神教と神秘説とは實際兩立し難きものなり——兩者の根本原理の矛盾は之れを隠すを得べし取り

世 界 の 諸 宗 教

世 界 の 諸 宗 教

去る事能はざるなり、神秘説(スキズム)を抱合する回教者は之れによりて自己の宗教の足らざる所あるを證明するものにして眞のスキフアイト(神秘派の回教者)は斷じて回教者に非ざるなり(講義四九、五〇頁ヒツパルド)

進歩の要素も亦然り勿論回教の歴史にありては之がスペイン、ペルシャ、印度を支配したる時代に於て智的生活の著るしき發現なかりしには非ず而して此著るしき智的生活の發現たるや恰かも回教をしてそが他の宗教に優りて人間智性の發達に資する所あるが如くに見へしむるものなり蓋し回教の勝利に次で進歩は來れり而して常に「新天」の結果たる「新地」は回教が征服したる各地に大進歩をなし來りしなり去ればエム、レナンが第八世紀の中葉より第十三世紀の中葉に亘る五百年間に於て回教國には大思想家大學者と稱すべき者少からざりしのみならず之れを一般より云ふも回教國は基督教國よりも智的教育に於て優に進歩したる所ありきと言へるは決して過言には非ずかゝる事實あるにも拘らずレナンは他の公平無私なる學者輩と共に論結して曰へらく回教の信仰と教育の進歩の精神とは其間に何等の連鎖あるには非ずと然り事實は之れを證すかの開化の花爛熳と



世 界 の 諸 宗 教

して咲ける諸回教國にすらも永久に生々たる智識の樹は之れを見る事能はず人類の堅確なる進歩も亦尋ぬ可からざるの事實は正しく此論結の酷ならざるを證するものに非ずして何ぞや願ふに回教が神を全く萬有を離れて獨存する超自然的存在者なりとなすの教義は最も高尚なる靈的生活の要件にして亦無限の進歩を促催する潜勢力たる神と人との親交を禁遏するものなり此故に回教にありては宗教をば靈魂の活泉にして人の靈性を豊かならしめ有らゆる死物に生命を與ふるものなりと觀するの余地ある事なし去れば神のインスピレーションは人間の技術、學問、詩歌、工藝には與へらるゝものに非ず神は曾て一度インスピレーションを與へたるのみ而してそは一書冊(コーラン)中に記載せらる但し人間の手作と思考に對してそが思想を聖別しそが藝術を尊貴ならしむる所以のインスピレーションなるものあるなし人は畫き、歌ひ、學び、發見すべし彼は神の手工の不思議を探索し亦解明し得べし彼は彼の發明によりて生活の重荷を軽減し得べし然れども彼が是れを爲すや天來の智慧に依るに非ず神は決してかゝる事物を喜び給ふものに非ず(宗敎の永久要 果して然らば人間も亦かゝる事物に對して興味を有せ

世 界 の 諸 宗 教

ざるべきは必然の勢のみ人或は言はん基督教國にありても時としては學問、技藝を排斥し「理性」と「默示」に反對したる事なきに非ずと然り基督教の或形狀(宗派)が現世の生活と事業とを冷視し他界主義を以て宗教の精髓なりと宣傳したる事なきに非ず然れどもキユイチンが指摘したる如く眞面目なる歴史家は清教主義と基督教とを單純に同一視せんと夢みるることなし然かもワハビ主義(回教)中にありてピユリタンの如き一派は眞に回教其物回教即回教の全体にして回教以外の何物にも非ざるなり、  
回教てふ詞が標榜する大義務はマホメットが抱懷せる神の觀念より起り來りしや疑なし即ち此世界は神の世界なり神は其主宰者なり世界に於ける人間の唯一の位地および義務は神の奴婢たる事なりてふ事はマホメットにとりては疑ふ可からざる大眞理なりしなり而して萬事は皆此信念中に併吞せられ亦茲よりして割り出だされぬかくて國民は教會の中に埋没せられたりぬ此故に若しも教會にして軍事的行動を採るなからんか教會は爲めに腐敗し來らざるを得ず何となればそが教會併びに神に關する見解は外形的にして教會の使命を以て全世界の諸



國民に打勝ち彼等を一社會(一教會)に鑄造する事なりと思惟し、世界民衆の個人性と國民性を保守し尊敬し乍ら同時に其靈性を高上、鼓吹、發達せしむるにありとはなきざりしが故なり且つマホメットは絶へず宣言して言へり「アラに服従せよ」と以爲らくアラは万有を按排し善きも惡きも万事を豫定し給へる永久の存在者なり彼は其意ふ所を命じ給へり而して何人も其命令を逃避する事能はずと然り而して此豫定説たるや若しも神は父也てふ更に廣濶なる真理と連結するに非ざれば結局宿命説に轉化するを免かれざるは吾人が屢見る所の事實なり去ればキスメット(こは運命なり)てふ一語は回教徒に對しては萬事を定むる言辭たり此語を言出せんか戦場の死も彼等を恐怖せしむるに足らず彼等は從容として餘儀なしてふ感覺より生ずる無頓着感覺痲痺に陥り(信仰の永生を有する人と異なりて)絶へて自己の勉力を用ゆる事あるなし彼等は決して勞作し抵抗し逃避せず、咳くことすら爲さざるなり、然れども不可能事を行ふは之れ神意なりと彼等に勸説せよ彼等は之れを行ふに躊躇せざるなり然り神意てふ一語は彼等をして最も驚嘆すべき大効業を爲し遂ぐるに足るものたらしむるを得べし然れども此大効業

にして完成せんか彼等は再び無爲無動作に終るべし回教が平時に於けるよりも戦時に於て偉大なるは之れが爲なり回教の眞ホームは軍營中に存す、此故にそが兵器を提げて戦場に立つや實に一世を驚倒すべき大勝利を博すと雖堅確なる進歩をなして自然界を征服し美術界と思想界と生活界とに於て勝利者たるは未だし「かのダルウエ教徒(回教の一派)がアラよと叫び幾度か駿足旋轉して遂に無感覺に陥るは正しく回教の歴史的行歩を寫し出したるものなり」

(二)各宗教は之れを試験吟味せんには先づ第一にそが有する神の觀念如何を見來らざる可からず此試験吟味を施さんか吾人は回教の強所弱所の奈點に存するかを窺ふを得べし夫れ回教は其神に關する根本原理——最高最深の實在に關する根本原理——を猶太教と基督教とより得來り非常なる勢力もて之れを確説し燎原の勢をなして世界を席卷するに至れり、マホメットは其身分より云へば貧乏孤獨無教育なりき然れども彼は萬世不朽の教訓を教へたり則ち神の不全完なる領會すらも心の誠實と精力との伴ふあらば多數人衆が賛同し又地上の權力によりて防護せられたる完全なる信條よりも更に大なる事を成し得べきを教へた



世界諸宗教

り願ふに舊約歴史は徹頭徹尾神力が人間の尊重する一切の事物に優りて權能ありてふ此教訓を教ゆるの活畫なり見よ出埃及記は埃及の騎馬軍車に打勝てる奴隸の勝利に非ずやカナンの勝利は高層なる城壁と巨人の群に打勝てる精神的勢力の凱旋に非ずやイスラエルの預言者等が記述して將來の詩人等が面白く歌へるイスラエル人の凡ての救は實に此教訓に對する新らしき例證にてありき有らゆる勝利はイスラエル人に權能は獨り神に屬するものにして神を知るの人々は眞心より彼に信任せざる可からずてふ事を教へしなり神を知り神に信任して立たんか一人は以て千人に當るべく二人は以て萬人を奔らしむるを得べし之れ舊約歴史が徹頭徹尾教ゆる所の事實なり然り而して舊約と新約とに存する至要なる差異は新約に在りては神の名(性格)が完全に顯現せられたるにあり——則ち舊新兩約の聖き方法に則りて——言にあらす事實に依りて顯現せられたるにあり事實とは何ぞや曰く神の産み給へる獨子の顯現し給へる所のものなり而して此顯現たるや極めて明白にして特に其十字架に依りて大文字もて描き出されたれば帝王の光輝もコンスタンチンの榮光すらも之れを隠す事能はざるにも拘

世界諸宗教

らず世界が神の名の意味を見ず一時なりとも之れを忘却したるは吾人の怪訝に堪へざる所なり然かも事實は正に此事ありしを證す猶太人は基督に彼等を導くべかりし自國の預言者を拒みたり而して基督教徒も亦其生活よりしてイエスの眞理を引き離し神の名の永久の意味は神は世界の主なり彼全世界を統治し給ふ而して神の國は行爲にありて信條にあらす力にありて空しき告白にあらすてふ事を忘却し去りしなり斯の如きが故に此の至重なる——信仰猶太人と基督教徒が曾て有せし信仰——の告白を再び天下に號呼し將に迷忘に陥落せんとする世界人衆を警醒するの必要ありしなり而して神の爲し玉ふ所のものは吾人が謹で神の諷刺と稱する所のものにして彼は當時の大師父等に比すれば單に一乳兒たるに過ぎざる一人唯だ神の名の始の文學のみを解せし一人に此重大なる使命を與へ玉ひしなり然かも此一人や知る所少なかりしにもせよ其知る所のものは傳へて之れを他人に知らしめたり彼は此世界は神の世界にして亦其主宰する所なり世界に於ける人間の位地は神の僕婢たるにあり神は自國民と全世界とに此使命を傳へしめんとして彼を撰び給へりと確信して疑ふ所なかりき而して彼



は此使命を傳ふるに雷電の勢もて直ちに人の肺肝に肉薄したり去れば基督教會は使徒的權能もて此使命を再呼し亦イエスの宗教に存する時殊の根本主義に忠實なる事猶ほ回教徒が神の主權に關する真理に忠實なるが如くなるに非んば到底回教徒を牽引して基督教に歸せしむる事能はざるべし。

回教の成効は驚くべしと雖其失敗も亦己に明白なり而してそれが失敗の原因を尋求せんか神の觀念の不充分てふ一事に歸せざる可からず蓋し回教は單に神の唯一と其主權とを其基礎となすものにして事物の眞諦と神の性質と神の按排とに其根底を有せざるが故に其衰滅に歸すべきは免かる可からざるの運命に屬す吾人は一面回教徒と共に信仰の基礎を同ふし乍がら一面彼に示すに此信仰の磐上に立てる更に完全なる默示を以てし得べし、默示とは何ぞや曰く自然界を服従せしめたる人——其榮光は忍耐、服従、柔和、謙遜に存し先きに神と一にして亦永久に神と一体たり然かも人の靈魂の眞諦と偉大とを洞見し給へるが故に罪人の爲めに其身を犠牲となし愛の力によりて人を其羈絆より放ち罪より救ひかくて地上に天國を建設し人の子を神の子となし基督と共に嗣子たらしむるを得べきを

## 世 界 の 諸 宗 教

## 世 界 の 諸 宗 教

完全に知り玉へる人——によりて現はれたる至大至高の默示是なり、コーランは實に神は唯一、心靈最上、慈悲、神聖なる者なりと記述す、然れどもコーランの神は己の像に象りて造れる人間に對して完全なる純愛を要求せざるが故にそれが神は神聖なりとなす事能はずコーランの神の正義は舊約の不撓の正義にあらず新約の更に怖るべき正義を距るや遙かに遠し其愛は人間の弱點を恣にせしむるに存して罪惡と罪惡の勢力より人を救出するに充分なる設備をなすにあるに非ずそれが神の政治は專制にして隨意に人の罪を赦し毫も畏敬の念を起さしめざるが故に從て其尊嚴を失墜す而して神の性格は贖罪なくして罪を赦すが故に其價值損んじ其愛は自己の純潔と自己の尊嚴を無視するの觀あるを免かれず然り而してマホメットが神の性格を表はすに於て此の如き欠陥に陥りしは何ぞや曰く之れ一に彼が神性の秘密を領會し能はざりしに起因せずんばあらず勿論マホメットにとりては神は人格の神にして活動し支配し預言者等に自現し玉ふ神なりしと雖然かも神は唯主宰者のみ父には非ざりしなり此故に神と其受造物特更に神と地上の人間との仲保となり兩者に握手し聖靈の聖き親みによりて兩者を結合



回々教の成効及其頹廢の原因

する永久の獨子を有せず神と人との深淵は神子化身によりて連絡せられざるなり己に神子化身を有せず従て聖靈の働きなるものなく亦人心が基督に於ける神と絶へず親睦一致するが如きものを有せざるなり且つ神と人とは天然に視密なるものなるに回教には人が神に對して子たるの關係を有するの餘地なく亦神が罪惡の攻撃と誘惑に對して人を衛護するの餘地を剩さざるなり一言以て之れを言へばマホメットは父と子と聖靈として神を領會するに至らざりしなり則ち凡ての基督教神學の根本にして吾人の宗教的生命靈的勢力の源泉たる三位一体の眞理に到達し得ざりしなり回教の道德欠點とそが最高文明を發生し亦之れを支持するに堪へざるは此根本的弱所あるが爲めならずんばあらず由是觀之三位一体の眞理が如何に實際的なるものなるかを窺ふに足るべし但し此眞理にして單に神に關する概念たるに止まらんかこは唯だ數學上の困惑のみ其無益なる事恰かも使徒約翰が嘲笑したる一神論者の唯一神の論定の如きのみイエスは決して理論として此眞理を表示せざりき彼はニカヤの信條もアタナシヤスの信條をも編成せざりしなり彼が自己と神との合一を宣言するや弟子等をして彼等自身と

神との關係を窺知せしめんが爲めなりしのみ彼は神の父たるを描出して人と神との關係を顯彰表示したり蓋し神は父なりてふ事實は之れ主要根本普偏の眞理なればなり想ふに各人は皆子たるが故に多少父情の何物たるやを解す而して人の父たる人々は自己の深き願望が自己の有する最高最美の長所に其子の似たらん事なるを知れり而してイエスは父なる神も亦此の如しと教へたり彼が神の父性を顯現し亦神と自己との合一を顯彰したる目的は吾人の性格をして天に在る物の模形たる彼自身に同化せしめんとするにありきかくの如くにして彼自身は即ち基督教なりき而して基督教徒とは基督の裏に在ませし神が我が爲めに生れ苦しみ死し給へる事と基督の裏に在せし神は今も聖靈に依りて我が裏に生き給ふ事を知る者の謂なり去れば何人たりとも基督の靈を有せざらんかそは決して基督の徒に非ざるなり然れども回教は毫も吾人の爲めに亦吾人の裏に存する神を知らず十字架を有せずイエスてふ人物とイエスの靈に代ゆるに唯だ不完全なる一書を以てするのみ此書や不變の法典にして極めて能くアラビヤ人とメツカに參拜シラムザンの絶食を遵守し得る國民にのみ適合するものにして萬國萬人



に適合するものに非ず況んや凡ての時代にをや  
 有らゆる宗教は第二にそが有する人間の觀念によりて吟味試験せざる可からず  
 夫れ神の觀念にして不充分ならんか人間の觀念も必然に其影響を蒙むるを免か  
 れず今若し神にして單に主宰者にして父に非ざらんか人は男女の別なく臣隸若  
 くは奴婢にして子たる能はず神に對する服従は高調せらるべし神と親しき關係  
 を持し人類の高貴と進歩を促進する一段に至りては極めて不充分なるを免かれ  
 ず而して此欠點や回教徒が婦人を蔑視しコーランに定めたる一夫多妻と離婚と  
 蓄妾を恣にするによりて極めて明白に暴露せられたるを見るなり然れども見よ  
 聖書に存する創世紀の記事なるものを其著明なる物語は男女の關係が如何に親  
 密にして神聖なるかを示すに非ずや而して基督教は此男女の關係をして更に一  
 段の神聖を加へしめるを見るイエスはモーセが與へたる離婚法を非難して天然  
 の法則たる初代の律法に返るべきを以てし一夫一婦が萬民の義務たるを斷言し  
 たり想ふに人は兩性間に存する此主要にして根本的なる關係を領會し之れを防  
 護するに非ずんば決して最上の向上發達を遂ぐる可はず若しも文明にして

純潔なる家族的生活に其根底を有せざらんかそは不朽の文明たること能はず若  
 しも人類の一半にしてそが正當に分有すべき社會的生活を掠奪せられんかそが  
 社會は決して最上至高の文明を見る事を得ざるなり若しも婦人の固有する純潔  
 にして信を置かれざらんかそが社會は決して眞正の文化に浴するを得ざるなり  
 「家庭を潔めざるの宗教は人類を甦生する事能はず家庭を破壊する宗教が人類を  
 破壊するは必然の數なり男てふ事を尊貴なるものたらしめんとならば母てふ事  
 を神聖ならしめざる可からず妻女の神聖を褫奪せよ男的生涯の神聖は滅却せら  
 るべし而して回教や實に此の如しこは之れ蠻族を革新し進歩せしめたると共に  
 亦文明的國民を破壊し之れを蠻化したり而して其美はしき文化の根には害虫の  
 生息するありて忽ちにしてそが文化の花を凋花枯死せしむるに至りぬ去ればマ  
 ホメットにして若しも人間の希望たらんか人間は實に望なきものなり彼の將來  
 は退歩と暴虐と失望とのみ」フェアベルン神の市然り回教が公認する陋劣なる蓄  
 妾と任意の離婚と一夫多妻とは實に家庭的生活を衰滅せしむるものなり而して  
 婦人は男子(近親、奴隸、小兒等以外の男子)の前にありては必ず覆面すべしとのマホ



メットの律法の結果は社交的生活より婦人を引去り最も高等なる社會の存在を不可能たらしむるに終るなり、蓋し基督教國に於て婦人が貢獻する宗教的慈善的生活と事業、娛樂、教育、美術、文學、政治、および社會の各方面に於ける婦人の事業を取り見よ社會が如何に成り行くべきかは之を想像するに難からず、去れば婦人を男子の補助益友となさず之れを男子の奴隸、玩具として待つ、の宗教は決して永續し得べきものに非ず然り基督教と相併んで永久に存在する事能はざるなり、かゝる宗教は近世生活の根本原理に違反し、そが傾向と習慣とに背戻し兼ねて人心に存する最善最美なる道念に抵觸矛盾するものなり、但し吾人はマホメットが婦人の位地を高め婦人に關する舊法を改革したる事は之れを忘却す可からず故に吾人は此點に於てマホメットを譴責する事なく却て彼を稱讚せざる可からず然れども基督の宗教のみが獨り家族に於ける婦人の理想的位地を教へ社會に於ける其立場を保證するものたるを記憶するを要す、

回教の辯護者輩が此議論に對して答ふる所は如何、彼等は猶太人に一夫多妻の先例あるを喋々し且つ嚴格なる一夫一婦制の結果として基督教國の市都に行はる

## 世 界 の 諸 宗 教

## 世 界 の 諸 宗 教

怖るべき「社會的害惡」を指摘し、全体として回教國は基督教國に優る所あるを宣言す、彼等は亦マホメットの立法の精神が一夫一婦主義に傾けるものにして大多數の回教徒は唯一妻を有するものなるを論辯す、然かも吾人は答へて言はんとす、基督教の理想は眞實なるものなり基督教徒が自己の理想に向て發展進歩するや其正比例に於て基督教の結果たる高等の社會状態は一般に實現せらるべし之れに反してコーランは有らゆる婦人を劣等なるものと永久に標榜しかくて道德と純潔と家庭的な生活と社會との理想を降下するものなりと彼等は亦基督教國に飲酒の弊風あるを摘發すこは不幸にしてコーランが禁する所たる飲酒暴飲の弊なき回教國と著るしき對比をあらはすものなるが吾人は此處にも以上の答を提出して之れが答辯たらしめんと欲す、吾人は再言す基督教の理想は高遠なるものなりと而して亦言はんとす假令回教國に行はるゝ禁酒は稱讚すべきものにして基督教國に於ける飲酒の弊風と美はしき對比をなすとすも猶ほ使用と濫用とを區別する内部的主義より起れる禁酒若くは弱き兄弟を躓かせざる犠牲の精神より起る禁酒は外部的律法によりて保證せられたる消極的德行に比して遙かに



世 界 の 諸 宗 教

高尚なるものなりと基督教は罪惡たるものは何物をも禁制す人間が如何程孱弱なるも毫も關知する所にあらず實に基督教は罪惡に對しては人間の弱點が如何に明白なればとて毫も之を讓歩する事をなさず人に命するにそが理想的標準に上進すべきを以てす而して世界の事物は之をして働きて吾人の向上進歩に資する所あらしめ吾人が靈的法則に服從するの報酬として人の言に勝る祝福を得べしと約束するものなり然れども夫れ自らに罪惡ならざる事物にして唯危險たるに止まり従て或境遇位地時代に於て不便たるに過ぎるものに關しては基督教の取る所の態度は自ら異ならざるを得ず基督教はマホメットや釋迦が採れるが如き捷徑——今日も猶ほ感情一片の人々を蠱惑する捷徑——を採らずかゝる事柄に就ては其禁すべきと禁すべからざるの時とを辨別するの責任を吾人自らに負はしめかくて節制をして單に器械的ならず道義的たらしむるものなり而してそが包容濶大なる主義は吾人が爲す一切の行爲——飲食の些事に至るまで——をして神の榮光の爲ならしむるものにして此主義によりて吾人が日常生活も道徳的訓練に欠く可からざる尊貴なるものたるを知らしめかくて

吾人の生活の全部を神聖なるものとなすなり。

第三章 儒教

世 界 の 諸 宗 教

孔子は紀元前五百五十一年を以て生る此時代たるや時の滿つるに及びて吾等の教主が出現し給へる萬國民の記憶すべき時代を外にしては世界の歴史中最も著明なる世紀の中葉に位す蓋し紀元前第六世紀代にありてや印度に於ては今日も或學者輩が他宗教に優りて多數の信徒を有すと稱する一宗教の開祖たる釋迦即ち佛陀の誕生するあり而して希臘(アリアン)人種の一派の住居地たる希臘に於ては大預言者系先覺たるアスキラス社會哲學の父たるピタゴラスの出生するあり猶太に於ては此世紀はエルサレムの掠奪によりて外見上眞宗教の滅亡を來たし猶太國民が北東の遠地に追放せられたるの時代なり然かもエレミアが滅亡は唯之れ更に偉大なる將來に到達するの準備のみ則見ゆる石の臺の上に立たず見ざる靈的基礎の上に立てる更に偉大なる將來に到着するの段階に外ならずと叫べるも此の時代なり此時代にありてエホバ教は死し亦復活したり而してエレミヤ



世 界 の 諸 宗 教

エゼキエルの大人格、異教的救主たるサイラスの事蹟(彼はペルシヤ人にして猶太人をバビロンより解放したる人なり彼がエホバ禮拜者に對する態度は猶太教徒とバビロン征服者たるペルシヤ人との間に存せし同情の著明なる證なり)而して——サイラスの使命と豫想——亦之れと相關係して——追放時代の預言者等が放てる光彩特に其一人なる預言者が爲せる不朽の努力は更に此の時代を飾るの事實にてありき而して此一預言者が物せる書物(イサヤ書四十章以下)は猶太の學者の健全なる本能によりてエルサレムのイザヤが物せる書中に編入せられ彼自らは健全なるキリスト教的心情が「福音的預言者」と呼び做す所のものなり此の世紀は實にエルサレムにありて痛哭せるエレミア、ケバルの岸邊にありて追放民に説教せるエゼキエルの聲を聴聞しバビロンに於ける預言者等がエホバの民を慰籍せる大音聲に其鼓膜を打つと共に亦追放者中の選民が故國に歸還しエルサレムの神殿を再築するを見ハガイ、ザカリア及び無名の詩人輩が失望せる教會を慰め神殿を完成するの義務を國民に強ゆるをも聞きしなり、此世紀は支那の長歴史にありても最も著明なる時代なりしなり蓋し此の世紀に

世 界 の 諸 宗 教

ありてや孔子のみならず思辯家として更に偉大なる老子も現はれ來りぬ但し老子は思辯家として偉大なれども構成的才能は殆んど皆無の人なりき彼が教へたる高尙なる哲理は後代に至りて其の眞義を失ひ似て而して非なる迷謬とは成り了りぬ然り而して此の事實や正しく只だ「見へざるもの」に對する思辯にして若しも積極的なる天來の默示を欠如せんか教育ある人々を捕ふるに足らず却て多數人民の愚かなる迷信に墮落するに至るべきを警告するものなり、支那人の祖先は紀元前幾千年の昔にありて中央若くは西方亞細亞よりして東方に彷徨し來れり支那人の歴史は當時に於ける先祖が家屋なく被服なく火食を知らざる獵夫たりしを記載す彼等は久しく荒野と森林とを旅行して遂に緯度四十一度に位する黄河の北曲に達しかくて支那の花園に入り來り此處に中國と稱する國家を建設し漸次に舊來の土民を山間若しくは海岸に驅逐し以て東方亞細亞の最強大なる國民とはなりしなり概して云へば吾人は支那國を以て數千年間同一状態に固定せしが如く思惟するの習慣を存す然れどもそは支那歴史に通曉せざるの致す處のみ之れ猶暗中に於て色の區別なきに第し事實を言へば社會は軌



れも變化しつゝあるものなり去れば吾人にして若も支那國をば古代より現代の如き状態に固定し來れりと思惟せんか決て支那てふものを領解する事能はざるべし實に今日の支那は驚くべき範圍まで國家統一の問題を解決したり然かも其過去を稽ふればそは幾百年の間種々の王國及び人種に分裂し各異れる法律言語制度を有し互に殘虐戰鬥を事したり其狀猶英國に於ける七分立國若しくは佛蘭西以多利獨乙の各部分が互に内亂を事とし若しくは共同の敵と戰へるの様に相似たり夫れ支那は往昔已に夫自ら一乾坤をなせるものにして猶ほルカが羅馬帝國と稱して「世界」と呼べるが如く純然たる一世界をなせしなり想ふに路加は羅馬帝國以外に夫よりも遙かに古き文明ありて存するあるを知らざりしなり而して當時に於ける羅馬の歴史家輩も路加が自己の知れる限りの世界に「世界」の名稱を附したるを齊しく羅馬帝國を全世界なりと信じてそが歴史を記述したり然かも支那國は宛然として「世界」の觀をなし古代よりして其文明を維持し來りしなり而して今日にありては支那は歐羅巴よりも多くの人民を有し亦々歐羅巴の何國よりも小數なる軍隊もて大國民の秩序を維持しつゝあり其廣袤と人口と氣候の

世界諸宗教

世界諸宗教

區域より言へばそは實に一大陸と見做されざるに非ず然かもそが一國として存在し敢て分裂せざる所以のものは重に孔子が二千四百年の昔種々の經典を編纂し此の經典が共同の特質と共同の習慣理想を國民の腦裡に印するが爲のみ今夫支那國民の歴史を尋ねればそは國民として孔子以前已に業に數千年間存在し來りしなり蓋し孔子が著作したる書經(即歴史の書は紀元前二千三百五十六年代に溯りて其の筆を起せばなり彼れは此の時代に關して瞬昧模糊たる年代記歴史以前の荒唐妄誕なる記事——多くの教育ある支那人は今日も猶之れを信據す——の領分を脱して比較的正確なる基礎の上に立ちてそが歴史を記述するを得たりしなり彼は歴史的過去の記録を研究して國家を支持昌榮せしむるに必要なりし動力の何物たりしやを發見したり彼は古人を信じ古人を愛したるが故に其全生涯を通じて古人の言行を學ぶ處ありき彼は預言者若しくは詩人たるよりも寧ろ研究者經典家學者歴史家なりき彼の自言に従へば彼は傳ふる者にして造る者には非ざりしなり彼の体系(教)は彼が支那古代の歴史と宗教とに存して價值ありと思惟せる總てのものを包括すと雖も然かも彼自らの思想觀念は支那國民の永



## 世 界 の 諸 宗 教

く久しき發達に對して多少の變更を加へ亦之れに統一を與ふるものとはなれり此の故に彼の体系は國民をして絶對的眞理および究竟的眞理たるの印證を有すと承認せしむるに至りぬ去れば支那を知らんと欲せば獨り孔子の生涯と其事業を知るを要すと云ふもの必ずしも過言に非ざるが如し然り吾人は孔子によりて支那國民を解するを得べし其の言聲によりて四億萬人の心調に觸るゝを得る事之れを譬へば猶ほ巧妙なる構造を有する一貝尻ありて四億萬の同族の脈膊を代表傳達するに異ならず而して今日に至る迄支那人がその最大の恩惠者若しくは最良の人に對して拂ふ最も高尚なる讃詞は「彼は殆んせ孔子の如き善人なりてふ事にして之れ以上の讃詞は又ある事なしとす、

支那公使は千八百九十三年を以てシカゴに於て斷言して曰へり「萬代を通して萬世に亘りて師として尊敬するに足る者一人のみ而してこは即ち孔子なり」而して「孔子が人類に貢獻したる所のものを思料せんが爲めには之を天地の徳に比せざる可からず」と單に人間として自ら神の默求を蒙れりと宣言せざる人にして世界に於て此の如き位地を與へらるゝ者安にかある、イエスは自ら最上者の子なりと

## 世 界 の 諸 宗 教

斷言したり而してそが信徒は此の宣言を許容するが故に彼等がイエスを禮拜するは敢て怪むに足らず、マホメットは自ら神託を蒙れりと信じたり而して回教徒は彼が然かありしを確信す而して彼等はコーランの教あるにも拘らずアラと同じく大能者なりとして彼を尊信するが故に彼等がマホメットを一切の人類以上に尊敬するは毫も怪むに足らず釋迦は宇宙に靈的解釋を與へたり而して其の信徒は無謬の默示として之を承認したるが故に彼等の宗教の特徴が今も猶釋迦の仁惠と釋迦に對する幾多の希望とにあるを傾解するに難からず然れども孔子は單純に人にして其の自ら信價する所に依れば彼は前代に存じて民衆を教化開發し天理に従ふべきを諭したる幾多の偉人——故に亦創制的才能を有し若しくは天よりの默示を受けたりと信せられたる幾多の偉人——に劣れる者にして唯だ其賤しき研究者若しくは模倣者たるに過ぎざりしなり、然かも彼が其名と効績とを稱讚して措かざりし古王古聖は民衆の忘却する所となりて彼のみ獨り幾百千萬の精神を支配するに至りぬ實に民衆は神の禮拜を廢して彼を禮拜する者となれし而して彼の子孫は支那國に於ける唯一無二の世襲



## 世 界 の 諸 宗 教

貴族にして其名譽と恩給と特權とは綿々として繼續し孔子以來支那國を掃蕩せし總ての革命も遂に之を革むるとなかりしなり而して貧民は假令赤貧者の子なりとも孔子の經典に通曉する事他の競争者に優るあらんには世界の大帝國の宰相たり得べきを知るが故に深く孔子を恭敬し官吏は總ての事孔子に負ふ所あるの故を以て深く彼を尊敬す有らゆる市都にありては——第三位に位する市町すらも——必ず孔子の廟宇ありて學者貴顯帝王に至るまで宗教的なる禮拜奉事を孔子に呈す而して此宗教的奉事なるものは香膠乳香白檀を燻じ菓實酒花を祭壇に俵ぐるにあり祭壇の銘に曰く我等が崇敬する孔子よ願くは爾の靈をして來り我等が謹んで爾に俵ぐる此尊敬をうけよと而してかゝる禮拜たるや各人が其永逝せる兩親に爲すべしと命せらるゝ所の禮拜と全く同一なりとす果して然らば孔子は支那全國民の父として承認せらるゝ者なり而して——よしや單純に人間なりとも——人間以上の大人物として認識せらるゝものなりと云はざる可からず。

孔子は魯に生る魯は封建の一國にして現時の青州の中にあり孔子の父は支那名

## 世 界 の 諸 宗 教

家の子孫にして軍事上の大官なりき彼父は二十七歳以上にして第二の妻を娶りかくて其男兒の三歳を出ざるに先ちて逝去したりと云ふ父逝去の後家族は貧に苦みしかども孔子は後年その貧苦が大なる便益たりしを明言したり支那早婚の例に従ひて孔子も十九歳にして妻を娶りぬ然れども彼の家庭生活は幸福なるものには非らざりしが如し彼は種々なる官職に任命せられて其職分を忠實に盡す所ありしが一朝かゝる官職よりも教師——詳しく言へば學校教師に非ず有志の青年を教導する教師——の職が自己に適任なるを見るや遂に其官職を棄て、之れに従事するに至れり而して彼れの名聲は極めて大にして眞面目なる生徒は次第に加はり數千人を算するに至りぬ然り而して孔子の性格如何は彼が其弟子等に與へたる印象によりて之れを判知するを得べし案するに弟子等の多くは當時の支那にありて最も才能ある人々なりき普通の支那言句もて之れを言へば彼等は長者にして言と行とに能ある人々なりしなり然かも孔子を呼ぶに未曾有の偉人鳥類中の神鳥蟻垤中の高山雨溜池に對する河海を以てしたるは實に彼等に始まりしなり彼は彼等の心を獲其滿腔の嘆美を博したり彼等は彼に尊敬の



歌を謠ひぬ此歌や以來總ての時代を貫通して反響しつゝある所のものにしてそが殆んど二千四百年の昔にありしが如く今も猶ほ其響を滅せず其信任を失はず吾人は孔子を正當に傾解せんと欲せば彼の時代に於ける支那國の事情を明かにしかくて彼が専心一意之れ事とせる事業の何物たりしやを探究する所なかる可からず想ふに孔子の時代にありてやかの麗しき華國は四分五裂し姦雄は競ひ起り戦闘は間斷なく國家は久しく疲弊し來りぬ孔子第三代の弟子にして多分弟子中の最大なる者たりし孟子は時の状況を名狀して言へり曰く「世衰道微邪說暴行有作臣弑其君子弑其父者孔子懼於是乎企圖改革矣」と教授レツヂが支那古代の文字および形象文字の研究によりて證言する所に依れば支那古代の宗教は本來漠然たる一神教なりき然れども此神若しくは上帝禮拜を中心として多數の神靈を禮拜する劣等なる崇拜は起り來り而して此の神靈たるや山川草木其他の自然物及び總ての禮拜の對象中に寓居すと想像せられたるものなり迷信的卜卦の方法も亦古代の産にしてそは將來の出來事を占ひ特に企圖せる計畫が幸運なるべきか非運なるべきかを卜知するの目的に出づるもの

### 世 界 の 諸 宗 教

### 世 界 の 諸 宗 教

なり而して社會の大綱弛廢するの當時に方つて其他にも種々雜多の偽善者輩出し超自然の智識と能力を有すと揚言せし者あるべきは正に疑を容れざる所なり一懷疑論者あり一哲學者に謂て曰く人は今日幽靈の存在を信せざるが如く神の存在を信せざるの時來るべしと哲學者答へて曰く果して其時來らんか人は再び幽靈を信するに至るべしと實に然り元來支那人は神に關する明確なる智識を有せざりし國民にして純粹なる宗教上の觀念によりて何等の感化をも受る所なかりし民なり彼等は敬虔なる人民たるよりも生れながらにして魯鈍實利の民なり此故に太古の社會(書經に依れば紀元一千二百年代に存在したる社會)にありては人民の階級中に僧侶の階級なるものあるなし詳しく言へは當時の社會には士農工商の別ありき然かも彼等の宗教性に對しては何等の設備する所ありしを見ず此故に人民は種々様々の迷信に耽り孔子の時代にありては此弊は特に劇甚を極め瞞着者流は人民の恐怖と不幸を利用して自己の私益を獲取するを之れ事とせり孔子の眞面目なる性質よりすればかゝる不誠欺騙は嫌惡憎棄すべき事柄なりしなり去れば彼は見へざる世界に關しては何をも知る所なかりしが故に亦何を



儒 教 九十二

も教ゆる所なかりき然かも之れ決して彼が非宗教的なりしが故に非ず然り彼は断じて非宗教的には非らざりしなり見よ彼は國家的禮拜——太古の昔より傳り來れる祈禱と感謝の供物たる國家的禮拜——に對して非常に重きを置けるに非らずや勿論此國家的禮拜たるや一の儀式たるに止まれり然かも彼にとりては古代の儀式は實に最大なる真理を表示するものなりしなり彼が支那人として貴族として軍人の子として有せる深き保守的天性は彼をして現在の紊亂を脱し之を療醫するの良法を過去の智慧と秩序と制度の中に探求せしむるに至りぬ彼が必要至極となせる一事は堅確なる平和的社會を建設するにありき家を脩め國民を整へ世界の平和を確保するは之れ彼の理想なりき而して孔子が抱懐せる「合同平和の帝國てふ理想——天下の萬國を親和せしめんとの理想——は國民の精神に極めて驚くべき大勢力を有し來りぬ思ふに支那が其驚くべき一致を保ちし再三再四對外戦争の敗衄を挽回し内亂を平定し其著しき大統一を恢復するを得る所以のものは一つに孔子の理想の感化に出づると云も決して過言に非ざるなり。

孔子は此理想——ベツレヘムの天使の歌を理想する基督教徒は誰しも同意すべき此の理想——を目標として之れに達せんが爲めに人間自然の法則と古人が制定したる道義法に訴へ絶へて人界以上にありて人の思想の及ばざる超自然界若しくは超自然的な人格者よりして來れる默示に依頼する事なかりしなり彼は迷信を抑制せんとは企てざりしと雖も然かも「怪力亂神」詳しく言へば鬼神若しくは超自然界に關する事柄を語るを避けぬ之れ迷信の妄誕に注意を拂はざるは之と戦ふの最良策なりと信じたるが故なり孔子曰く「未能事人焉能事鬼」と亦曰く「未知生焉知死」と彼亦曰く「丘之禱久矣」と彼が斯く言へるは彼の祈禱が道德的生活と良心の指揮に絶へず服従するに存して人の病を醫すに益なきを暗示するものなりと云はざる可からず蓋し彼が此の言を語れるは彼の「疾病」にして子路が彼に祈らん事を乞ひ且つ「一祈禱書(誅)」の中より天神地祇に對する俸禱を引用し來りしに答ふる所のものなりしを見れば其の意義や必ず然からざるを得ざればなり彼は他の場合に「獲罪於天無所禱也」と言へり之れ鬼神は天命に悖るの人々に祝福を與ふるの權能なしと言へるの意味なり彼亦曰く「非其鬼而祭之諂也」と之れ人は自



家の先祖の靈を崇拜すべきものにして自家の範圍を脱して他人の靈——よしや偉人の靈なりとも——を祭るは單に諂媚にして全く容許すべからざる事なりとの意義を有するものなり。

孔子の大目的は世をして過去の黄金時代に復歸するにありて存しぬ彼に従へば古代にありては先王は多くは徳を愛し民は其の教に傾聴し其の模範に習ひ天然に備はれる禮法と人々の身分及び道德に關する聖賢の言辭を實踐躬行したりしなり彼は法律習慣制度及び模範を最大主要の事柄なりと信じたり此故に彼は眞面目に過去の研究に一身を委ね亦其の門人等にも絶へず彼に倣ひて之れが學究に従事すべきを以てしたり今孔子自身の言を引用せんに

「我非生而知之者好古敏以求之者也

若聖與仁吾豈敢爲之學而不厭誨人不倦則可謂云爾已矣

吾嘗終日不食終夜不寢以思無益不如學也

不怨天不尤人下學而上達知我者其天乎

十室之邑必有忠信如丘者焉不如丘之好學也

## 世 界 の 諸 宗 教

不憤不啓不悱不發舉一隅不以三隅反則不復也

德之不脩學之不講聞義不能徒不善不能改是吾憂也

好仁不好學其蔽也愚好知不好學其蔽蕩好信不好學其蔽也賊好直不好學其蔽也絞

好勇不好學其蔽也亂好剛不好學其蔽也狂

孔子が過去の記録の研究の結果として得來れる主重なる結論は何ぞや

(第一)拜天の禮は獨り帝王のみが自己の爲に且つは人民の代表者として行ふべきの禮拜なり而して天子より以下庶人に至りては自家の先祖を禮拜するを以て至當とすと云ふ事なりとす彼はかくの如くにして吾人の所謂禮拜をば民衆より遙かに引き離して其の宗教の精髓をば家族制度の中に置きぬ而して此の家族的宗教たるや孔子の教訓ありて以來今日に至るまで支那國に確立したる所のものにしてそが社會の柱石膠灰と成り來れるものなり實に支那にありては孝は最も大なる徳にして他は皆其中に包括せらるゝを見る夫れ人は其の好む所を信するを得べく其の欲する如何なる宗教的禮拜をも行ふを得べし然かも其の兩親に對しては其の生時にも死時にも之を尊敬せざる可からず國家は嚴密に孝道を國民に



## 世 界 の 諸 宗 教

命じ國民の感情は孝道の實踐躬行を主張して止まず佛教と道教老子教とは孔子の歿後數世紀にして信教の自由を得且つ半ば確立したる宗教たるに至りしと雖孝道の一事に至りては儒教の規矩を遵奉せざるを得ざりき而して二教の併尼すらも孝道の義務を脱する事能はず彼等も普通人と齊しく其の兩親に對しては相當の尊敬を拂ひ其の祖先を祭り親戚の死に關しては其の關係の親疎に従ひて喪を行はざる可からずとせられたり若しも彼等にして此の義務を蹂躪する事あらば一百の罰鞭を興へられ普通生活に還俗せざる可からず支那に於ける回々教徒も亦其兩親を崇敬し其の祖先を祭るに躊躇する者に非らず獨り基督教徒のみは古來の習慣に違反し彼等が實に孝道の義務を有するにも拘らず之れを無視して顧みずと非難せらる而して此の非難たるや實際支那人が基督教に對する重なる非難にして其愛國心も亦此の非難を高調するに力ありと云はざる可からず何となれば支那宣教師は國法を蹂躪せる信徒を保護せん事を自國の大使に訴へ以て彼等の愛國心を挑發する所あればなり君人は孝道に關する支那人の至誠を疑はず而してそが一片の習俗にあるに非ずして彼等の心奥に深き根底を有するを信

## 世 界 の 諸 宗 教

ず此故に支那人に對して説く所あらんと欲するか殆んど何處にても亦如何なる教義をも説くを得べし而して些の妨礙若しくは暴行に遇ふ事なかるべし若し才能と頓智とを以てせば佛教道教の寺社に於ける偶像禮拜、迷信的儀式を冷笑するも唯之れ善意の笑と稱讃とを起すに過ぎざらんのみ其熱心家と稱する輩すらも亦善意の笑と稱讃とを呈するに吝ならざるべし然かれども祖先禮拜に對して挑戰する所あるか然なくも之を非難する事あらば忽ちにして喧嘩騷擾を惹起しそが演説者は決して無難なる事なかるべし、  
(第二)人性は善なり性に従ふは必ず善なりと云ふ事天は人の各才能と各關係(社會的關係)とに加へてそが遵奉すべき天則を以てしたりと云ふ事各才能は成途ぐべきの職分を有し各關係は行ふべきの義務を有すと云ふ事此故に思想と生活を正當合法なるものたらしめんと欲せば須らく人間の社會的關係を明白に定解し遵ふべきの禮法を決定せざる可からずと云ふ事なりとす今夫れ社會的關係の大なるものは何そや曰く君臣、夫婦、親子、兄弟、朋友の關係是なり是等の關係たるや天然自然の關係と稱せらるゝものにして易經中に明記する所なり案するに此易經中



の卜卦は伏羲氏の(紀元前三千四百年代に支那を治めし人)始めて畫せし所にして而して易經そのものは文王と周公(孔子以前五百年代の人にて八百年間繼續せる周朝を起したる人)との編成に屬し孔子の註解を附する所なり然り而して此天然自然の關係中にありて第一なるものは夫婦の關係なり而して地の天に隸屬するか如く妻は夫に従ひ子は親に従ひ臣は君に従はざる可からず而して此の夫婦親子君臣の關係や之れ即ち社會組織の三大綱領と見做さるゝ所のものなり孔子曰く「君子之道四……所求乎子以事父……所求乎臣以事君……所求乎弟以事兄……所求乎朋友先施之……」高弟子貢曾て「有一言而可以終身行之者乎」と問ふ孔子答へて曰く「其怨乎已所不欲勿施於人」と後子貢が其已に之を實踐躬行し居れりと言へるを聞きて彼は答ふるに子貢が未だ達せざるを以てしたり彼は彼自らすらも「未能焉」となしぬ勿論支那學者は之れを以て孔子の謙遜に出づと言ふと雖然かもこは孔子が其真相を眞面目に言出したるの言辭に外ならず而して此語こそ實に孔子の偉大を表彰するものと言はざる可からず、孔子に従へば怨は以上の五大關係を整理するのみならず亦實に凡百の行爲を齊

## 世 界 の 諸 宗 教

ふるものにして親戚は親戚として是れを待遇し先者は先者として之を待遇し幼者を待つに幼者を以てし吾子を待つに君子を以てし有ゆる關係を各自然の道理(教育の基礎をなせる自然の道理)に鑑みて之れを行ふべしとなすものなり禮記には人間の行爲を整理する六ヶ敷規則を記載しあり此禮記は所謂三代(詳しく言へば周を以て終りとする三大朝)に筆を起すものにして孔子之を保存して今日に傳へしものなりとす而して禮記が傳ふる種々雑多の規則の根底をなせる一原理は「禮てふ事なりとす此禮たるや支那人にとりては終局の根本眞理を名狀するの言語にして極めて威嚴あるものなり今夫れ禮記は民衆の遵奉すべき種々の儀式を列記す例せば婚姻、埋葬、祭、献、拜、天、國、祭、婦、人、の、權、限、青、年、の、教、育、等、に、關、する、儀、式、に、し、て、一、言、以、て、之、を、言、へ、ば、人、間、生、活、の、一、舉、一、動、は、皆、其、律、する、所、の、外、に、出、で、ざる、なり而してそが斯く些細の事柄迄でも律するの目的を問へば曰く是偏に社會の最大幸福を確信し民衆の道德を維持するにありて存すと孔子は然かく規則儀式によりて人類をして有徳ならしむべしと信じたり其信仰の深き非常なるものなり。かのヒレル、シャムマイ、および其弟子等——キリスト時代の學者パリサイ人——

## 世 界 の 諸 宗 教



も孔子程には規則儀式が人間を改善するに有効なりとは信する能はざりしなり  
實に孔子は世は如何程墮落腐敗せりとも之を改善し得べきを信じたり則ち曰く  
苟有用我者期月而已可也三年有成」と。

孔子は久しく其主義を實際に施すの機會を有せざりしと雖名家の子弟益々其門  
に集り孔子の名聲は彌々隆々たるを致せり此故に孔子が周都を見舞はんと欲す  
るや魯君は彼に與ふるに車馬を以てしたり而して孔子の此行や周都の神殿と宮  
殿とを見周朝の定めたる儀式を學ばんとするにありき彼が周朝の設立者に對し  
て有する尊敬の情は此行をして特に興味あるものたらしめたり想ふに孔子が周  
都に老子——敬すべき哲學者にして當時周室の書畫掛たりし老子——を見  
ん事も此行の目的の一なりしなるべし兩聖の會合に關しては種々雜多の記録あ  
りて一樣ならずと雖此等を比較對照して其要を摘せば老子は孔子を以て稍や虚  
偽者となし其企つる改革が到底無言の業たるべきを言説したるものゝ如し傳ふ  
る所によれば老子孔子の書見しつゝあるを見て其書は何ぞと問へり孔子「こは易  
經にして古への聖賢も亦之れを讀めり」と答ふ老子曰く「古への聖賢は之れを讀む

## 世 界 の 諸 宗 教

## 世 界 の 諸 宗 教

の資格を有しぬ然かも汝が之れを讀むの目的如何其書の根本原理は何ぞや」と孔  
子答ふらく「人道と正義とを論ず」と是に於て乎老子言へらく「今日の正義人道は唯  
だ之れ虚名のみこは單に殘忍酷薄を隱蔽する假面のみ人々の心胸を苦惱せしむ  
るものゝみ社會の秩序紛亂錯雜せる今日よりも甚だしきはなし夫れ鳩は其身を  
白からしめんが爲めに終日浴せず鳥は其身を黒からしめんが爲めに毎朝墨塗せ  
ず……汝の爲す所は猶ほ鼓を鳴して逃亡せる羊を探がすに異らず而して只だ  
人性を困苦せしむるのみ」と。

教授ドーグラス曰く「吾人は此文句によりて孔子と老子との重なる差異の那點に  
存するかを窺知するを得るなり孔子は時代の重なる要求を名を正くするにあり  
と思想したり彼は人々をして人道を行はしめんと欲し之れを名づけて道と言ひ  
ぬ彼は人々をして其の親に孝順たらしめんと欲し之れを名けて孝と言ひぬ彼は  
人々をして全心其主に事へしめんと欲し之れを名けて忠と稱しぬ老子は之れに  
反して人々にして若しも仁慈孝忠なりと自白せんか之れ即ち仁慈孝忠の實質が  
消失したるを證するものにして唯た其影を留むるに過ぎざるなり鳩は多く浴し



て白を加へず烏は其身を墨塗せず若しも鳩にして浴する事をなし烏にして墨塗する事をなさば之れ彼等が其本来の色を失へるを證するものに非ずして何ぞや人も亦如此若しも人々にして仁慈忠孝なりしならんには何人も是等を有すと公言する者なかるべし是等を稱呼するの名稱だも決してある事なかるべし之れと齊しく若しも凡ての人にして善徳者たらんには惡徳てふものは其名稱だもある事なかるべし」

「吾人は孔子が二十年の間老子の所謂道を尋求し然かも得る所なかりしを怪まず老子曰く若しも道にして衆人に與ふるを得べくんば之れを其君に與ふるを欲せざる者あらし若しも道にして衆人に現はすを得べくんば之れを其父母に現はすを欲せざる者あらし若しも道にして衆人に報告するを得べくんば之れを其兄弟に報告するを得せざる者あらし若しも道にして衆人に傳ふるを得べくんば之れを其子に傳ふるを得せざるものあらし然かも人の之れを得る能はざるは何ぞや曰く心胸の奥底に之れを保育する室を之れに與ふる能はざるが故のみ」と  
こは之れ人は再び生れざる可からず律法は之れを爲さしむるに足らずと云ふ事

を意味するの言辭なり然り律法は有用なる夫自らの職分を有すと雖聖靈の働きを爲し得る者には非らず聖靈は虚心にして神を喜ぶ者の心胸にのみ入り來り給ふものなり孔子は老子の道を尋求して遂に發見する事能はざりき老子自身も亦實際之を發見し居らざりしなり彼が孔子を待つ態度と彼の教が全く失敗に歸し去りし事實とは之れを證して余りありと云はざる可からず然かも老子や人間の性情を知領するの深き到底外部の法律制度もて之れを救ふ能はざりしを悟りしなり、  
孔子は老子の態度と言語とを解する能はざりき蓋し彼は夥多の門人によりて深く崇敬せられ自己も亦苟も我を用ふる者あらば世を革新し得べしと確信したればなり而して彼は此自任の情を其言語動作に發露するを禁する能はざりしならん然かも彼の老哲學者は孔子を藐視し孔子を愚弄し其善行を蔑如し孔子の革新事業すらも之れを蔑視して願る所なかりしなり老子實に孔子に告げて曰く「汝衆人に課するに法律禁令と儀式典例とを以てし彼等の模範として示すに古人の善行を以てし依て以て彼等を改善し得べしと思惟するが之れ汝が人性の真相を知



## 世 界 の 諸 宗 教

らざるの致す所のみ若しも法にして更に多きを致さんか人は之を逃避するに更に一段の姦智を加ふべし加之生者如何でか永く死者の足跡に一生を托するものならんや汝の方法は或は一時の成效を成就するを得ん然かも其成效たるや唯欺騙腐敗を掩蔽するの被物たるに過ぎざるべし而して幾干もなくして悪事悪徳は一段の勢力もて暴發し來るべし」ここは實に孔子にとりては全く新觀察法なりしなり去れば孔子は之れを聞きて「我が口は廣く開き我舌は凸出し我が心は困惑せりと謂へり今夫れ孔子のとり來れる徑路は果して老子の謂へるが如く過てるか彼が其弟子に告げて謂へる言に「我三十而立四十而不惑とあり然かも一聖老子は高きに居りて彼を瞰下し其學と智の愚盲なるを言説す孔子の困惑するも故なしと言ふ可からず然れども老子は結局何等世道人心を療醫する方法を有せずその理想とする所のものは凡ての先人の勞苦に成れる文明全体を廢棄するにありき孔子が之れを廢棄するを欲せざりしは正當至極の事なりと言はざるを得ず加之孔子はかの精密なる哲學者が論理よりも寧ろ直覺によりて得たる觀察は如何なる順序次第を経由して到達せられたるものなるやを毫も領會し能はざりしが

## 世 界 の 諸 宗 教

故に遂に老子の見解に一致する事能はず自己の立場に立歸へりて從來の所信を遂行せん事を努むるに至りぬ孔子去て其弟子に謂て曰く「鳥吾知其能飛魚吾知其能游獸吾知其能走走者可以爲綱游者可以爲綸飛者可以爲贈至於龍吾不能知其乘風雲而上天也今見老子其猶龍乎」と此評や無私公明なる批評にして老子が孔子を待てるに比して極めて懇懃なるものありと云ふべし、  
二大支那人の會見は果して事實なりや否やは暫く措き吾人は此の説話によりて彼等の意見の如何なるものなりしやを伺ふを得るなり想ふに孔子は後年經騷を積むに従ひ老子の人性説が正當にして世道人心の永久の革新を遂行せんが爲には彼が必要なりとなせる所のものに加へて他の或物を要すと云ふ事を悟るに至りしならん歟孔子魯に歸りて古人の智慧を學ぶ事舊に異らず昔への支那文學を編纂出版し且其門弟を教導するに全力を傾注したり而して幾干もなくして其功績の顯著なるものあるに至て魯王は彼を一市の市尹となし後亦大司寇となせり大司寇とは宰相の位に匹敵する位にして刑務を行ふものなり孔子は此の位地にありて其理想を故國に遺憾なく實行するの權威を得たり孔子崇拜者の傳へ來れ



## 世 界 の 諸 宗 教

る所に依れば孔子の成功や實に完全無缺なるものなりしなり彼の理論は之れを實際に應用して其誤りなきを證驗辯明するを得たり秩序は魯國の上下に普及して悪者は彼を恐懼し犯罪は其影を收め善者は彼を崇拜して其保護に安じ彼の名聲は闔國相傳へて之れを詩歌に歌ふに至れり當時に於ける魯や之を英國の歴史に按ずるにアルフレッド王の盛代に比すべしと言はる路に落ちたるを拾はず器具に偽りの彫刻なく棺柩は成規の厚さを逸せず墓は土を盛りて之れを掩ひ市場に二價あらざりしなり彼が位にある三年にして政治上の革新は全く其効を奏しぬ然れども其成功の完成と殆んど同時にそが失敗を兆示する孔躰は茲に現はれ來れり彼が曾て其門弟に確言したる所に依れば彼の方法や獨り帝王と庶人とを革新するに留らず其隣邦諸州をして相率ひて其模範に習ふの止む可からしむるものなり然かも事實は其豫言せる所と全く正反對に出でぬ則ち魯の秩序と繁榮とは隣邦諸州の嫉妬猜疑を惹起し相據りて魯王をして孔子を疎んせしむるの作略を按出し魯王に贈るに美女——熟練なる女樂——幾十人文馬幾十匹を以てしたり而して是れ等は全く魯王の心を蠱惑し去るに至りぬ想ふに魯王の耳に

## 世 界 の 諸 宗 教

は美女の唇より出づる嬌聲に比すれば稍や誇學なる老人が傳ふる古王聖賢の物語は必ずや冗長無味に聞へ太古より引用し來れる教訓は全く空言に過ぎずと思はれしならん是に於て乎孔子は策の施す所なきに至りぬ蓋し彼の教に従へば若しも王にして王たらすんば民亦民たらず宰相にして其位にあり國事の進捗せざるものあるか宰相は獨り國事を雙肩に擔ふが故に責任の歸する所彼一人にあり此故に子路孔子に謂て曰く「夫子去る可し」と而して孔子は暫く事の成行を見嚴肅なる上帝祭すらも魯王を醒覺せしむる事能はざるを見るに至つて心ならずも冠を懸けて去りぬ時に孔子實に五十六歳なりき彼は爾後十三年の間其生國を離れ諸州に彷徨して流離人となり幾多の朝廷に彼を採用せん事を求めぬ而して朝廷は概ね皆彼を尊遇し其助言——之れを實行するとせざるに拘らず——に對して恩給金すらも拂ふ者なきに非らざりしと雖ども然かも彼は結局其所信を實行するの位を得ざりしなり之れ或は國王が彼の余りに嚴密に失するを厭ひしか若しくは朝臣等が彼を讒したるか若しくは老臣輩が彼の時勢に暗きを示摘し其明かに賢明なるにも拘らず實際的政治家の資に非ざるを摘發したるに因由する



ならん而して此事實は直ちに門人の知る所となりぬ彼等は孔子自身よりも孔子の失位を遺憾視せしのみならず孔子が天來の使命と思惟せし所のものを孔子程に貴重親せざりしが故に孔子に迫りて時勢と一致するの讓歩をなさしめんと欲したり子貢曰く「夫子の説く所は極めて善し然れども容れざるを如何にせん如かず少しく之を加減せんには」と然かも孔子は之れに答へて曰く「農夫は播種す然かれども收穫を保する能はず手工者は秀逸なる製品を産出し得べし然れども其果して需用なるや否やを知らず君子の其主義に於けるや亦如此君子は唯其主義を琢磨し得るのみ世をして之れを容れしむる事能はず」と此斷然不撓の答へは人の善性を呼び起して多數熱誠の門人益々其門に集り屢赤貧に陥り往々生命の危険に遭遇するを毫も辭せざりしなり然りと雖孔子は必しも主尾一貫其尊貴なる態度を徹底する事能はざりき而して再三門人等に彼の行爲が其曾て教へし所と矛盾するものあるを示摘せられたる事ありき朝廷の榮華は彼をして幾分か王者の罪惡に其目を閉しめたるものなきに非ず身体の危険は彼をして履行すべしと思はざる誓約を結ばしめたる事あり彼は此の誓約を故意に破約し鬼神は暴力以て

## 世 界 の 諸 宗 教

## 世 界 の 諸 宗 教

結ばしめたる誓約を聽許せずてふ辯解を與へたる事もあり然れども概観すれば彼の流離の長生涯は極めて高貴なる生涯なりき時は非にして紛亂錯綜之れを撥一せしむる能はず孔子の爲し得る所のものは唯だ時勢に抗抵し其門人等——を教導するに過時たらば更に大なる成效を博し得べしと思はるゝ門人等——を教導するに過ぎざりき傳へ言ふ彼が流離して諸方に彷徨するや道教老子教の徒にして遁世したる二隱士に會合したる事ありき彼子路を遣はして聞く所あらしめたり隱士の一人答へて「汝は何人ぞや」と問ふ子路答へて孔子の門人なるを以てす隱士答へて曰く「世の紊亂滔々乎として洪水の如く全國に瀰漫す而して此非勢を挽回せんと欲する孔子とは何人ぞや汝の爲めに思ふに單に此處彼處の朝廷を引退する人(孔子)に従はんよりも寧ろ全然世を隱遁せる人々(吾等)に従ふの優れるに如かず」と子路歸りて之れを孔子に復命す孔子自己の經歷を是認して此く言へり曰く「夫れ鳥獸は人と異り人之れと伍する事能はず我若し民と人類とに伍せずんば誰と共にか親まんや若し正義にして全國に普及せば我が之れを革新するの必要も亦ある事なけん」と(微子第十八を見よ)



儒 教 百十  
 孔子の答へ眞に間然する所なし吾人は此答へによりてよしや孔子が老子に比して其達見の及ばざる所ありしとするも彼よりも更に常識を有し更に眞實なる哲學を有せしを窺ふを得るなり夫れ厭世主義はそが不健全なるものたるを明示するものにして人世に失望するは許すべからざる罪惡なり而して世を隱遁するは之れ即ち正道の最後の勝利を疑ふ事にして道を信する信念若しくは人は道の最高の發現ならざる可からずと信する信仰とは實際抵觸矛盾するものなり道教徒の爲めに想ふに彼等は世の苦闘を避け禽獸を友として同儕人類に遠からんよりも寧ろ人世一切の不正に反抗して正道の勝利に奮勵する所あるを以て優れりと爲さざる可からず吾人は勿論人類の罪惡と悲哀とを救濟するに相當はしき使命を不見者(神)より齎らさずと雖吾人が爲し能ふ範圍内に於て應はしき人道を遂行するを得るものなりかの隱遁世間は假令哲學と宗教とが命する時すらも利己主義の勝利たるを免かれず蓋し吾人は唯社會に於てのみ同胞人類に對する同情至愛によりて卑賤なる自我を脱却し高尚なる眞我の實現を企圖するを得ればなり

孔子歳七十に垂として其生國を見んと欲するの情切なり是に於て乎彼は其漂泊的生活を断念し從來甚だ重なる職務たりし文學的勢作に其余生を費やさん事を決心するに至れり彼は其老年と老衰とを以てして死に至るまで勞作し爾來支那の聖經と尊重せらるゝ幾多の經典を完成したりかの「論語」及び「孝經」は其門人が孔子の會話の備忘録より編纂したる所に屬す而して是等の經典と彼の「孟子」とは支那人にとりては重要至極のものなれば苟も國家の政治に與からんと欲する支那青年は是等を熟知する者ならざる可からずと思惟せらるゝに至りぬ孔子が此の大業の完成や彼にとりては實に自己の爲めに銅像以上の紀念碑を建設したるものなり而して彼はそが完成と共に自己の事業の終局たるを自覺したり而して彼は其唯一の男子を失ひ幾干ならずして亦其最愛の門人の死に會し自己の死も亦遠きに非らざるを感じぬ彼はストイック人の態度を以て彼等の死に面接し毫も躊躇る所なく聊かも恐怖の態をなさず唯其久しく愛着せし彼等の死を痛笑するに過ぎざりき紀元前四百七十八年の春の事なりき或朝彼は戶外に出で行き雙手を負ひ杖を曳きつゝ逍遙して歌ふらく



泰山は其頽れん乎

梁木は其壊れん乎

吉人其萎まん乎

世 界 の 諸 宗 教

忠誠なる子貢は此語に驚て曰く「泰山其頽れば則吾將に安くに仰がんか梁木其壊れば將安くにか仗らん吉人其萎まば將に安にか放法らんと彼はかく語りつゝ孔子に従ひて家に入りぬ孔子は彼に告ぐるに前夜自己の思想が過去の儀式——彼が常に重要至極なりとせる過去の儀式——に専らなりしを表するの夢を夢見たるを以てし且つ大息して曰く「明主興らず則ち天下夫孰れか能く余を宗とせん余始めて將に死せんとす」と即日彼は病床に俯し七日の後溘焉として永逝したり外見を以て判すれば彼の生涯や失敗の生涯たるを免かれず然れども或人の失敗は他人の成効に比して無限に大なる効果を奏するの類例決して世に乏しからず、

實に孔子は支那億兆の人々中にありて何人よりも偉人なる事を其國家に成就したり彼は「百萬を指したり」彼が纔かに其單位(一ツ)を失ふも何かあらん、

世 界 の 諸 宗 教

「かの凡夫は一に一を加へて直に其目指す一百に到達す此高貴なる人は百萬を指し其一を失ふ」

想ふに孔子に地下に従ひたる門人等は其師の失敗を認容せざるべし其一を失へりてふ事すらも之を容許せざるなるべし子貢は孔子の墓邊に草舎を設け父の喪に於るが如く六年の歲月を其中に費やしたる門人なるが彼が孔子を尊崇したる言に曰く「我終生我上に天を戴くと雖我其高さを知らず我我が足下に地を有すと雖我其厚さを知らず我が孔子に事ふるや恰かも渴ける人が水甕を提げて河水に伺ふが如く飲で渴を醫し然も其深さを知らざるに比せんと吾人も亦此偉人を尊敬せざる可からず實に支那人を種んと欲する者は孔子を非難し若くは不公平なる批評を彼に與ふるは決して爲すまじき事なりとす、



#### 第四章 儒教強弱の本源

儒教の勢力ある所以の本源を察するにそはそが歴史的性質を有すると支那人の理想に適合すると道徳的經典の高尙なると律法模範儀式習慣の勢力を充分に認識するにありて存す。

孔子は全く支那古代の精神に浸染し社會の秩序を以て獨り人世の唯一必要事なりと思惟したり帝王は政府の首にして社會の基礎なり彼は天子(天の子)にして父が其家族に有する關係と等しき關係を其人民に有す彼は社會の秩序と勢力の源泉にして亦其精神なり天子は如何にせば然かあり得べきかを尋求するに奮勵せざる可からず而して百官有司は社會の秩序を維持保存し得るの才能と社會の秩序が依て以て成立する幾多の金言に關する智識の有無に準して撰出せられざる可からず(モーリス)かゝる國民的確信を深く其心底に有したる人が面のあたり社會の紊亂を目撃し恐駭措く能はず改革の事業を冥想するに至りしは當然至極の事なりと云はざる可からず而して彼が一朝革新の道を發見したりと信するや天

#### 世 界 の 諸 宗 教

來の使命でふ思想も國家にして彼に聞かば救はるべしてふ信念も茲に發生し來るに至りしなり今夫彼が教へんと欲したる所のものは古き真理にして新しきものには非らざりき然れども彼は古き真理に新しき形体を與へ往々にして自己の思念もて之を裝飾し時に或は古代の律例と歴史とを變換したる事すらなきに非ず彼は各人の義務が完全なる自治に到達するにありと教ふるに於て老子と一致す然かも彼が自治たるや老子の教へしが如き孤獨靜寂自足原始的なる生活に非ず人をして國家の幸福秩序に貢獻するに一層相當はしき者たらしむるの自治なり彼は社會の秩序を包含結束するの紐綱および膠灰を人生の實際的關係の中に發見したり則ち彼に従へば父權は結局原則なりしなり何となれば父權に服従せんか父權を基礎とする他の家族的關係及び一切の社會的關係は從て其所を得るに至るべければなり彼は亦ビショップパツラーが其著名なる説教に於て説けるが如く然かく明白に人間の天性は理性と良心とを戴ける系統にしてそが法則に反するは即ち天に背反する事なりと教へたり願ふに彼が道徳的訓誡の最も著しき特色はかの「己の欲せざる所之れを人に施す勿れてふ金言を明白に宣言したる



にありて存す教授レツヂは吾人に教ふるに孔子は此金言をそが古典中に通常引  
 用せらるゝ消極的意義に於ても又積極的にして最も廣濶なる意味に於ても領會  
 使用して遺憾なかりしを以てす且つ曰く「支那語の特性は彼(孔子)をして一字もて  
 此金言を言明するを得せしめたり此一字や英語には之れに相當はしき良語なき  
 を以て暫く之れをレシブロンチーと譯する所のもの即ち恕<sup>○</sup>てふ文字なりとす今  
 其字形を按ずるに下部は心<sup>○</sup>を示し上部は如<sup>○</sup>を示す詳しく言へば我心は汝の心の  
 如し若くは我心は汝の心に同情すと云ふ事を表はすものなり」と、  
 恕<sup>○</sup>は孔子の體系中に於ける特殊の語なり而して此語や亦老子教の骨髄たる道よ  
 りも解釋に容易なる詞なり吾人は茲に問ふを要す「道<sup>○</sup>とは何ぞや」と道とは則ち道  
 路の意味なり舊約書中に於ける道てふ語は「エホバの道」「エホバの法<sup>○</sup>若しくは義者  
 の道」「悪者の道」を意味し新約にありても道てふ語は亦イエスの復活後其弟子等が  
 説ける所のものなりかく舊新約書に多様に使用せらるゝが如く支那語の道も亦  
 種々雑多に使用せらるゝを見る然り而して道てふ語は孔子自身も絶へず之れを  
 口にしたる所にして彼に従へば彼が教ふる正しき道若しくは方法を意味するの

語なりき老子に従へば此道は更に幽玄なる意味を有する言辭にして此意味を外  
 にしては無意義の空語なるに過ぎず此故に老子は道てふ語を言語思料の及ばざ  
 る絶對者を名命するに使用したり則ち永久の秩序若しくは存在者の階にして自  
 然界の法則と人間の理性とが反映する所の本体を稱呼するの名稱たり萬有は生  
 物と非生物とを問はず皆此道によりて來往す而かも萬物は之れより生じ亦之れ  
 に復歸す道は亦其之れに一致する人には永生の道にして従つて人類の最高目的  
 たらざる可からず孔子曰く「道と徳とを養ひ遁世隱居の生活に入れ」と之れ蓋し教  
 は自然と徳との生活にのみ發見せらるゝものにして其之を得んには原始の單純  
 生活に復歸し俗人の目に華麗なりと見ゆる複雑なる文明を逃避せざる可からず  
 と云ふ事を意味するものなりこは之れ希臘ストアック派の理想とせし所なりき  
 されば老子は支那人のゼノーンと稱するを得んか、  
 老子の見識は實に深遠なるものにして徳の至美を洞見し新約書の最大教訓たる  
 「惡に報ゆるに善を以てせよ」てふ教訓を教へたる程なり彼が此の格言を宣言し孔  
 子が之れを受納るゝ能はざりし事實は取つて以て兩者の間に存する相違を測知



するに足れり傳へ言ふ孔子派の一派が此格言を聞きて困迷し往て之れを孔子に問ふ孔子も亦困迷し推測式を案出して答ふらく「惡に報るに善を以てせば然らば善に報ゆるに何を以てせんや善に報ゆるに義を以てし善に報ゆるに善を以てせよ」と

老子の如き偉人——支那國か産出したる最大の創始的思想家——にして支那を感化する能はざりしは何ぞや想ふに之れストアック學派が唯エビクテタス、マルカスオーレリアスの如き高尚なる人々に對してのみ成効し普通一般に其感化を及ぼす能はざりしと同一理に出づるものなり蓋しゼノ一および老子の絶叫せし所は世の虚榮を抛棄し徳に従ふべし然らば徳は其物自ら眞乎の褒賞たるを發見すべしと云ふ事なりしと雖然かも普通人をして其確實なりと信する所のものを抛棄して不確實なりと信する所のものを捕促せしめんと企つるは之れ必竟無益の業たるを免かれず之れに反して基督教は管に一部の人士に留らず貴賤貧富を通じて萬人に其感化力を施すを得たり何となれば基督教はイエスの靈によりて人類と結合せる父なる神を極めて確實に顯彰し兼ねて教主に對する熱愛を

世 界 の 諸 宗 教

世 界 の 諸 宗 教

して人々の心より一切の劣情を驅逐せしむるものあればなり、孔子にとりては社會は實に大實在にして文明——其物質的榮華社會的秩序および固定の政治を有する文明——は非常なる祝福なりしなり而して彼は此の文明を保存せんが爲めに重に教育模範及び嚴格なる儀式の共同勢力に依頼する事をなせり就中教育は其重しとする所にして支那が今日驚くべき完美の教育組織を有するは重に孔子に負ふ所あるなり然り而して孔子に従へば教育の主要目的が道德に存する事も吾人の亦記憶せざる可からざる所なり即ち教育は單に専門的知識の學得に非ず致富の才能の開拓にも非らずして道義及び社會に關する學問を教授し且つ道德性を形成涵養するに存すとせり古王の一人は謂へらく「上帝は道念を人に賦與したり之れに従はば人性の正義赫々として發現し來るべし人をして安らかに道念の示す所に従はしむるは之れ王者の要務なり」と孔子は此意見を採用して其教育組織の樞軸とはなしぬ彼が主張に依れば民衆の徳性を維持確保するものは獨り治者の徳と其教導とにあるのみ此故に教育は政治の根本をなすものなり去れば支那に於ては實際社會の上層より下層に至る迄幾百年



## 世 界 の 諸 宗 教

の間——それが是非は兎もあれ——教育は普及浸染して其競争試験の組織の如き尙ほ世界の他邦に冠たるの趣あるを見る、支那に於ける凡ての公職は競争によりて興奪せらる、實に支那にありて官職を得んとならば唯競争試験の一路を経由せざる可からず試験室に其輸贏を試みざる可からずとは一般の公認する所なり従て行政權は英雄輩や多少の門地の縁故によりて若しくは偶然一時の方法によりて撰出せられたる人々の手に歸する事なく幾多の試験を経由して其任に相當はしきを證驗したりと思はるゝ人々の掌握に委す去れば教育は支那人の最も尊重する所にして教育を貴重視する支那人の如きは世界に其比を見ざる所なり然りかの莫大の費用を費やすに堪ゆる凡ての貴人は其子弟を教育せん爲には古文學に精通する家庭教師を雇ひそか費用を辨する能はざる貧民の多くは學校に相集ふて共同の教道に接す而して孰れも皆其親に従ひ兄を敬偽を言はず禮を守り他人を愛し善人と交はるべきを教へらる而してかゝる義務の教は孰れも古人が行ひし實例と簡明なる格言および經典より引用し來れる長文句によりて維持確定せらるゝものにして學生は概ね皆驚くべ

## 世 界 の 諸 宗 教

き程自由に亦精確に之れが格言長文句を暗誦して聊かも遺漏ある事なし文人の幾千百は古文書の各文句を暗誦し得べし多數人民すらも孔子の格言を數多く記臆し亦他の道義的教訓をも少しは之れを腦中に暗記す——而して其結果や有益なり然れども文學上の高官たらんと欲する候補者は皆に經典を熟知するを以て足るに非ず彼等は亦各種の書籍に通曉し經典の重要な文句に對する種々の解釋を明知し其解釋の理由をも一々領會して剩す所ある可からず而して亦文章の術に達し其言はんと欲する所を明白強健雅致純白なる文体もて記述し得ざる可からず、生徒の第一歩は初等試験を通過するにあり彼は皆に其學び得たる所を試験せらるゝのみならず地方長官は彼の隣人に其道德性の如何を尋問し且つ其父祖三代に亘りて尊敬すべき家柄なりしか賤むべき特殊の職業に従事したる事なきや否やを究問する所あり此試験に合格して後三年の修學を終へ各縣——支那二十州の小區分たる各縣——に於て舉行せらるゝ試験に應じ之れに及第して其徳性に對する上級學者の充分なる保證あらば最初の學位としてバチカル、オヴ、ア



百二十二  
 儒教強弱の本質  
 ッに相當する學位を授けらるゝなり此學位を得るに至るや其家族と其土地の喜びは實に非常なるものなりとす次にマスター、オヴ、アーツの學位に對する試験は更に嚴密なるものありて通常一千名の受験者中僅かに七八十名の合格者を出すのみ博士の學位に對する試験は翌春北京に於て禮務局の監督の下に開かるゝものにしてマスター、オヴ、アーツの學位を有する者は何人も受験者の資格を有するものとす然れども各州より集ひ來る受験者中極めて少數者のみ此試験に合格する事を得るに過ぎず而して博士の稱號を有する人々の中にも亦最後の競争試験なるものありて王宮に催され皇帝自ら試験員として席場に出席せらるゝ事となり居れり以上の各試験を爲すに方りて最も大切なるものは試験員の公平無私と其能力如何とにあるを以て種々の巧みなる方法によりて之れを確保するに最も意を用ゆ去れば若し試験員にして收賄あるか若しくは不公平なるか若しくは慎重ならざらんか之れに對する刑罰は極めて嚴酷なるものあり一千八百五十八年の事なりき試験員長が其姪婿たる一受験者に私したる事を發見せられ皇帝が其前効に面して彼を助けんと欲せしに拘らず遂に北京普通死刑場に於て斬首せら

れたる事あり此事實は以て其刑罰の峻酷なるを窺ふに足るべし、今夫試験とは如何なる問題のものなるかを尋ぬるに試験員はかの經典と其註釋の重なるもの支那歴史支那地理法律醫學天文學數學若しくは自然科學——支那にありてはまだ未熟の學問——に關する問題を自由に撰定して之を提出し特に道義哲學社會政治に關する學問に就て問題を掲出するものなり、人若しかゝる試験に合格して博士の稱號を得んか莫大の賞與は彼に興へられ彼をして多年安樂の中に其研學を恣にするを得せしむるに足るものあり而して帝國に於ける名譽の位地は就れも其取るに任せ首相の位地すらも之れに達するの道なきに非ず彼は上長官の下に見習者たる事二年にして一官職を興へらるゝものなるが支那人はかく教育と官職とが相並行提携するは國民の名譽なりと思惟す實に支那の教育組織の如きは基督教國に於ける多くの行政者が摸索したる理想にして英國政府は此規則を採用して己に之を印度帝國の官職に應用したり而して英國に於て諸所の殖民地に於て合衆國に於てこは次第に各方面に其適用を見るに至りぬ、  
 儒教が或點迄成功したるは疑なき所なり願ふに儒教は全く現世教にして祈禱の



世 界 の 諸 宗 教

能力に就ては聊かも知る所なく罪惡と罪過の問題は毫も之れを其念頭に留めず偶像教は其排斥する所にして僧侶を有せず亦宗教の教師をも有する事なし但し帝王は獨り公認せられたる國民の僧侶なり儒教に依れば人をして明智富有美良有徳ならしむるは獨り經典の教授にあるのみ吾人が之れを宗教と稱すると否とに拘らずこは實に孔子が宗教と稱せし所のものなり然り而して彼の道や極めて實際的なるが故に世界の如何なる國民よりも支那人に最も適合したるものたるを見る蓋し支那人は極めて實際的にして冥想を事とせず所謂東洋の商估にして或點に於ては吾人に模範視せらるゝの人種なり而して儒教は恰も自然神教が回々教の場合に於て試験せられたるが如く大規模に於て其實力の如何を此人種中に試験せられしなり而して其結果は如何曰く支那人は熱心に儒教を採用し孔子の爲めに神殿を建立したりと雖一般にそが不充分にして人心の饑渴を療醫するに足らずと認知せられし事是なり勿論此事たるや支那學者が公然と承認する所なるには非ず蓋し支那學者は儒教に依りて生活し儒教によりて支那人の王者たるものなれば儒教に對して不満足なる能はざるは自然の數なりと云はざる可か

世 界 の 諸 宗 教

らず然り儒教は彼等を王者たらしむる然かも彼等をして人たらしむるには非ず彼等の學を以てするも吾人の標準によりて彼等の思想行爲を吟味試験せんか彼等は唯生長したる小兒のみ則ち彼等は思索詩歌科學美術に對しては極めて無能にして吾人をして人間たらしむる大希望に關して何等知る所なし而かも堪能なる觀察者の證言に依れば彼等の人と成りや欺騙不道德頑迷醜薄にして一言以て之れを謂へば教育ある人士には有る間數品性を有す而して近時幾多の出來事は彼等が施政に於ても戦争に於てもともに腐朽無能なるを證するものあり假令幾多の較著たる例外なきに非ずとするも概して言へば以上の不道徳は之れ學者社會の通有性なりと言はざる可からず蓋し宗教的感化なき教育特に神と個人的交通なき教育は道徳的能力と美妙とを欠如するの品性を形成するものたるは疑なき事實なるが支那歴史は正しく此宣告運命に接したるものなるが如し實に支那歴史程地球上に於て最も明白に此事實を自白したる歴史ある事なし今夫れ儒教が宗教として不充分なりてふ事はかの學者輩すらも不知不識の間に承認する所に屬す此故に佛教道教はそが異端外道と稱せらるゝにも拘はらず何時しか支那帝



世 界 の 諸 宗 教

國に於て公然たる位置を有するに至り多數人民のみならず學者輩すらも是等の宗教に依頼して公然若しくは隱然靈界——孔子が語るを禁じたる靈界——と交通親和せん事を仰望するあるを見る。以上は儒教が宗教として不充分なりとの實際上の告白なるが此驚くべき告白は全國民が殆んど一齊に自白するものなり而して此の事實たるや孔子が上帝禮拜を單に帝王のみ行ふべしとなし神に對する人間の個人的關係を非認し未來世に關して毫も知る所なしと自白して以て怖るべき欠所宗教的欠陥を其儘に遺せしに因由せずんばあらず道教は此欠所を充填せんと建言したり則ち道教は各人に告ぐるに神的又は神秘的なる事物を以てし天上にあり人間以上に位し國家以上にすらも位する事物を喋々談論したり然れども老子逝て爾後二千年間に於て民間に發生し來れる夥多の迷信は老子の名に附着するに至り道教は茲に符呪呪詛魔術および鬼神親和術の混合物と墮落し愚盲なる偶像禮拜に化し甚しきは惡鬼禮拜にすらも惡化するに至れり史の傳ふる所に依れば曾て是等の迷信を盲信したる一帝王興りたる事ありしが道教は爲めに一時全盛を極め儒教は嘲笑歴

世 界 の 諸 宗 教

迫せられ儒教の鴻儒碩學は土中に生埋せられ其經典は詮索燒棄せられ其運命をダイオクレンシアン帝時代に於ける聖書の運命と等ふしたる事ありき然かも道教は爲めに却て其の聲價を失墜するに至りぬかゝる迫害の時代は久しからずして經過し儒教復興の時代は來りぬ然れども儒教の復興と共に儒教本來の欠陥も亦以前の如くに人々の感知する所となれり去れば或帝は一大預言者ありて印度に出現し其靈光を西藏に迄も遍照したるを傳へ聞きそが宗教の宣教師を迎へ經文を得て以て新信仰を學ばんと決心するに至れり而して其臣僚が之れを諫止せんと欲して百方其非を論じ告ぐるに彼が最も古くして最も普及したる支那本來の格言を離れて新信仰を受納するは云れ則ち外來の事物は皆善美なりと自白する所以にして洵に痛歎事なる事を以てしたりと雖彼は其決意を翻へす所なく之れを斷行するに至りぬ是佛敎が支那帝國に入り來りし所以の道なりとす是に於て乎見へざる世界との交通を基礎とせる宗教——其外見に於ても内容の多くに於ても儒教とは全く正反對の特質を有する宗教——は儒教が支配せし土地に其立場を得るに至りしなり。



道教は曾ては民間の迷信の集合に過ぎりしと雖佛教輸入以來は佛教の模範に倣ひて自ら一の組織的宗教と成り神殿禮拜式偶像および通俗禮拜の種々の形式を定むるに至れり今夫れ道教と佛教とは人間と見へざる世界との關係を幾分か教示するものなるが爾來多數人民は此二宗教の孰れかを信奉する事となれり或は察る無造作に此二宗教を混合採用する事となれり然れども教育ある人士は儒教者たりと云ふの外自ら他宗教に屬する信徒を以て自ら居るを背せずかるが故に支那に於ては三大教の統計表を作製するは困難なる業たらざるを得ず蓋し三宗教は各劃然たる分野を有するに非ずして一人にて同時に三教を信奉すと公言するを得ればなり願ふに佛教は道教が準備したる土地に其根を下したるのみならず其教祖は老子に比して遙かに愛慕すべき人格を有したるが故に——支那人が外來の教化を忌嫌ふ國民性あるにも拘らず——紀元六十五年には佛教は己に支那國の宗教として公認せらるゝに至れり是時よりして以後佛教は支那思想及び支那生活の狀態に契合一和し從て西藏佛教特に原始的佛教とは極めて相違したるものと成り來りしと雖爲に支那全國に其勢力を普及するに至りぬ則ち佛

寺は全國到る所に建立せられ熱心なる宣教師の働きによりて最北の地も其教に歸し其感化の及ぶ所羶羶人蒙古人を教化しそが粗野殘忍なる野蠻人に對する道徳的勢力の偉大なる實に驚くべきものあるを證しぬ、果して然らば以上の事實は支那國が明白に儒教の失敗を國民的に告白せるものに非ずして何ぞや則ち儒教を出生せしめ儒教の優秀を稱讚するの國民も外來の宗教によりて其欠陥を補足せずして止む事能はざるを證しぬ其結果人の心を二分若しくは三分して一宗教に専らならしむる事能はず以て人生の不幸を茲に演出し來りぬ蓋し人若し儒教者なりと自稱し乍ら佛寺に參拜せんか彼が二心の行爲は彼の實際の生活をして宗教より分離せしめ彼の宗教をして理想より分離せしむるものなればなり儒教は政治的及び教育的組織としては或る範圍内にありて驚くべき成效を奏したり則ち儒教感化の然らしむる所として支那は最も一様不變なる最も密着したる全世界中最も保守的なる國民とはなれり而して此成效たるや果して多く重んずべきの價值ありやなしやは俄かに判定し難き問題に屬す蓋し儒教は單に外部及び實驗の見地よりして智徳を觀察するが故に其感化と



世 界 の 諸 宗 教

して人民が堅忍勤勉なるに至りしは事實なりと雖然かも亦彼等が凡庸唯物的にして虚偽なる人民たるに至りしも亦蔽ふ可からざるの事實なり老子は此危険を洞見して智徳を内部的神秘的なるものと教へざりしには非すと雖其教や遂に墮落して種々雑多の偶像禮拜と悪化するに至り——それが僧侶輩は——單に信仰醫療を事とするに過ぎずなれり佛教は儒教が等閑に附し道教が充實せんと欲して失敗せし好土に入り來りて其播種の偉業を成し遂げしなり然らば佛教とは何ぞや之れ一二文句の克く定義し得る所に非ず之れ佛教が多岐多様にして時としては無神論として時としては有神論として時としては凡神論として或は聖者の禮拜として或は俗間の偶像教として或は亦高遠なる抽象思想として表はるゝに依るなり而して勿論此多岐多様の見解を統一調和するの説なきに非すと雖そは暫く措き今は唯だ佛教を定解して(一)人智の無限にしてそが絶對的智力と同一なりとの信仰(二)釋迦の戒律および佛者相互の交際によりて自脩鍛鍊の効を積み此自脩鍛鍊の力によりて心情の變化を來たし各人をして涅槃の淨境に到らしむのみならず後代の佛教徒が教へし更に追慕すべき所謂菩薩境に達せしむるを信

世 界 の 諸 宗 教

するの信仰なりとす而して此菩薩たるや其死時には其功德によりて他の菩薩を生ずるものにして一菩薩は他の菩薩を生じ他の菩薩は亦他の菩薩を生じかくて其轉生の完結するに至り而して復時の滿つるに及び時代の要求に應じて一佛陀として世に降臨し眞教を己衰に挽回し恰かも釋迦が人類に與へたると同一年なる祝福を將來の萬民に與ふるものなりと信せらるゝものなりとす而して此菩薩境の教義人間の希望欲求をして超自然の働きと結合せしむるに出でたるものにしてかの滔々たる支那佛教の迷信は實に此處よりして胚胎し來りしなり但し菩薩境の教義は迷信の端緒を開けるにもせよ人間が其本然の性情として尋求し然かも孔子が無視したる不見者に關する幾多の疑問に答辯を與ふるものなりとす儒教の失敗は明白なる事實なり而してそが失敗の原因たるや孔子が其宗教の基礎を人間に置きて神を無視したるが故なり從て孔子は人間の眞に尊貴なるを充分に覺知する事能はざりしのみならず其人間てふものに對する理想も亦貧しきものにして同時に其宗教も亦精神的活力を欠如するものなりしなり然かもイスラヘル人と基督教國とが教示せられたる所は永久者(神)の仰望すべき事にして亦



世 界 の 諸 宗 教

神は其子供たる各人より距る事遠からずてふ思想なりとす此思想に従へば自然界は神の衣裳なり歴史は神意の啓示なり吾人は神によりて生き動き亦在る事を得るなり此故に神を知り神を愛するの一事は誠の第一にして大なるものなり而して経験は人間が神を知り神に對して正當なる關係を保持するに非らざるよりは人間相互の道義的關係も之れを神聖視する事能はず亦忠實に之れを維持する事能はざるを證明す假令儀文と煩鎖なる法律もて之れが實行を強るも到底無効たるを免かれざるは明白にして更に疑を容れざるなり夫れ人は神と親しき結合をなして始めて人たるの尊貴を有し個人も社會も茲に始めて完全圓滿なる進歩をなし得べきの保證を有するなり去れど思想と生活とに此動力を欠如せんか過去の善事を固守するの保舊主義は生じ得ん鎮靜不動の状態は有り得べし然かも此保舊不動の状態たるや——支那には如何に權威ありと見ゆるも——吾人には嫌惡すべきものにして吾人は寧ろ左の如く言ふに躊躇せざるなり曰く「支那の長歲月よりも歐羅巴の五十年は更に優れり」と實に思想と生活とに此動力を欠如せば人は自ら其最小不完全依立の感覺——之れ同時に人間の偉大なる

世 界 の 諸 宗 教

を證する眞の尺度——を有する事なく亦此感覺より起る罪惡の感覺も之れを欠如せざるを得ず生命と喜樂の源泉にして吾人をして誘惑に抵抗せしめ凡ての敵に勝ち得て余りあらしむる根本たる神との親交も亦有る事不能、吾人をして過去に知られたるよりも更に偉大なるものに達しイエス自身が曾て地上になせしよりも更に偉大なる事を成就せんとの希望に充たしむる進歩の精神も亦之れを欠如せざるを得ず果して然らば儒教は宗教の永久要素たる「依頼」親交「進歩」に對して充分なる資料を供給するものに非ず此標準に依りて之れを吟味せんか儒教は回教よりも更に一段の欠陥を有するものにして此欠陥の大なる或人々はそれを宗教と稱するを拒絶する程なりとす然れども此批評たるや孔子に對して余りに酷評なるを免かれず何となれば博士レッヂが謂へる如く「天若しくは神が人間の創造者又支配者なりとの觀念は孔子の教の根本をなせるものなり此故に予は孔子を目して單に道德教師なりとなすの人は未だ彼を領解せざる人なりと論争す然かも彼が信せし神は超絶不識の神なりしなり、  
(イ)夫れ神の禮拜を帝主に一任し國祭の場合に祭禮を行ふのみならば人間が神に



世 界 の 諸 宗 教

對する「依頼」の感覺は存在する事能はざるなりかく一方に神を遠ざけ他方に人性善の教を高調し其教ゆる所に從ひて人性の完美を全ふし得べしと教ゆるが故に儒教治下には罪惡の感覺殆んど皆無なるを免かれず特に支那學者輩には罪惡の感覺殆んど絶無にして基督の十字架は教育ある人士にとりて礙の石たり支那基督教徒が殆んど全く下級民の改悔者に成るは此故なりとす實に支那にありては世襲貴族たる者にして基督教徒たらんと欲するは「駱駝の針の穴を通る」よりも困難なり蓋し彼貴族の神聖および罪惡てふものに對する觀念の不充分なる其人生に對する理想の野卑なる其自負心の強き到底彼をしてクリスチャンたらしむる能はざるものあればなり博士レンツヂに從へば儒教は——よし有らゆる宗教に對して無頓着なりと公言すとも——基督教に對しては人心を固陋頑迷ならしむる事道教——基督教を敵視し公然之れを誹謗する道教——の比に非ずレンツヂ曰く「儒教には人をして神に向上せしめんが爲めに神をして人界に近かしむる教義あるなし儒教者の道德的失敗はそを自覺したる場合には彼等をして辱恥の感を生せしむるならんも罪惡の確信を生せしむるものには非ず道教は迷信の

世 界 の 諸 宗 教

體系として基督教の敵手なり然れども道教徒は専心老子道德經を研究し其強く教ゆる所たる謙虛己を空ふするの徳を養ふが故に福音を受くるの一段に至りては儒教學者に比すれば遙かに素養ある者なりとす予は之れを事實に於て見たり會て道教の一貴人香港に予を訪問したる事あり彼は歳已に八十を過ぎぬ彼は予に告ぐるに彼が五十年間老子の教を研究したりしが自ら深く其理想に達するに不可能なるを確信し殆んど失望落膽して自己の心情が仰望する眞理を發見する能はざるを悲めり然るに基督教の一小冊子は彼の住居たる岡山の寺院に持ち來られたり彼の自言に曰く「予は之れを讀んで我目より魚鱗の落ち去れるが如く感じたり」と彼は直ちに基督に於ける神の啓示を信認したり予が支那宣教の長年月間に面接せる總ての支那人中にありて彼は獨り最も神に對して準備したる者なりとす。

(ロ)儒教は神を遙かに人間より引離すが故に儒教には神との親交てふもの有る事能はざるなり已に神との親交なし此故に人生は神聖なる事能はざるなり然れども人は何物をか禮拜せん事を欲す誘惑に際しては人は自己以外の權能を發見せ



世 界 の 諸 宗 教

ざる可からず然らずんば破船は其免かれざる所のみ不幸災厄の日にありては人は何物にか號叫せずして止む事能はず知らざる神にすらも訴ふるあらんと欲すかの希望の星は落ち計圖は齟齬し而して信仰は其効力を失するの時に方りては人は實際上天の祐助を要す而して死の手が其最愛のものを捕へ去るの場合に方りても人は決してそが萬事の終りなりと信するを欲せざるなり要するにかゝる場合にありては人心は決して陳腐の格言もて満足する能はず去れば宗教は其如何なる宗教なるにもせよ寧ろ之れ無きに優る此の故に人は神を有せざらんか鬼神にすらも其身を委ねん事を欲するなり。

(六)此故に過去のみを尊みて智慧は獨り過去に存すとすの人民は希望と進歩の精神を有する能はずエマルソン曰く「過去は奴隸の爲めに設けらる」と儒教は實に此意義に向つて恰好の好適例を與ふるものなり願ふに過去のみを仰望するの結果は其所謂神——古聖賢にのみ啓示したる神——を忘れて獨り聖賢のみを尊崇するに至るものなり然かも聖賢の時代を去る事彌々遠くして彌々其光輝の朦朧たるを致すのみ要するに進歩てふものは神が古聖に啓示したるが如く今人

世 界 の 諸 宗 教

をも啓導するを信じ神は活ける神にして生者の神たるを信じ爾曹民に進むべしと語るべしてふ神の聲を常に聞くの國民にのみ實現せられ得べき事柄なりとす。宗教にして其根底に欠點あらんか害悪は種々の方面に出現し來るべし去れば過去に心酔するの習慣はかの孝——支那が基督教國に對して著明なる模範を示すと云はれたる孝——に對する見解にも影響する所あるを見る。則ち孝てふ字は老人を其子が支持するの形を表はすものなり然かも之れと正反對の思想にして吾人泰西人には等しく眞理たる父は其子の爲めに其必要の物を蓄へざる可らずてふ事は全く等閑に附せらる博士レンツヂの言ふ所に依れば彼はパウロが哥林多教會に與へたる「それ子は親の爲めに積ふべきものに非ず親は子の爲めに積ふべきものなり」てふ文句を引用する毎に強硬なる反對なくして己む事なかりしなり、レンツヂの自言に曰く「予が此文句の精神は社會の進歩に資する所あるものにして一代は一代より更に高等なる立場に社會を上進せしむるものなりとの事を示さんと試みる毎に未だ曾て聴者の靜聽を得るの至難なるを見ざるなし」と。願ふに支那人の孝はそが及ばざるものと同時に亦過ぎたるものありて其美



世 界 の 諸 宗 教

徳を損ず其過ぎたる所に於ては孝は人をして正邪眞偽の別に盲ならしむ而して親は其死後實際上神として祭祀せらる孔子は父としては子の不正を隠蔽せん事を希ひ子としては父の不正を隠蔽せん事を希ひ義は實に此内にありとなせり而して男子は各自老齡子の行爲を自己の模範として標榜す老齡子とは其七十歳の折りに兩親が我が老年なるを見て自己の老年にも思ひ及ぶべきを痛ましく思ひて兒童の衣服を纏ひ小兒の如く室内を遊び廻はりし人なり、

如何にして基督教を支那人に傳ふべきや願ふに支那は孔子の宗教よりも歴史的に貧なる宗教もて満足するものに非ず而して亦そが古來の習慣と社會的政治的理想とに適合する儒教の如きに非らざるよりは決して満足するものに非ず然かも同時に永久者を啓示し高尚なる生活の理想を提供し兼ねて徳と神聖とに對する永久の動機を鼓吹するの宗教を要す蓋し宗教は個人にありても國民にありても湧出で、永生に至る井を有せざる可からざればなり、

現時の思想界は世界共通の思想界なり此故に有ゆる思想は國民より國民に流布して世界に普及す去れば支那は傲然として久しく世界の伴を脱したりと雖然か

世 界 の 諸 宗 教

も何時迄も此態度を保留する能はずなりぬ勿論過去の天才を敬慕し帝王の威嚴に服従するは爲すべきの事なり然れども支那は之れを爲すと同時に世界は獨り支那のみに非ず支那よりも廣大なる事を認知し且つ眞理は全世界を通じ一にして二なきを認識せざる可からず想ふに支那人は此新態度を把持して世界の舞臺に立つの技能を有す他人種は夫れ或は消滅し去る事あらん然かも支那人は永久に残存して社會に其特技を演じ得べきの人種なり蓋し彼等の體制は極めて強健にして破粹併呑せられ得べきものに非らず勿論彼等をして眞理は彼等自身の經典中に發見せらる可きに非ず而して彼等の中に發見せられざる此眞理を歡迎受納するは即ち之れ支那をして洋々たる希望あらしむる所以なりとの事を確信せしむるには永き歲月の訓練を要すべきは疑なき所なり願ふに孔子は單に支那國民の精神的要求を無視し老子と釋迦とはそが精神的要求に對して供給する所のものあらんと欲して失敗したり然れども吾人は此三者をして支那人をば基督に導き到らしむる教師たらしむるを得る事猶ほセノイブトイシセロ及彼等の繼續者輩が希臘人およびラテン語の國々をば基督復活以後數世紀間に基督に導き



到れる教師たりしが如くならしむるを得べし而してかゝる古代の教師等は決して之を輕侮すべからずして適當なる尊敬もて彼等に臨まざる可らず然り何人なりとも支那人に福音を傳へんと欲せばパウロが希臘人となり異邦人となり猶太人となりしが如く自ら支那人と成らざる可らず而して基督教國民は支那國民に對して公道正義の所置に出でざる可らずかの支那民族にして米大陸に來集する者に對する高手の所置やそが古來の習慣を蔑如する事の如きは唯彼等をして基督教に嫌惡隔離せしむるのみ彼等に對する不正輕侮彌よ甚だしくして彌々基督教に逡巡狐疑せしむるのみ去れば吾人は最小抵抗の線路を沿ふて支那人に臨まざる可からずマテオリクシ、シアール、レツヂ、マルチン、マツケーおよび其他の智者は已に業に此實例を示したり支那人の一貴人はシカゴに於る其演說中に實に左の如く言へり「宣教師をして其男信徒に家庭に於ける婦人の義務を教ゆるの大切なるを知らしめ、婦人女子をして屢々教會に出入する事なからしめよ、基督教に従へば唯一の神は無所不在なるに非ずや基督自らは公の禮拜に於ては他人の爲めにのみ祈り玉ひたりと雖同時に靜かなる室にて祈るべきを其弟子に教へ給ひた

儒教強弱の本源

り而して男女相混合して禮拜の家に出入すべしとは命じ玉はざりしなり次に支那基督教徒をして其老衰せる兩親を養育支持せしめ決して兩親と別居するを許さず祖先禮拜の室を壞つことあらしむ可からず願ふに支那人の習慣は此點に於て歐米人の習慣と其趣を異にするなるべし然れども此習慣たるや實際モーセ及び基督の命令たる「爾の父母を敬へてふ事と抵觸矛盾するものに非ず然り而して此二者——男女室を同ふせざる事と父母祖先に對する禮と——は支那宣教師たらん者が若し心に支那傳道の繁榮を希ひ亦自ら艱苦困難を脱して平和と自由を樂まんと欲せば寸時も忘る可からざる重要至極の事なりとす」パウロ及び其同勞者輩がエペソに二年を費せし後市員は「此人々は宮の盜賊にも非ず爾曹の女神を謫す者にも非ず」と證言したるを見る彼等が此方法によりて傳道事業を事としたるの結果は「アジアに住める者皆神の言を聴けり」てふ事なりしなり蓋しパウロは若しもイエスにして人の心に入り給はんかアルテミスに對するの余地を剩さるべきを熟知し敢てそが排斥を事とせざりしなり去れば苟も思慮あるの士ならんには例令支那官吏の忠言を不問に附するの恐に陥る事あらんも必ずや

儒教強弱の本源



パウロの此實例よりして學ぶ所あるべきを疑はず』

## 第五章 印度教

印度は興味に於いては遙かに支那に優るの國柄なり唯人口の點に於いては支那に及ばず然れども印度は支那と等しく之れを大陸と稱するを得べし何となれば印度は其廣袤の廣さと人口の多さと人種宗教言語の雜多なるに於いて優に大陸的なればなり印度の人口は印度教徒略ぼ二億萬回教徒五千萬以上にして加ふるに未だ印度の一般社會に併合せられざる土民殆んど二、三千萬を包含す今夫回教の傳播を稽ふるに曾てかのアフガン若しくはペルシアを侵略したる亞刺伯回教徒が印度を支配するや多數の人民は朝庭の宗教たる回教に歸依し今日も猶そが歸依者の日に多きを加ふるを見る而してかく回教が印度に成功する所以の原因に重なるもの二あり(一)階級制度の羈絆を脱して四海兄弟の實を得んと欲する願望是なり、印度に於ける佛教が成効の速かなりしは如何に此願望が印度人の思想に強大なる勢力を有するかを見るに足れり但し波羅門教が今日迄も階級制度を

## 世 界 の 諸 宗 教

## 世 界 の 諸 宗 教

維持するに足る所以の事實は階級維持の願望も亦等しく勢力あるものなるを教ゆるものなりとす(二)印度教の根本思想たる宇宙は一なりてふ確信はかの民間の複雑なる神々を離れて神の外神なし而してマホメットは神の預言者なりと最も解し易き絶叫をなせる回教の單純なる一神教に到らんと欲するの願望を鼓吹す此二つの原因は吾人をして亦印度に於ける基督教の最後の勝利を卜知せしむるに足るものなり、

印度は現時英帝國の一部分なり而してそが最上階級に位するものは英國民と人種を同ふするアリアン人種即ち印度歐羅巴人種に屬するの人種なり、四五千年以前にありてはアリアン人種の祖先は皆中央亞細亞の高原に住し遊牧者として生活したり然れども人口増加するに及びて一派は分れて南東に向ひ山路を踏破してパンヂアブに移住し、漸時に印度に繁殖蔓延するに至れり、願ふに彼等が未だ移住せざる以前にありてや印度は在來の土民とヅラヅチア人なる侵入民とが占有する所なりしなり、

此侵入民や久しく印度の日光に曝され若しくは在來の土民との離婚によりて其



皮膚黒色を帯ぶるに至りアリアン移住民は自己の麗しき顔色に對比して彼等を「黒皮」と稱したる程なりき然り而して初代の文學に従へば是等の舊住民とアリアン移住民との間には幾多の闘争ありしを證するの記録に乏しからず而して相互闘争の結果は漸時舊來の住民を其豊饒なる土地より驅逐し若しくはアリアン移住民の奴隸たるに終らしむるに至りしなり梵語の起源を開きしは此勝利者にして韋陀教波羅教印度教として知られたる一宗教も亦此勝利者が産せし所のものなりしなり同じアリアン人種に屬する他の一派は分れて南西方に向ひバルシアに侵入しゼンド語の起源を開きゼンダウエスタ(ペルシアの古聖典にして恐らくはゾロアストルが其重なる萌芽を供給したるならんと察せらる)を書きペルシア帝國を建設したり而して此帝國や其國家としての形狀は終始同一ならざりしと雖回教徒たる亞刺伯人が之を覆滅する迄世界の一強國として存在せし國柄なりきアリアン人の他の一派は亦分れて正に西方に向ひ歐羅巴に侵入したり而して此一派は亦分れて希臘國を建設する者あり羅馬國を打建つる者あり或はセルツ、チユートン、スラブの諸文明を形成する者となりぬかくの如くにしてアリアン種

## 世界諸宗教

族は廣く地球上に蔓延して現時其一支派はそが搖籃の地より數千里を隔たる絶海の一孤島に住し乍ら印度に移住して彼所に生々繁殖する幾千萬の同種族を支配しつゝあり

實に吾人は吾人と共同の臣民たる大多數の人々が信奉する宗教を考究吟味して何物をか知る所なかる可からず願ふに印度人は深き精神的本能と最も鋭敏なる智力を有するの人民なり而して印度は彼等にとりて地球上最も麗しき邦土にして彼等は今日に至る迄之を稱してアリアワルク——アリアン人の住所——と稱呼するを喜べり然れども印度に於けるアリアン人に關する智識を得るは決して容易の業に非ず蓋し彼等の宗教や回教、儒教、道教若しくは、拜火教、佛教、基督教と異なり極めて多方面に亘るものにして單一なる名稱もて之を命名する事能はず何人もそが有する種々雜多の精神的勢力を悉く捕捉し之を名狀する事能はず蓋し印度教中には幾千の聖人預言者詩人立法者僧侶哲學者改革者說教者遁世者リバイバリストありて其説く所行ふ所各異りて毫も揆一する所を知らず實にサ、モニエル、ウイリアムが言へる如く「こは人類の自然的宗教即ち人間の宗教性の

## 世界諸宗教



集合的結果にして直接の默示によりて啓導せられざるものなり。こは之れ如何なる教をも其中に發生し來るを妨げず其組織たるや上に主長を戴ける階級組織に非ずと雖僧侶は任意に團體を組織して其數、數へ難く各自民衆の上に主權を争ひつゝあり。こは何等の信仰の告白をも有せず唯だ種々雜多の意見と實行とに應用するに相當はしき凡神的信條を有するのみ、こは亦バイブルを有せず聖書の如く一大中心の真理に歸一する一編纂書冊を有せず然かも其聖書とする所のものは非常に夥多にして中には是こそ最上者の默示に出でたりと自稱する者も少からず而して其各書は各權威あるものとせられ或は一神的或は有神の或は多神的或は凡神的なる諸教義に對してオーソリチーとして單獨に使用せらるゝなり。此故にあらゆる教派は勃興し世界と人間と神とに關する見解に於て各自根本的の相違を演出する事をなし然かも猶ほ皆齊しく正統的印度教たるを失はず印度教の複雜矛盾せる此の如きが故に吾人が回教及び儒教の奥室を開明するに有用なりし鑰鍵は之を印度教に適用して其蘊奥を開明する事能はず蓋し印度教には一大人物あるありて悉く印度人の思想を吸収し彼を領會するは即ち印度の宗教を領

## 世 界 の 諸 宗 教

會するに同じとなし得べきもの一もある事なし従つて印度教を領會せんとならば吾人は他宗教の場合と異りて多くの著者が物したる幾多の聖典を研究し宗教思想の進歩を劃せる歴史上の大時代にも亘りて詮索する所あるを要す然れども印度の聖典を閱讀し若しくは智力の活動絶へざりし三千年間の進歩發達の有様に追溯するの望なき人々の爲には茲に印度教の根本主義を説明し併て該主義が他の勢力と相待ちて産出し來れる社會状態の大要を一言するを以て充分なりとなさざる可からず

(一) 韋陀文學——印度學者が韋陀と云ふ意味は左の如し

(イ) 四韋陀として普通に知られたる諸書

(ロ) プラマナス、こは韋陀中の古き經文若しくは讃歌を祭祀に使用するの道を説明指揮する後代の作なり

(ハ) ユバニシャッド、こはプラマナスに附屬したるものにして宇宙の大問題に關する前代の書物の意味を一層充分に又組織的に辨明せんと欲するものなり

## 世 界 の 諸 宗 教



## 世 界 の 諸 宗 教

廣く之れを謂へば以上に列記する韋陀の三區分は各自詩人俳優哲學者の手によ  
りて非常に永き歲月の間に書かれたるものにして皆齊しく韋陀詳しく言へば神  
の智識若くはスルチ詳しく言へば直接に聞き若しくは啓示せられたる所のものと  
稱せらる最も古き韋陀文學は多分紀元前十五世紀より十世紀間に成れる讚誦の  
一千二十八歌より成る是等の讚誦たるやかの中央亞細亞の高原よりしてパンジ  
ャブに波及し來れる殖民人が始作したる所なりと思はる願ふに此の殖民人の卒  
先者中には詩的および靈的能力を具有したる人々ありて印度自然界の新奇にし  
て美妙なる様に接し(民數記第二十一章一四—三十節間に含める小詩に等しき)小  
詩を口ずさみ若しくは見ゆる万有のかたに伏在すと思はれたる諸元力若しく  
は諸超自然力を崇敬稱讚するの讚歌を作咏したるなり而して是等の詩歌讚歌お  
よび祈禱は子々孫々に傳はりて遂に人々は是等が超自然の啓示に成れるものな  
るを信するに至りしなり而して今日に至るまで是等を作記せる古聖は印度人の  
皆齊しく尊崇する所なり然かも是等は一定の信仰を示すに非ず其記載する神々  
には各自明白なる區別の存するには非ず例せば一讚歌には火を代表するアグニ

## 世 界 の 諸 宗 教

を以て最上神となし亦他の讚歌には雨を代表するインドラを以て最上神となし  
亦他の讚歌には太陽を代表するスリアを以て最上神となすあるを見る、マックス、  
ミュラーは此自然禮拜に冠するにヘノシーズム(一時的一神教)の名を以てす即ち  
一時的に一神を禮拜するを言ふものなり然かれども韋陀經の複雑多様な一神  
教も三位一体教も多神教も凡神教も齊しく韋陀經よりして引き出すを得べし然  
りと雖韋陀經には偶像禮拜階級制度寡婦殉死余儀なき寡居自截靈魂輪廻若しく  
は後代印度教と結合したる諸惡習に關して何等の教ふる所なく且つ後代印度人  
が屠牛者を最も嫌惡して之れと悖教者とを同一視するにも拘らず亦牝牛禮拜が  
印度人中に於ける普通の禮拜なりとなし得るにも拘らず古代にありては牛肉を  
食するの習慣を有せし事も亦韋陀經中に窺ふを得るなり當時にありて祭祀は單  
に神若しくは神々に對して禮物若しくは食物を俸呈して其祝福を感謝し若しくは  
神と禮拜者との共同生活を表示するものなりき家長は則ち僧侶にして其神々な  
るものは元來自然界の元素および行歩に命名したるものにして漸時宗教的感情  
の表號即ち宗教的禮拜の對象と化し來りしものなり願ふに光は最も強く彼等の



## 世 界 の 諸 宗 教

注意を喚起したるものなるが故に彼等は自然界の著明なる勢力若しくは形体に對しては皆之れをデバ若しくはヂウス詳しく言へば輝けるものでふ總名を以て稱呼したり此の如くにして一切の物は皆之れをデバ即ち輝けるものと稱するに至れり吾人は亦ヂウスビター即ち輝けるもの若しくは天父てふ名稱をも發見す、ヂエスピター即ち羅馬人のヂエビター希臘人のゼアスペターおよびイエスキリストに依りて顯現せられたる我儕の天父てふ語の萌芽すらも發見するなり此の如き始めを有する此の如き人民はかの自然の傾向として其同種族なる周囲の人民の粗惡殘忍放姿なる宗教に感染するの性質を有したるイスラエル人に比すれば必ずや純粹なる一宗教と心靈的なる宗教に發達し至るべしと豫期せらるゝにも拘らず事實は之に反して——彼等が神に對する熱心眞面目なる熱望を有し幾多の變遷を重ねしにも拘らず——吾人は唯だバラナスおよびタレトラスを以て其バイブルとする近世印度教の多教派を見るのみ而して偶像禮拜は實に全土に普及し人間よりも偶像を見出すの容易なるの奇觀を呈するに至りぬ人心の發達と生活の複雑とは漸時舊韋陀教の不充分なるを感ずるに至らしめた

## 世 界 の 諸 宗 教

り而して祖先の輝ける神々に對する疑惑は生じかくて不信仰に起り來りて舊來の單純なる信仰を一掃するに至れり然れども懷疑不信仰は唯だ之れ人心が神を追慕するの休息所のみ宗教的人民の一時的休止のみ然かも新にして更に廣大なる宗教は茲に準備せられつゝあるなり果して然らば印度の宗教が取り來れる新態は如何勿論こは舊宗教中に其萌芽を得來れるものにして亦舊宗教を完成するものにあき今夫れ古代の讚歌中には萬有に貫通すと思はれたる一超絶者即一超絶的心靈を追索するの有様を表示するものなり而して彼の韋陀記者等が光火雨雲太陽を禮拜せるは實に神に對する熱望の然らしめし所なりしなり彼等はアデンス人が未だパウロの説けるイエスと其復活とを知らずして不識の神を禮拜したるが如く知らずして神を禮拜したりしなり然り而して自然界の秩序と唯一とが層一層明白に會得せらるゝに至りて總ての印度思想の根本をなせる根本原理は茲に案出せらるゝに至りぬ則ち「全宇宙には唯一の存在者あるのみ第二位に位する何者もある事なし」てふ是なり彼等は此不可思議なる萬有主宰の心靈に對して名を附し之をブラマと稱しぬ、



## 世 界 の 諸 宗 教

ラマとは全空間に亘り萬有に化生する者てふ意味なり夫れブラマは萬有に先ちて存在し萬有は彼によりて存在す而かも萬有は彼と其性質を同ふす、こは之れ自存の超絶的本義にして唯一眞實なる精体、萬有の唯一永久の萌芽なり而してこは自己の無限の膨脹と無限の顯現と無限の創造、解体、再造とを喜び其之れを爲すに無限の種々雜多なる行動を以てす(サハ、エム、ウイリ、ア、氏の印度)如何にして宇宙は此永久の非人格的心靈よりして生起し來りしや曰く宇宙はブラマよりして發生し來りしものにして創造せられたるものには非ず、實にブラマは靜穩なる智慧にして意志よりも寧ろ思想主權者よりも寧ろ安息者にしてそが冥想よりして有らゆる世界は流出し來りそが意志によりて創造せられたるには非ず、則ちブラマは其冥想よりして水と生産的種子とを出生し來らしめたり而して此生産的種子たるや黄金卵(ゴルドン)に化醇し、此黄金卵よりしてブラマは萬有の創造者たるブラマ神(波羅門教三神)として出生し來りしなり而して此黄金卵の説や又律法の第一章およびプラナスに記載せらるゝかの綿密なる天地創成説の出發點とはなりぬ、ブラマ神は一度創造者として萬有を創生したりと雖彼が如き無色の

## 世 界 の 諸 宗 教

神はあまりに遠くして人々の心情を満足せしむるに足らざりしが遂には韋陀中に記載せられたる他の二神なるウイシヌ(ウイシヌ)即ち宇宙の保存者およびシバ(シバ)若くはマハデバ(マハデバ)即ち宇宙の破壊者と漸時に結合一和せらるゝに至りぬ、かくの如くにしてかの著明なる印度の三位一体即ち三一の神は生じ來りしなり然り而して此三人格神は各其配遇を有すとせられ男女の合一して離る可からざるを表せり然れども此三神——創造者、保存者、破壊者としての三神——が有する複雑なる生質とそが相互に有する關係とに至りては極めて不明瞭なる觀念を興ふるに過ぎず三神の一致はAUM若くはOmてふ不思議なる文字もて表號せらる彼等は皆同等にして其職も絶へず交換せらるゝものなり、彼等の符號は三角形若しくは一体三頭の形もて現はさる、印度のセキスピアと稱せられたる印度未曾有の大詩人カリダサ曰へらく

此三位によりて一神を表はすなり、

三神は各位地に於て皆初めたり終りたり、

シバ、ウイシヌ、ブラマ、ともに各幸福なる二位中にありて第一第二第三位に



韋陀教よりして波羅門教に轉化する此神學上の發達につれて階級制度を結成せる大なる社會上の發達も亦現出し來りぬ此の階級制度たるや爾來印度宗教の骨子をなすものとなりしものなり按ずるに韋陀讚歌中にありては王族若しくは軍人および文人若しくは僧侶の二階級を區別してウイス、即ち普通民衆以上に位するものとなせり而して此二階級間には久しきに亘れる反目争闘ありしが其結果として波羅門、シャトリアス、ウエイシアス、の三階級は斬然たる區別もて茲に出現し來れり而して此三階級は更に嚴密にストラスてふ第四の階級と區別せられたり此階級は被征服人種より成るものにして皮膚色習慣および言語に於て以上の三階級と異なる所のものなりとす雜婚は法律制度の嚴禁したる所なりしにも拘らず夥多の雜婚は生じ來りて種々の雜種と種々の階級とを産出するに至り今日にては階級の多き數百を數ゆるの有様とはなれり然れども階級組織がかく複雑なるに至りしに拘らず再生の人々<sup>○○○</sup>と其他の人々とは根本的の區別を保有す則ち以上の三階級の青年輩は一定の年齢に達すれば聖繩を左肩上と右腕下に纏ひ嚴肅

## 世 界 の 諸 宗 教

## 世 界 の 諸 宗 教

なる聖式もて韋陀經の研究を始む是等の人々を稱して再生の人と謂ふなり但しストラの義務は再生階級に俸事するにあり就中暫時にして王族若しくは軍人階級をも凌げる波羅門族に俸事するにありとせらる今夫れ波羅門族は中古に用ひたる意味に於ける僧侶にして詳しく言へば獨り教育ある階級に屬せしなり此故に彼等は獨り祭司の職を行ふに相當はしきものなりき彼等はブラマの口より發出し來りたる人々なるか故にブラマと密接の關係を有し從て同儕人類を教導するに最も適當なる資格を有すとせられしなり彼等は韋陀研究を獨占したり而して亦神學哲學乃至諸種の研鑿をも之を自家の專有に歸しぬ而して彼等が過去に對する尊敬傳説に對する生來の尊信とは彼等をして何種の智識も皆之れを韋陀に追溯せずして己まざらしめしなり波羅門族の位地は遂に確立して之れを抗爭する者なきに至れりかくて彼等は二千三百年の間印度王族の顧問たり印度人民の教師とはなり來れり全世界に於て何人も彼等の如く久しく其最上位地に傲然安居するの階級は一もある事なし但し今日にありては彼等はピチーアスの如き聖市若しくは鐵道工場の便なき片田舎にのみ其舊態を保有し居るを見るなり



## 世 界 の 諸 宗 教

波羅門教が明示する宗教上の進歩に二様あり、一は則ち宇宙の第一原因を確言する事にして二は則ち罪惡の深き意識是なり、罪惡を自覺して之を告白する事多きに及びて祭祀の禮も亦多きを加へ謝罪的犠牲の必要も茲に感得せらるゝに至りぬ此方面に於ける波羅門文學の發達は實に非常なるものにして祭祀犠牲に関する言句の多き猶太文學若くは其他の文學の遙かに及ぶ能はざる所なり、かくて祭祀犠牲の儀式は更に煩鎖を極め階級の區別は更に嚴酷を致しぬ去れば會社を結成するにも生活を營むにも僧侶の指揮を待たざる可からざる事となれり、之れ則ちブラマナス(經天の名の間する所にしてブラマナスは即ち祭祀に関する事柄を指揮命令するものなり、然れども儀式が其極度に達するやそが反動あるは免かれざる所にして而かも一方面の反動のみに留まらざるべしと思はる、かの烏婆尼娑土は普遍の實體とそが人間に對する關係とに關する思辨を含有するものなるが此反動の最初のものとして見るべきものなり、則ち人は煩鎖なる儀式を脱離するの道を哲學に求めしなり然り而して此のウパニシャッドはダルサナス即ち正統派哲學の六派の起源をなすものにして思想と生活の根本問題に對する印度哲

## 世 界 の 諸 宗 教

學者の解答を記載するものなりとす今試みに此六派の主張を観察せんか東西思想の相違は一見瞭として明なり則ち西洋思想は真理其物を追求し東洋思想は先づ神と人とは一なり而かも其現に外見上相異なるが如きは無智迷妄の然らしむる所なりと臆斷しかくて肉体の羈絆と自我の煩より靈魂を解脱するの最良法を尋求し以て神と我とは一なりてふ事を會得し河流の大海に吸収せらるゝが如く我等亦神の裏に復歸せん事を努むるにあり更に他の相異點を擧げんに印度正統派てふものは教義の如何に存するに非ずして唯韋陀の神權を承認するにありて存す此一事を承認し加ふるに階級制度を受容れんか哲學者は純理に基きて如何なる體系を組織し如何なる議論を立つるも可なり其凡神説たると無神説たると自然神教たると多神教たるとは毫も其問ふ所に非らざるなり、普通波羅門教の信條は左の事項を明言す曰く靈魂の永生曰く宇宙を進化し出したる本体の永存曰く靈魂が肉体と結合するに非らざれば意識もなく意志もなく行爲もなしと云ふ事曰く肉体の價值なき事曰く行爲の應報は即ち賞罰なり但しそは終極のものに非ずと云ふ事曰く靈魂輪廻の説是なり是等の題目に關する思



辯は全く箝束なき自由思想を誘起したり但し大なる思想の自由は波羅門族が古來享有し來りたる所に過ぎず彼等は本能的に彼等自らは智慧を代表する人々なりと自覺したりき。

(二) ダルマシャトラス即聖律法書、哲學は社會の幸福の爲めに正統派の範圍を脱せざる様にせられしが波羅門の徒は更に律法書即ちダルマシャトラスを編纂して社會の憲法たるべき精細の諸規則を制定し以て諸階級の調和と日常生活の規律とを確定する事をなしぬ此律法書にありて最も著名なるものはメヌ——波羅門の子なりと宣言せらるるメヌ——の名を冠する夫なりとす、今夫メヌ律法書の第一章に依ればかの聖人輩は最上至尊の神を冥想しつゝあるメヌに要求するに聖律法を彼等に教へん事を以てしたり、

〔彼(メヌ)は此見ゆる世界の第二流の構成者なるが彼は天地創造の有様を語りて後ブリグに命じて法典を彼等に公布せん事を以てしたり此律法たるや彼が世の始めに於て最上至尊者よりして受けるものにしてブリグおよび其他の九聖人に教へたるものなりとす、それが天地創造の章下に記載する社會の基礎は實に左の

## 世 界 の 諸 宗 教

## 世 界 の 諸 宗 教

如し(二十八)如何なる職業たりとも其職業に對して最上至尊の神が始めに使用したる靈魂は、よしそが輪廻して再三其肉体を新にするの場合にも自然に其職業に固着するものなり(二十九)假令如何なる性質なりとも例せば有害、無害、辛嚴、溫和、正、不正、眞、僞の如何なる性質にもせよ神が創世の砌りに靈魂に與へたる性質は幾世の輪廻轉生を重ねるも靈魂は各自之れを失ふ事なし(三十一)神は人類を増殖せんが爲めに其口、其腕、其腿、其足よりしてバラモン族、シャトリ族、ウエイシア族、ストラ族を生み出せしめたり、

韋陀教よりして充分に組織せられ更に再び改善せられたる波羅門教に發達進歩するに費したる歲月は殆んど紀元前八百年代より紀元後千三百年に亘る長年月なりとす、

過度なる僧侶主義と社會の壓迫禁制と波羅門教に伴ふ諸種の惡弊放肆とは印度の社會に存して而かも久しく壓仰せられたる反對の傾向と相待ちて茲に紀元前第六世紀代に方りて佛教を産出し來れり、教授ペールは佛教組織の大体が多分最初殖民人(アリアン人種以前の殖民人)によりて印度に傳來し來りしものたるを



殆んど疑はず但し初めに侵入し來りしアリアン人種の優勢は之れを壓迫し亦之れをして隠匿するの止むべからざるに至らしめたる事併ひに時の進むにつれて新信仰は腐敗し舊信仰は茲に復興し來り釋迦自らの人格の感化によりて在來の信仰を一掃し一千年の間印度を支配するの宗教となり來りし事を殆んど疑ふ所なきなり」

波羅門教と佛教との間に長世紀間存在したる關係は實際如何なるものなりしやは之れを追溯すること困難なり然れども佛教が一時非常なる成效を博して波羅門教の宗教的および社會的組織を一掃し去るの勢を呈せし事あるは毫も疑なき所なり願ふに佛教は其始めや單に釋迦が正當なりと信せし所に準じて波羅門教を改造革新したるものに過ぎざりしなり實に或點に於ては釋迦の教は其系統を波羅門教にとるものなり他の點に於ては波羅門教の反動よりして發生し來りしものなり然かも兩教の抗爭久しきに亘りしと雖波羅門教は茲に再び印度の宗教として確立するに至りし事實は以てそが佛教の閑却せし眞理を代表するに依るなるを窺ふに足れり

## 世界諸宗教

## 世界諸宗教

波羅門教は佛教との抗爭とに依りて近世の印度教とは成れり今夫古代の神々は民衆の信仰と愛着との對象たる事能はずなりぬ儀式は如何に華麗なりとも法律は如何に古くとも心情を満足せしむるに足らずなりぬ然かもかの思辯てふものは唯少數者に満足を與ゆるに過ぎず韋陀は全く民衆の解し能はざる所たり於是乎ラマヤナおよびマハバラタの偉大なる古譚歌は茲に民間のバイブルとは成りぬ今此叙事詩は古代歴史の英雄たるラマおよびリシナの行爲を稱讚するものなるが印度人の宗教的本能は佛教の壓迫ありしにも拘らず此二英雄を神々と見做すに至りぬ而して波羅門教徒は直ちに其柔軟なる凡神教をば人民の渴仰に順應一致せしめ以てかの二英雄をグイシヌの化身なりと公言するに至れり去れば吾人は此點に於ても此新信仰が其萌芽を舊宗教の中に發見し其根底を歴史中に見出せしを見るなり然り而して此の古代の叙事詩たるや印度人の思想に對して非常なる勢力を有するものにして今日に至るも亦悔ざる可からざる大勢力を有す實にそが記載する文句は旅人によりて讚唱せられ村祭に於ける樂人によりて暗誦せらるゝ所にして幾多の學者はそが感化力の大なるバイブルが基督教國民に



與ふる夫れに比して更に遙かに大なるものあるを明言す、今夫れマハバラタは十卷より成り幾百千の詩句を有するものなるが印度の文人輩は之れを善菓良花に満ちて而かも永久の泉に潤さるゝ深遠高尚なる森林に喩ふ願ふにマハバラタの主題とする所のものはバラタ族の歴史と國の主權を争へる二同族間の争闘とにあり而してかゝる古譚とにも後代の産たる哲學的説話をも挿入す、此哲學的説話たるや初代の波羅門教を説明するのみならず後代の波羅門教の教義特更に化身の新教義をも説明するものなりとす而してそが道德上の教に至りては佛教と大差なしと雖階級制度に至りては根本的なるものとしてそが教示を怠らざる所なり、今リシナは此詩中の英雄なるが哲學的説話中には彼をヱイシヌの一化身として最上至尊の神と同一者と見做し其言辭を記載しあり曰く「若しも義務の緩怠あるか不敬虔の増すあるか我必ず善人の保護者悪行者の破壊者として現はるべし」と、ラマヤナは恰かもマハバラタガリシナに於けるが如くラマの事蹟を記載稱讃するものなるが此兩者に記載する奇蹟——リシナおよびラマが行へりとせらるゝ奇蹟——は極めて奇怪、迷妄、不可能の事柄にして普通印度人の趣味を

## 世 界 の 諸 宗 教

表明するもの同時に印度人を教育しつゝあるものなり。

かく波羅門教が化身の教義によりて通俗教たらんと欲するやそが墮落は實に迅速容易なりしなり則ち波羅門教は思想の境界を離れて小説的境域に降下し來り幾多の改革者の反對と幾多の哲學者の盡瘁ありしにも拘らず其頹勢を挽回する事能はずなりぬ。

此新波羅門教たるや一部分は便宜の爲めに出で來れるものにしてかの國民の大多數を形成し而かも粗野なる偶像禮拜の外に出づる能はざりし土民を牽引して以て佛教の反動を滅絶せんと企てたるものに過ぎず然れども他方に於てはこは亦純粹にアリアン人の精神の進化したるものに外ならざりしなり則ちアリアン人種の精神に深く浸潤したる神は無所不在にして總ての思想者および思想の對象中に遍在し給ふ事及び神と人との間には同情親睦なかる可からずてふ確信より生じ來れる必然の歸結に外ならず蓋しかの大保存者たる神は其靜安なる住所よりして此世に降下し以て萬物を其滅亡裏より再造すべきは正に豫期せらるべき所にして破壊に次て革新の至る人世の經驗は正しく此理を宣言するものなり

## 世 界 の 諸 宗 教



世界諸宗教

と思惟せられしなり則ち以爲へらく人世の革新は即ち之れヱイシュの降生時ならざる可からず而して若しもヱイシュにして幾多の前時代に人間以下の形体もて降世したりとせば然らば彼が亦人間として降世する事あるべきは毫も疑を容れざる所なりと此故ロリシナ——無数の古譚の中心たるリシナ——は茲に神として崇拜せらるゝに至りぬ、かくリシナを神として崇拜するに至るまでの間に自然界と歴史とに基く新古譚が種々附會せられしは自然の數にして聊かも怪むに足らずかくて亦新しき思辯は神學と結合して此民間の信仰と韋陀經との間に何等かの一致を見出さんとは試みるに至れりかくの如くにして偶像禮拜は普通一般の禮拜とはなりしと雖然かも人の領會に過ぐる智慧者——彼を見るは聖人の最も光榮とせし智慧者——に對する最上の思想は全く滅却せられたるには非らざりしなり願ふに此新波羅門教が成効しそが廣く信奉せらるゝの事實は則ち基督教の中心的眞理が宗教に欠く可からざる中心的要素たるを證するものに非ずして何ぞや此眞理——主イエスキリストの化身——たるやよし人は神の像に象どりて造られたりてふ默示中に暗示せられたるにもせよ亦よしイ

世界諸宗教

メラエル人の前代歴史が化身の準備たりしにもせよ猶太人の全く豫期する能はざる所なりしなり蓋し猶太人は幾世紀間純粹なる一神教者として教育せられたる國民なりしが故に若し此眞理にして實際默示によりて教へられ且つ言語に依るに非ず活ける人物の生活によりて明示せらるゝに非ずんば彼等自身のみにては到底此眞理に到達進歩する事能はざりしなり基督の弟子等が當時の思想に入せられ久しく此眞理を捕捉する能はず而かも初代の猶太的教會が漸時にユニタリアンに傾向し耶蘇を單に人間に過ぎずと思惟せるの事實は以て猶太人が如何に此眞理に縁遠きかを見るに足れり、マホメットも亦セミチック人の一人として常に神の化身てふ事を怖るべき褻瀆罪なりと思惟するを禁する能はざりしなり、果して然らば宗教の根本思想にしてそが自然の儘にては決して發生す可からざる土地に發生せられたりとせば吾人はそを特別天啓に基くものと解説するを得べし但し印度教に於ける化身の觀念は然らず何となれば印度は化身の觀念を自然に發生し來るべきの土地柄にして吾人はそが人民の歴史中に此觀念の生長を窺ふを得べければなりかの猶太人の思想は決してソロモン、ダビデ若くはユダ



スマツカピアスを神視するを欲せずと雖印度思想は之れに反してヴィシヌが化身して魚となり龜となり熊となり若くは男性的美德の標本たるラマカントラとなり若くは奢侈強膽なる軍人的生活の標本たるリシナとなりしを信するに何等の困難をも感ぜざるなり

(三) パクチアトラス即ち信仰に關する神聖なる書物——かの四章陀は印度宗教の第一段階を代表するものにして有らゆる將來の發達の萌芽を包有すブラマナスおよびウパニシャッドは其の哲學的諸系統および律法書とともに第二段階を代表するものにして波羅門教が充分に發達し且つ佛教と相並んで存在したる時代に跨るかの波羅門僧が神學上の見地よりして校訂したる大叙事詩は第三の段階を代表するものにして化身の教義が盛んなるに至りし時代なり後代に書かれたる十八のプラナスおよびタントラス——こはプラナスよりして後に發達したるものにして某神の女性的力特にシバてふ神の妻を種々の形狀に描出してそが力を崇拜するに重きを置けるもの——は此驚くべき豊饒なる宗教の近世のおよび教派的時代を代表するものなりとす。

## 世界諸宗教

## 世界諸宗教

「プラナは終始一貫問答体に出來たるものにして問者の間に對する答者の答を記述するものなり而してそが論據とする所はかの二大叙事詩にしてマハバラタは其重なる材源たり蓋し印度人に從へば凡そ地球上に存する古譚は一として其起源をマハバラタにとらざるあるなし兎も角もプラナは印度人が之れを第五の章陀と稱する程に印度人の宗教的生活に重要な地位を占有するものなり(但し實際そを第五の章陀なりと稱するは多少の反對なき能はざる所なるが如し)今夫れプラナは極めて荒唐冗長なるものなるがタントラスに至りては往々にして大なる不道德の記事を混入するあるを見る、プラナの詩節の全數は四十萬なるが此四十萬は數百萬中より省略して得たる所なりと云ふ而して是等はかの天地創造說や神傳説や叙事詩中の物語りや口を反復し敷衍し排列するものなり然れども古代の傳古譚が深沈壯嚴にして其哲學的史詩の思想の精密深遠なるに反してかゝる後代の作は概ね淺薄幼稚たるを免かれずプラナが禮拜の主体とする所の神はヴィシヌとシバにして前者は品格を代表し後者は人の功德を代表するものなり一言以て之れを言へばプラナの根本思想は常に凡神的たるを免かれず但し自ら萬



有にして萬有の起源たり亦萬有の終局たるかの格段なる神に關しては各教派各其意見を異にするものあり「ワイナワ即ちグイシヌ禮拜者はそが特殊の聖經としてグイシヌプラナを採用す此グイシヌプラナはグイシヌに對する信仰を極度に稱讚したるものなり而してサイワ宗者は彼等の聖經としてバガワタプラナを採用し行爲とダルカに對する信仰とによりて救を得べしと宣傳す願ふに此ワイシナワ宗とサイワ宗とは現時に於ける印度人の宗教思想と其生活とを腐敗の狀態に於て殆んど遺憾なく代表顯示するものなり此故に印度は實に新生を待ち望みつゝあり教授ウイルソレは印度社會の現狀に關して言説して曰へらく熱心なる儀式巡禮懺悔冥想は人民の最も重しとする所にしてそが有識者すらも實際上の善行道德的教訓よりも優りてそを大切なりと思惟す普通人民に至りては其程度猶劣等にして彼等は善行の不便を避けて之れに代ゆるにグイシヌに對する熱心なる信仰と鸚鵡を馴致してグイシヌの名を連呼せしむる耐忍の効徳とを以てせんと欲すとサーモニエルウイリアムはグイシヌ禮拜が今日に至る迄で猶印度教の大なる保守的要素をなすものたるを信すと云へり且つ曰く予は誠實に印度人

## 世 界 の 諸 宗 教

の多數の宗教は單純なる邪神禮拜たるを信す凡ての階級を通じて男も女も恐らくは歐米人に教育せられたる者の外彼等は幼時より老年に至るまで怖ろしき悪鬼と單純に意地悪るき小鬼害心ある幽靈に追跡迫害せらるるてふ迷信もて深く浸染せらる願ふにカチサ——悪鬼の王——の禮拜が普ねく印度に行はるゝは實に之れが爲なりとすと

吾人は前來叙述し來りたる所によりて聊か印度の宗教とそが宗教的生活を顯示する代々の書冊との發達進化の大要を摘録したり然れどもかゝる叙述たるや唯だ其外見の發達進化を表はすに過ぎず吾人にして若しも一步を進めて其内部の狀況如何を洞見せんか必ずや印度歴史の潮流の内面には常に聖賢偉人詩人哲學者僧侶改革者篤信者もて充滿するを見ん然かも亦之れあると同時に獨り全世界に卓出して世界萬代の師表模範および救主——神と人との中保者たる救主——たるの人格として在るなきを見ん別言すれば犯す可からざる權威もて全人類に「我に従へ」と號呼し吾人も亦心より之れに従ひ得る程の人物の存在せし事なきを見るなり勿論印度にはインスピレーションによりて書かれたりと稱する書物

## 世 界 の 諸 宗 教



## 世界諸宗教

なき非ず而してそが天啓に成れりと稱するの度合は第十八世紀に於ける瑞西學校派の學者輩が聖書バイブルに對して有せしよりも遙かに優れるものなきに非ず且つそが尤大なるの點に於ても遙かに聖書の比較し得る所に非ず然れども是等の書物が教ゆる所のものは矛盾衝突して歸一する所なくかの聖書全体の教が中心的一真理および一人物に集中し總ての預言と儀式とを一身に集めたる一人格を證明するが如きの類には非ず吾人は亦印度教に奇蹟なるものあるを見る然かも其奇蹟たるや道義的秩序を逸し世界の歴史に何等の關係をも有せざるものにして聖書に存する奇蹟の如く尊き人格の純粹なる結晶に非ず若しくは歴史上の大事實が依て以て湧出し來るが如きの類にも非ず、

印度教は人類の思想が夫自らに案出し得べき有らゆる宗教思想が流集したる一大貯水池と見做を得べし但しそが果して然るや否やは印度の産物たる佛教——そがアリアン思想の産物には非らざるにもせよ——を叙述する迄は充分之れを窺ふを得べからず今は公平に暫く印度教の長短所を察知するを以て足れりとすべし、

## 世界諸宗教

要するに印度教は最上主宰者の靈智と靈魂の不滅性と最上主宰者に對して人の正に取るべきの態度と默想、祈禱、犠牲の必要と化身、贖罪、服從、信仰、善行の不可欠とに關して麗しき思想を發露するものなり、こは之れそが殆んど總ての時代に於て人の生れ乍らにして罪に傾くの弱き性情を有する事と地球と時間との短小なる事と靈的完美的壯麗とに關しても亦深遠なる教訓を與へ神の善にして吾人々類に深き同情を有し吾人々類の幸福に對して自ら計り給ふ所ありてふ慰藉を齎らし善美なる世界の必ず來るべきを約して世の重荷に苦み人生の矛盾に煩悶せる夥多の生靈を安慰する所ありしなり、然りと雖印度人は遂に眞の神を發見する能はざりき去れば彼等の初代宗教の希望は卑賤なる偶像教中に埋没し去られ國民の歴史は茲に相携へて墮落腐敗の實を現し回教侵入者が印度を襲撃せるの時代には其銳鋒に立つ事能はずなりぬ但し回教も亦印度の宗教に發現せんとしたる精神的要求を満たす事能はざりき而かも基督教が果してそを満たすに足るべきや否やは基督教の説明者輩が幾世紀間印度人の追求摸索して止まざりし所のものを彼等に供給し得るや否やに存す、



## 第六章 印度教強弱の本源

印度教の強所と弱所とは果して奈點に存するや

(一) 波羅門族を最上位となせる階級制度是なり然れども此階級制度たるや印度をしてその社會的構造を幾百千年の久しきに維持結成し來るに何物よりも與て力ありしものなり一見しては階級制度は全く非國民的にして亦非社會的なるが如し然れどもその起源を察すればそれは實にその宗教的必要特更にその人種的必要よりして生じ來れるを見る已に宗教的必要と人種的必要とよりして發生す此故にそが驚くべき長年月の間其存在を繼承し來れるは必然の勢にして正に當然至極の數たるを知るなり願ふにかのアリアン侵入者は印度國を征服したりと雖其數よりすれば遙かに其臣民たる他人種に及ばず從つて若しも彼等にして自家の高尙なる文明と宗教とを維持永存せんとならば其血統の純粹を保存せざる可からざるを感じたり之れ猶エズラ以後の猶太人が摩西の律法によりて周圍の異邦人の汚穢より脱離し現時代に於ける南亞の和蘭移住民が自ら神の民と自稱

## 世 界 の 諸 宗 教

## 世 界 の 諸 宗 教

しホツタントット、ブツシマン、カフアル、人種をカナン人と稱呼して傲然たるに等しかくして階級制度は茲に確立せられアリアン種族の子孫たる波羅門族は祖先の遺風を踏襲して容易に之れを變換する所なかりき其結果として印度の社會的狀態は實に二千二百年以前に於て印度人の生活を描寫して始めて之れを歐羅巴に示せる希臘の觀察者をして讚嘆禁する能はざるものあらしめしなり則ちメガセテスはベンガル朝に於ける全權大使なりしが彼が記述する所に依れば印度の婦人は純潔にして男子は總ての亞細亞人中にありて最も勇敢なる者なり印度人の寢むるや戸に錠をおろさず彼等の中には一人の虚言する者なし而して社會の大なる特質はそが冥想沈思を業となし思辯思考に便せんが爲めに驚くべき缺乏辛苦を甘する人々の一階級を有する事なり希臘觀察者は是等をソフヒスト即ち賢人と稱しぬ蓋し是等の人々は勉學もて其主要の業となせばなりこれぞ即ち波羅門族の謂にして此波羅門族は獨り僧侶たるのみに非ずして攻學もて其業とはなしぬ今夫ブラマは最上至極の智慧にして印度の聖人はブラマと感合一和せん事を仰望したり波羅門族の信する所に從へば人には此不見の存在者を見得るの才



印度教強弱の本源

百七十四

能を具備す但し之れ總ての人に此才能あるに非ず唯波羅門族に具はる所のみ此故に神の子等は人の娘等と婚姻和合す可からず高尚なる靈魂は自ら其純粹を保存して恒にブラマを冥想默念するを以て専一となさざる可からざるものなり實に彼等の法律制度は此目的をなし盡げんが爲めに制定工風せられしなり而して此法律制度の根本とする所のものは再び生れたる人と單に動物的人との間に斬然たる區別を劃するにあり再生の人は韋陀の研究と儀式祭祀の適當なる實行と肉体的愛慾の滅絶とによりて精神の自由を獲得し以て見へざるブラマと自己との關係を正當に保持する事を學ばざる可からずかくの如くにして再生の人は始めて完全なる存在者を覺知し個人的存在の羈絆を脱却するを企及し得べし之れ自他の幸福の爲めにして獨り彼自らの爲に非らざるなり蓋し彼の智慧は神の發現なるのみに非ずして彼自らはブラマと宇宙の萬有との仲保者たり社會は彼が如き賢者の支配によりてのみ正當なる組織を得べし波羅門教に従へば人間の社會的生活は決して人間の平等を意味するものに非ず唯人類は有機体なり頭腦は身体を支配すてふ事を意味するに過ぎず、

印度教強弱の本源

百七十五

吾人は稍もすれば波羅門族は自家の利益と名譽との爲めに精細巧妙なる防禦的組織を以てしたりと思惟し若しくは波羅門族は自家の幸福なる生活を營まんが爲めに他人を犠牲に供するものなりと思惟するの傾向を有す然れども生命ある事物は決して此方法によりて發生し來るものに非ずこは決して永久なる事物が建設せらるゝ磐石には非ず蓋し永存する事物は天然の性情に其根底を有せざる可からずして決して一個人若しくは一階級の利己主義に起因するものたる能はず願ふに波羅門族が案出したる嚴酷なる義務の學說と彼等が忠實に之れを實行したると有らゆる階級の人々が幾百年間彼等を尊敬し來れるとは彼等が安逸を欲するに非ず實際高尚なる義務責任の念によりて刺戟せられしを證するの最良證驗たらずんばあらず而して今日すらも彼等は其麗はしき容貌其高き額其高雅なる態度中に彼等の高尚なる過去を印象して滅却すべからざるものあるを示せり彼等は高尚智慧者の正當なる高僧なりき彼等の訓練は彼等をして下賤なる性情に滿てる普通人民との雜居によりて其天真の美性を失墜するを防禦するを目的とはなせり法律制度の目的マヌ法典與其他の天啓的立法者輩の目的も亦此處



に存しぬ去れば階級制度は永久なるもの造物主に其根底を有するもの従つて何等の變換をも許さざるものなりと宣言せられたり

こは則ち波羅門族の人種的驕傲と相待ちて再生者もスドラ族乃至波羅門族と他族との間に嚴格なる區別を置かしめたる所以のものにして其目的の偉大なる何人も之を否む事能はざるものなり然れども之れ唯一部分の眞理に過ぎざるが故に其成功も一部分の成功たるに過ぎざりしなり今夫れ波羅門族は世の貴族と稱するものが或美德を有するが如く夫自らの美德を有し數ふ可からざる程の効徳を印度民に貢獻する所ありしと雖然れども彼等が爲すが如き靈的人間と動物的人間との區別は人間自然の由來に反するものにしてそれが如何に必要なりとも如何に嚴格に之れを教ふるも亦それが如何に波羅門族に便利なりとも到底維持すべからざる所のものたるに外ならず去れば時の進むにつれて階級制度は遂に其豫期せらるべき結果を生じ來りぬ則ち波羅門族は傲然として自ら完全なる人間なりと自信し他族を輕蔑し彼等の權利を蹂躪し人類の同胞たるは實際に拒絶して憚からざるに至れり於是乎佛教の大なる大反動は起り來れり勿論波羅門教は

## 世 界 の 諸 宗 教

## 世 界 の 諸 宗 教

幾世紀の動搖を経て再び印度の民心を收攬し得たりと雖然かもかの波羅門教の制度——曾ては社會の或る状態に於ける自然の産物として有用至極のものなりし制度——は人爲的に之を他人に課して以て傳説的神學若しくは社會先入の思想を防護せんと欲するに至りて茲に有害無益のものとはなり了りぬ階級制度も其舊生命を失ふて印度の呪詛とはなりぬ然り階級制度は國民の一致を破壊しかくて印度をして外國の侵入に對して有効なる防禦をなす能はざるの悲境に沈淪せしめぬ而して現時にありてはこは全く國民の生々たる新生命に違反するものにして若しも印度が其昔日の榮光を恢復せんとならば必ずや排斥滅絶すべき一組織一獨斷説に外ならざるものとなりぬビ、ピナガルカーはブラモンマとして知られたる有神的運動の主動者の一人なるが彼が證言する所に依れば曰く「泰西諸國の社會的區別は地平線的にして従つて社會的地層は累々として相互に相連れる山脈の如し然れども印度にありてはそれが社會的區別は垂直的にして従つて社會は下層より上層に至るまで相互に斬然たる區別を有す前者の社會制度は強康永續の源にして後者の社會制度は貧弱死滅の源なり願ふに印度歴史の或時



世 界 の 諸 宗 教

代にありて現時の社會狀況と全く異なり階級の數も多からず其性質も現時の如く嚴酷なるものならざりし時ありしなるべし此時代にありては階級制度は極めて社會に有用なるものなりしならん然れども久しき以前にありて然り極めて久しき以前にありて社會の狀態は全く一變し去りぬ……印度の階級制度は印度民を無數の階級および黨派に分劃して非常なる排他の精神を創造し正當なる大望と健全なる企圖と共同の冒險とを滅却し加ふるに階級と階級との間に嫉妬猜疑の念を養成し階級相互をして共に相反目せしむ……此故に印度に於ける社會改革の第一要件はかの階級を打破し以て階級と階級との間にも個人と個人との間にも自由にして兄弟的なる交際を結ばしめ偶然なる各自の身分家柄の如何に拘らず専ら各人の道徳的價值と心情の善否によりて人間の價值を判定せしむるにありと、

願ふに波羅門教がかゝる運動に對して如何程までの抵抗力を有するか亦ブラモソマが言ふ所は如何なる範圍まで近世印度の高等生活を發現するものなるか若しくはかゝる運動は果して將來の印度に一動力たるべきやに關しては固より幾

世 界 の 諸 宗 教

多の異なる意見なきに非ずと雖然かもランモハンローイ、ゲシャブキヤンダー、セン、ビ、シ、シ、モゾンダーおよび彼等の同勞者輩の如き人々に從へば此運動は鬼も角も有望なる將來を有するなり、

然れども階級制度は之れに代るべき確實なるものにして更に克く事物自然の眞理に適合するものが起り來るに非らざれば之れを滅絶する事能はず而かも階級制度の根據たる根本眞理——靈的人物は政權を握るべき神聖なる權利を有すと云ふ事從つて此靈的人物は世の汚穢を脱離するの必要ありと云ふ事——は之れを見認して印度人の生活に適合する政治もて之れが實現をつとめざる可からず蓋し願ふに此眞理たるや我聖經歴史にも之と等しき類例あるを見る而して階級制度は印度基督教會が此眞理を是認採用して之が實現につとむるによりて茲に始めて消滅するに至るべし見よアブラハムは幾多の國民の父と稱せらる彼はエホバが世界に與ふる大なる恵の工の媒介者たらんが爲めに家庭と親戚と世の交際とより分離せられたるに非ずや而して彼の家族はそれが分離の印として天よりの聖き證據をは與へられたり子孫次第に繁殖して周圍の諸國民と混合し其